

国際文化交流の評価手法開発研究 中間報告書

— 国際交流基金の韓国事業を対象とする第一次調査について —



JAPANFOUNDATION

独立行政法人 国際交流基金

2007年3月

目次

はじめに

I	研究の目的と中間報告書の構成	1
1.	研究の目的と問題意識	1
2.	中間報告書の構成	2
3.	研究調査実施体制	3
II	調査結果の概要	4
1.	研究対象の評価研究における位置づけ	4
2.	韓国の国別目標	5
3.	調査票設計のアイデアとデータ解析のデザイン	7
4.	調査実施概要	16
5.	質問紙調査結果の概要	17
5-1	サンプルの母集団に対する代表性	17
5-2	回答者の特徴	17
5-3	データ解析の考えかた	19
5-4-①	質問票の各領域（I～IV）間の相関関係	19
5-4-②	「一般」と「特殊」の関係	22
5-4-③	最小空間分析（Smallest Space Analysis）を用いた解析例	23
5-4-④	中央値回帰分析（Median Regression Analysis）を用いたデータ解析	28
5-4-⑤	単純集計	32
5-4-⑥	問11「国際交流基金について知っていることやイメージすることがありましたら、 どのような内容でも自由におっしゃってください」に対する自由記述回答結果	39
6.	自由面接調査結果 要旨	41
III	研究の成果・得られた知見・今後の課題	47
1.	評価調査手法に関わる研究成果	47
2.	質問紙調査を補うための、他の調査方法等との補完関係	49
3.	調査結果から得られる政策的インプリケーション	50
4.	評価手法の確立ならびに評価体制構築に向けての課題	52
5.	今後の予定（第二次調査の実施）	54
	資料編	55

はじめに

この報告書は、独立行政法人 国際交流基金が実施した「国際文化交流の評価手法開発研究－国際交流基金の韓国事業を対象とする第一次調査－」の成果をとりまとめたものである。

国際交流基金は、従来より国際文化交流事業の重要性を認識し、その評価に関する検討を進めてきたが、2003年(平成15年)10月に独立行政法人となって以降、評価の実施が制度的に義務付けられることになった。

国際交流基金が外務省独立行政法人評価委員会に対して行う業務実績報告(自己評価)は、(1)効率化評価、(2)事業分野別評価(文化芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流、情報収集・担い手支援、その他の5分野)、及び(3)国別評価(海外事務所を設置している主要18カ国及びロシア)の3つで構成されている。

このうち、効率化評価と事業分野別評価については、他団体の事例などを参照しつつ対応することがある程度可能であった。しかし国別評価については、国内のみならず海外の関連団体においても参照しうる先行事例が皆無に近い状態であったため、新たに評価手法を開発する必要が生じた。¹

国際交流基金では、まず2003年(平成15年)12月から2005年(平成17年)3月にかけて、桜美林大学総合研究開発機構と共同研究を実施し、国別評価固有の手法についての検討を行った。その成果は「国際交流基金国別評価に関する共同研究報告書」、及び「国際交流基金国別事業評価に関する共同研究に基づく提言」にまとめられている。今回の評価手法開発研究は、これらの研究成果ならびに提言を受け、具体的な評価研究調査の実施方法、ならびに評価手法を確立することを目指して開始されたものであり、そのための第一次調査として、韓国を対象に調査研究を実施した。

「評価」は、納税者に対して明確な説明責任を果たすための材料を提供するとともに、政策決定や業務遂行に関わる問題発見と改善の手がかりを提供するという意味があることが従来より指摘されている。しかし、国際文化交流という文化的背景を異にする社会や人々との間で行われる事業や活動を評価するにあたっては、いかに、またどこまで異文化社会における実態を把握・推論しうるのかという大きな問題が残されている。評価「手法」の開発は、この変動著しい国際社会環境の中で、いかに対象社会を理解するかという、国際相互理解の実践という側面も併せ持つものである。

本報告書は、韓国における第一次調査結果を中心にその成果と課題をとりまとめたものだが、国際文化交流をはじめとして、広く異文化社会を対象に事業や活動を実施する諸団

¹ 海外の国際交流関連団体では、現在英国のBritish Councilが定量的評価手法としてperformance score cardを用いた評価システムを導入している。しかし国際交流基金が評価研究を開始した時点では、British Councilの評価システムもまだ試行調整の段階にあった。

体ならびに人々にとって何らかの参考になるとともに、議論の出発点を提供しうることを願うものである。

尚、本研究調査の実施に際しては、質問紙調査やインタビュー調査等において各方面の方々に大変お世話になった。特に、関西学院大学の真鍋一史教授には、研究開始当初から本調査研究実施メンバーに加わっていただき、調査票設計から分析に至るまで懇切丁寧なご指導とご協力をいただいた。また調査データのコンピュータ処理については流通科学大学の栗田真樹教授にご協力を賜った。ここに記して深く感謝申し上げたい。

2007年3月

独立行政法人 国際交流基金
企画評価部

I 研究の目的と中間報告書の構成

1. 研究の目的と問題意識

国際交流基金の評価手法開発研究は、国際交流基金が外務省独立行政法人評価委員会に対して行う業務実績報告（自己評価）：(1)効率化評価、(2)事業分野別評価〔文化芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流、情報収集・担い手支援、その他の5分野〕、(3)国別評価のうち、(3)の国別評価のための評価手法の開発を目的として実施されているものである。

評価研究の領域においては、さまざまな評価調査の手法が開発されてきているが、国際文化交流という文化的背景を異にする社会や人々を対象として実施される事業や活動の成果（効果や影響）を把握・測定する方法については、十分にその方法が確立されているとは言いがたい。

従って、本研究は、最終的には国際交流基金が実務として実施する評価のシステムを構築することを視野に入れているものの、それに先立ち、異文化社会において国際文化交流に関する事業や活動の成果を把握・測定するための研究調査方法を確立することを第一義的な目的としている。

文化の交流は人と人との間で行われるものであり、良きにつけ悪きにつけ、常に予想のつかない結果を生じさせるものである。目的に掲げた結果を得るために努力するとともに、意外性が生み出す「創造」の強みやポジティブな側面を生かしていくには、それらを柔軟に「成果」としてとらえていく評価の発想と方法を考えることもまた必要である。

《なぜ質問紙調査を行うのか？》

今回の評価調査研究では質問紙調査と自由面接調査を組み合わせ実施した。

国際文化交流に関わる事業は実に幅広い目的をもつものであり、また活動や事業の成果が現れるまでには長い年月を要する場合もある。このような性格をもつ国際文化交流事業の成果をはたして定量的な手法で把握できるのかどうかは常に議論されてきたところである。

また国際文化交流活動に従事している立場からすれば、「質問紙調査に対して人々は本当に正直に答えるのだろうか。歴史的・政治的に困難な関係にある国であればあるほど、嘘をつくつもりはなくとも正直には反応できないといった事情もある。また交流事業の積み重ねがある国ほど、日本についての知識や情報は豊富にあり、加えて情報化が進んでいる今日、交流事業によって生じる「変化の幅」は小さくならざるをえない。そのような地域において成果や満足度を定量的にとらえることは妥当なのだろうか」等々、質問紙調査という方法に対する疑問や不安も提起されてきた。

このような問題と疑問をかかえつつも、今回、質問紙調査手法の開発に取り組もうとしたのには以下のような理由がある。第一に、近年アンケート調査など質問紙を用いた社会調査が数多く実施され、中には方法論的に問題があるものも少なくない。にもかかわらず調査結果（とくに単純集計結果）は大きな影響力をもち、様々な政策判断の根拠にされる傾向がある。文化的背景を異にする社会や人々を対象として行われる文化交流活動の成果を把握するには、相手方の「認識」をどのようにとらえるかという社会科学上の難問があり、単純集計結果は出発点ではあるものの、それだけに基づいて考えると現実をとらえそこなう危険性もある。そこで、社会調査研究、とくに質問紙調査研究における最新の学術的知見に基づき、「認識」の問題を十分考慮に入れた、国際文化交流の評価に適した調査票のデザインや分析方法を確立することが必要だと考えた。

また、質問紙調査は、あくまで一時点における事業の結果や効果をとらえるための方法である。したがって「プロセス」や長い時間を経た後に生じる効果や影響をとらえることはできない。また、横断的調査（cross-sectional research）のデータ解析によって把握できるのは、ものごとの相関関係（変数間の相関関係）であって因果関係ではない。このような方法上の制約や限界をふまえた上で、国際文化交流活動の評価に際して質問紙調査という方法を何をどこまで明らかにすることができるのかを整理し、質問紙調査という方法や調査結果データを、その可能性の範囲内で、より正確かつ有効に利用するための基礎をつくることも必要であろうと思われた。

韓国における第一次調査は以上のような目的と問題意識のもとで実施されたものである。

2. 中間報告書の構成

本中間報告書は、2006年2月に実施した「韓国における第一次調査」の目的、分析結果、ならびにそこから得られた知見・課題について検討・報告する本編（Ⅰ～Ⅲ）と、質問紙調査の調査票や集計結果等の資料を付した「資料編」から成っている。

- Ⅰ 研究の目的と中間報告書の構成
- Ⅱ 調査結果の概要
- Ⅲ 研究の成果・得られた知見・今後の課題

【資料編】

- 資料1 日本語版調査票
- 資料2 韓国語版調査票
- 資料3 スケールの作成
- 資料4 単純集計結果
- 資料5 自由記述回答の内容（問11）

3. 研究調査実施体制

真鍋一史（関西学院大学教授、日本学術会議連携会員）

岡本真佐子（国士舘大学教授、国際交流基金客員研究員）

一寸木英多良（国際交流基金企画評価部）

大宮朋子（国際交流基金リサーチアシスタント）

Ⅱ 調査結果の概要

1. 研究対象の評価研究における位置づけ

本研究は、独立行政法人国際交流基金〔以下、基金と表記〕の業務実績報告における(1)効率化評価、(2)事業分野別評価、(3)国別評価のうち、(3)の国別評価の評価手法開発を目指している。評価研究分野においては、評価の対象や実施時期等によって、さまざまな分類・整理が行われている。その中で、今回の開発対象が主にどの部分にあたるかを示したのが、下表である。

【評価の分類と今回の研究対象】

対 象 別		時期・段階別
○事業評価 組織の設立目的や理念、社会的使命実現の手段としての事業を全体として評価対象とするもの	事業評価の中の評価対象 ○プログラム評価 ・個別事業（project） ・プログラム（ある目標に向けて実施される個別事業の束）	○事前評価 年度始めや企画計画段階など、活動や事業の実行前に行う評価
○組織評価 組織の体制、財務面を評価対象とするもの	○プロセス評価 プログラムが稼動してからの一連の意思決定や事務手続きが適切であったか否かを評価するもの ○費用対効果の評価 コスト・ベネフィット分析 コスト・イフェクティブネス分析	○期中評価 年度期中や事業実施中など、活動や事業の実行途中に行う評価 ○事後評価 年度終了後や計画終了後など、活動や事業の実行後に行う評価

今回の研究対象
(この部分を「国別」の
観点から研究)

片山正夫「助成財団のプログラム評価1-4」（『公益法人』Vol.24, No.5-8、1995）、「NPO 活動の発展のための多様な評価システムの形成に向けて」（平成13年度内閣府委託調査報告書）、「評価のすすめ」（笹川平和財団、2001）等を参照して作成

評価に関わる用語は、研究者によってその分類や概念が異なり、同じ言葉を用いても意味する内容が異なる場合がある。先の表において、「プログラム評価」とは、「特定のテーマと戦略に基づいて行われた複数の事業について、その成果を評価するもの」という意味で用いている。

また、プログラム評価は「分野別」の観点からも、「国別」の観点からも実施することが可能であり、今回の研究においては「国別」の観点から、すなわち国別に掲げられた事業の目標・目的に照らし合わせて、その成果を評価するという立場をとっている。

2. 韓国の国別目標

事業の成果を「評価する」には、まず掲げられた目的・目標があり、事業を実施した結果それらの目標・目的がどの程度達成されたかをとらえることが必要となる。現在国際交流基金において、韓国における事業の目的・目標を知る手がかりとなるのは次の各文書だが、このうち(3)は2006年3月に策定されたものであるため、今回の評価調査研究を実施する時点ではまだその結果をとらえることはできない。そこで、(1) (2)のみ具体的内容を記しておく。

- (1) 中期計画（国別）
- (2) 各年度の事業計画
- (3) 日韓文化交流5ヵ年計画

(1) 中期計画（国別）

- ・若者が親しみを覚える魅力的な現代文化紹介とともに、伝統文化も含めた総合的な日本文化紹介。アジアの草の根交流促進、中学・高校教員交流等による多様な市民交流の支援
- ・多様なニーズに対応し、日本語教育・日本研究に対する継続的な支援
- ・日韓及び多国間の多様な分野における知的交流の充実
- ・「日韓国交正常化40周年」のような交流の節目を捉えた事業の実施
- ・国内における韓国文化紹介事業の実施及び支援。参加・共同作業型事業の企画。中国等第三国を交えた多国間事業の推進
- ・在外公館等との連携。地方における効果的な事業展開

(2) 2005年度（平成17年度）事業計画

2002年のワールドカップ・サッカー大会及び日韓国民交流年の成果を踏まえつつ、日韓両国民が、共通性のある互いの文化・伝統に対して相互理解を深めることにより日韓関係を一層発展させるため、幅広い分野で緊密な交流を進めるため、以下の点に留意しつつ事業を実施する。

1. 総合的な文化芸術交流と多様な市民交流の推進

- (1) 「日韓共同未来プロジェクト」等を踏まえ、若年層を主要な対象として、造形美術、舞台芸術、映像出版を始めとする各種文化芸術交流事業を実施することにより、若者が親しみを覚える魅力的な現代文化を中心に伝統文化も含めた総合的な日本文化を紹介する。
- (2) 市民青少年交流助成事業、中学高校教員交流事業等により引き続き多様な市民交流の支援を行う。

2. 日本語教育・日本研究に対する継続的支援

- (1) 多様なニーズに対応し、日本語教育・日本研究に対する支援を引き続き実施するため、ソウル日本文化センターによる日本語教育支援事業も活用しながら、日本語教師研修、日本語教材制作支援、各種日本研究事業、フェロシップ供与等を実施する。
- (2) 中等教育レベルの日本語教員のレベルアップ、教員のネットワーク化に重点的に取り組む。

3. 多様な分野における知的交流の推進

- (1) 各種の日本研究、知的交流事業等を活用し、日韓及び多国間の多様な分野における有識者の派遣・招へい事業、各種知的交流事業を実施、支援する。

4. 事業実施における考慮事項等

- (1) 日韓国交正常化40周年記念事業「日韓友情年2005」の機会を捉えて事業を実施する。
- (2) 参加・共同作業型の事業を企画するとともに、中国等第三国を交えた多国間の事業も行う。
- (3) 在外公館等との連携を図り、効果的な事業実施に努める。特に、かかる連携を通じ、地方における効果的な事業展開を図る。

これらは事業の「計画」であり、目的や目標を記したものではない。そこで計画の内容から目的や目標を抽出するため、韓国事業に関わるスタッフからの聞き取り等を行ったが、調査票を設計しうるほど明確には、事業目的や目標を把握することができなかった。

そこで、基金法第三条に記してある基金の目的（独立行政法人国際交流基金は、国際文化交流事業を総合的かつ効率的に行うことにより、我が国に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進し、及び文化その他の分野において世界に貢献し、もって良好な国際環境の整備並びに我が国の調和ある対外関係の維持及び発展に寄与することを目的とする）に基づき、韓国における基金の活動や事業と、韓国の人々の基金ならびに日本に対する行動や意識との関係を軸に、調査票が設計された。

また、質問紙調査においては社会調査法上の正確性を期すことに特に留意するとともに、学術研究としての新たな手法の利用を試みた。次節では、今回の評価研究の主要な部分をなす調査票設計のアイデアについて述べる。

3. 調査票設計のアイデアとデータ解析のデザイン

今回の「評価調査」の目的は、基金がAccountabilityの責務を果たすということだけに限定されるわけではない。それは、国際文化交流機関は、今の時代と社会のなかであって、どのようなものとしてあらねばならないかについて、実証的な側面からする新しい探究のあり方を示すということである。また、もう一つの独自の意義について述べるならば、それは「評価研究」における未開拓の問題領域に踏み込む試みという点にある。いうまでもなく「評価研究」はアメリカ合衆国ではすでに半世紀を越える歴史をもっており、日本はこれに大きく遅れを取るものの、1990年以降になってアメリカ合衆国での研究成果の紹介を中心に多くの書籍・論文が出てくることとなる。〔たとえば、山谷（1997）、Harty, H. P.（1999）、伊多波（1999）、大住（1999、2002）、島田（1999）、山田（2000）、龍・佐々木（2000）、小野・田淵（2001）、石原（2004）、田所・城山（2004）、中井（2005）など〕²

今回の調査票設計は、これらの先行研究における問題点、あるいは未開拓性を克服する

2 山谷清志『政策評価の理論とその展開－政府のアカウントビリティ－』晃洋書房、1997

Harty, H.P., *Performance Measurement: Getting Results*, Urban Institute Press, Washington, D.C. 1999

伊多波良雄『これからの政策評価システム－評価手法の理論と実際－』中央経済社、1999

大住荘四郎『ニュー・パブリック・マネジメント－理念・ビジョン・戦略－』日本評論社、1999、『パブリック・マネジメント－戦略行政への理論と実践－』日本評論者、2002

島田晴雄、三菱総合研究所政策研究部『行政評価－スマート・ローカル・ガバメント－』東洋経済新報社、1999

山田治徳『政策評価の技法』日本評論社、2000

龍慶昭、佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』改訂版、多賀出版、2000

小野達也、田淵雪子『行政評価ハンドブック』東洋経済新報社、2001

石原俊彦監修、監査法人トーマツ『新行政経営マニュアル－イギリスのNPMに学ぶ－』青文社、2004

田所昌幸、城山英明『国際機関の日本－活動分析と評価－』日本経済評論社、2004

中井達『行政評価－費用便益分析から包絡分析法まで－』ミネルヴァ書房、2005

ことを課題として取り組まれたものである。

これまでの評価に関する先行研究における問題点としては、少なくとも次の点があげられるであろう。

- ① 「評価調査」は、政策(policy)、施策(program)、事業(project)の「結果」あるいは「効果」の評価を捉えるというところに焦点をあわせて企画されてきた。政策・施策・事業の「結果」あるいは「効果」という場合、それは事業という人間活動を行なう主体の意図したことが、その事業の対象である客体において実現したかどうか、ということが問われることになる。ところが社会学的視座からするならば、あらゆる人間活動については、主体の意図は必ずしも常に明確なわけではないということがある。また「意図せざる結果」ということもある。意図についてのチェック・リストは必ずしも完全なものではないし、そのような意図をはるかに越えた結果が現れることもある。
- ② 再び社会学的視座からするならば、「効果」と「影響」という言葉の概念的区別が重要な意味をもつことになる。一般に、「効果」は「行為の主体の意図あるいは目標という志向性」において、また「影響」は「行為の客体の関連あるいは意味という関係性」において理解される（真鍋一史『広告の社会学』〔増補版〕、日経広告研究所、1994、p.23、p.53）。そうだとするならば基金の意図や目標を離れて、人びとはそれぞれの主体的な目的のために自由に基金の事業・活動・サービスを利用し、それによって満足を得ているといえるかもしれない。こうして、ここでも「意図せざる結果」が出てくることになる。——「意図せざる結果」という用語は、Robert Mertonによって用いられたunintended consequencesに由来するものである（ロバート・マートン著、森東吾ほか訳『社会理論と社会構造』みすず書房、1961年pp.16-21、p.118）。また「利用と満足」という考え方は、Elihu Katzらによって提案されたマス・コミュニケーションの影響研究における分析視座である（Elihu Katz and Michael Gurevitch, *The Secularization of Leisure*, Faber & Faber, 1976, pp.215-243）——。

以上の①②の問題点から、今回の「質問紙調査」を「問題発見的」あるいは「探索的」な試みとして位置づけることの重要性が理解されるのである。そのような位置づけをしたうえで、今回の「質問紙調査」では、できるかぎり、上述のような側面をも考慮に入れて調査票の設計がなされた。³

3 他に留意すべき点として以下の点をあげておきたい。

- ① 今回の「質問紙調査」は、longitudinal surveyではなく、一時点での調査であり、したがってprocessを捉えようとするものではない。
- ② 「質問紙調査」のデータ解析によって捉えられるのは本来「相関関係」であって、「因果関係」ではない。
- ③ 「質問紙調査」は、いわゆる「方法論的個人主義」（「方法論的全体主義」に対比される）の考え方に立つ技法であり、個々人を対象に調査を行なうものであり、したがって社会の制度的側面を直接に捉えることはできない。そのため、このような「質問紙調査」は「自由面接調査（インタビュー調査）」によって補完される必要がある。

つぎに、調査票設計の基本的な考え方について述べていく。いうまでもなく、調査のデータ解析は調査票設計と表裏一体の関係にある。調査票設計の際に、すでにしてデータ解析のアイデアと方向が考慮に入れられる。このアイデアと方向を、ここでは評価調査のための「しかけ」と呼ぶことにする。

さて、そのように「しかけ」は、「調査の仮説的図式」に示されているので、以下においては、この図式を用いて、その「しかけ」について説明していきたい。

ただ、それにさきだって、どうしても述べておかなければならないことがある。それは、「質問紙調査」をめぐる方法論的問題である。その詳細については、真鍋一史「社会調査と社会学理論——質問紙法による社会分析の革新をめざして——」『先端社会研究』（第3号）、関西学院大学出版会、2005年、pp.209-235、を参照されたいが、ここでは少なくとも、つぎの点を指摘しておきたい。それは、これまで質問紙調査の結果については、質問項目ごとの回答の分布(frequency)、いいかえれば「単純集計」にのみ焦点が合わされる傾向があったということである。もちろん「単純集計」は重要で、あらゆるデータ解析の出発点であることは間違いない。しかし、人びとの「ものの見方・考え方・感じ方・行動の仕方」など、一般に「意識」と呼ばれる人間の現象を捉えようとする「質問紙調査」のデータ解析については、そのような「単純集計による回答の分布の記述」を越えて、さらに「質問諸項目間の関係の分析」に進むことこそが重要である。それによって、はじめて人びとの意識の「ひだ」が解明されることになるからである。

さて、「仮説的図式」についての「しかけ」であるが、これは人びとの「意識（ここではオリエンテーションという用語を用いている）」の「対象」——つまり、それが「日本」であるか、それとも「基金」であるか——と、「内容」——つまり、それがinvolvement（その対象に自分をどの程度かかわらせているかという関与の側面で、温度計などの計器との比喻でいえば、一方の端に0ポイントがあるmeasurement）であるか、それともattitude（その対象に対する好き⇔嫌い、賛成⇔反対、よい⇔わるいなどの意識の方向の側面で、これら両極の中間に0ポイントがあるmeasurement）の2つの側面を組み合わせで構成されている。このような「仮説的図式」にもとづいて、質問諸項目が具体的に選ばれ、そのwordingが吟味されるのである。

じつは、このような「仮説的図式」の構成は、social measurementについての先駆的研究者であるLouis Guttmanの考察したFacet Approachの考え方を踏まえたものである。なお、Facet Approachについては、真鍋一史「ファセット：ファセット・デザイン、ファセット・アナリシス、ファセット・セオリー」（『ファセット理論と解析事例』ナカニシヤ出版、2002年、pp.1-12）および真鍋一史『社会・世論調査のデータ解析』（慶応義塾大学出版会、1993年）を参照されたい。

では、このようなFacet Approachを踏まえた「仮説的図式」の基本的なアイデアがどのようなものかということ、それはいわゆる「実験計画法」の考え方と軌を一にするものである。

具体的にいうならば、それは質問紙調査のデータ解析の焦点を「質問項目に対する回答の分布の記述」から「質問諸項目間の関係の分析」へと移していく場合に、その関係の分析は、そこで分析される2つの質問項目の①「対象」が同じで「内容」が異なる——たとえば、いずれもその対象が日本についての質問で、しかしそれぞれ日本についてのinvolvementとattitudeの質問というようにその内容が異なるケース——か、あるいは②「内容」が同じで「対象」が異なる——たとえば、いずれもその内容がinvolvementの質問で、しかしそれぞれその対象が日本と基金というように異なる質問のケース——というケースにおいてのみ意味がある（つまり、「対象」も「内容」も異なる、というようなケースにおいては意味がない）という考え方である。

調査の仮説的図式

オリエンテーションの対象 オリエンテーションの内容	日 本	国際交流基金
Involvement	Q 2 日本体験 Q 3 日本情報 Q 4 日本関心 Q 5 日本について知っているか	Q 9 訪問・利用機関 Q 10 基金を知っているか Q 11 基金イメージ Q 12 基金情報「度」 Q 14(A) 基金事業・活動に対する関心 Q 15 基金コンタクト経験および 基金事業・サービス利用経験 Q 16(A) 基金コンタクト Q 17 基金事業・活動参加
Attitude	Q 6 日本イメージ Q 7 日本人イメージ Q 8 日本は好きか	Q 13 基金の活動は役立っているか Q 14(B) 基金事業・活動に対する評価 Q 16(B) 基金コンタクト満足

では、質問項目間の関係の分析を行なう場合、なぜこのような考え方をしなければならないのであろうか。それは、いうまでもなく、「対象」と「内容」の両方が異なる、というケースにおいては、それら2つの質問項目間の関係を分析しても、その分析の結果がいずれの要因によってもたらされたものであるかを判断することが不可能となってしまうからである。

ここで「仮説的図式」をより簡便な形で示すならば、つぎのようになる。

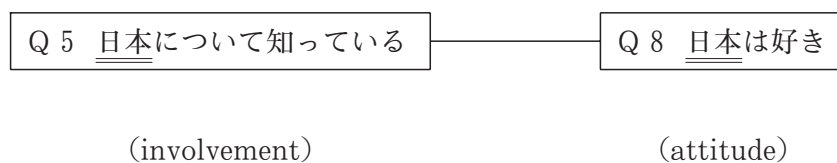
オリエンテーションの対象 オリエンテーションの内容	日本	基金
Involvement	I	III
Attitude	II	IV

さて、基金の事業・活動・サービスの評価を調査するという場合、一般的にはIVの領域

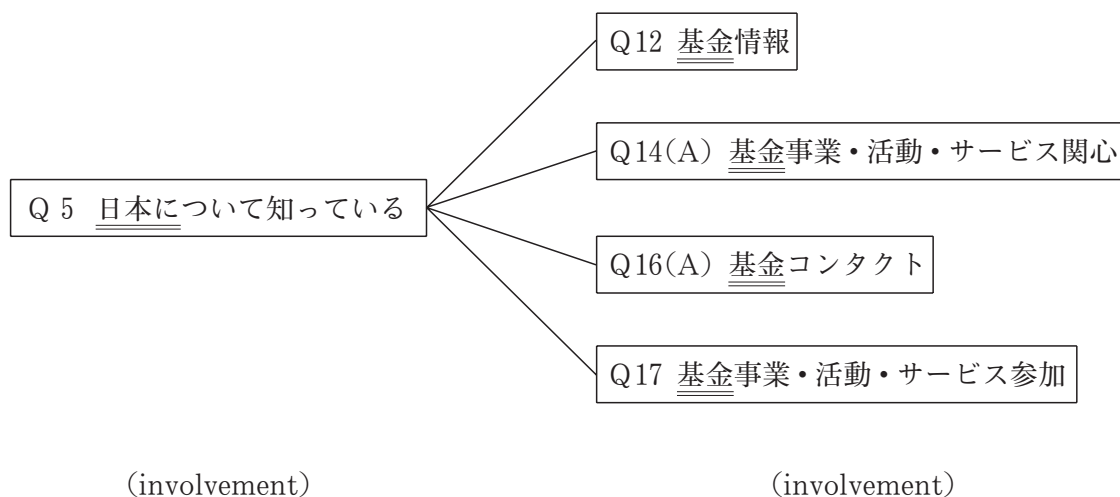
の質問項目が準備されることになる。それが、直接的な評価項目であることは間違いない。しかし、それらの項目のみで評価調査を進めるならば、そのような評価研究はきわめて視野の狭いものとなってしまふ。そこで、今回の評価調査では、その企画の段階において、IVの領域の質問諸項目の分析を、さらに広く、I、II、IIIの諸領域の質問諸項目との関連において進めていくというアイデアを採用したのである。そのようなアイデアを以下において、より具体的に説明していきたい。

すでに述べたように、「仮説的図式」の縦の枠内の項目どうしの関係、あるいは横の枠内の項目どうしの関係は意味のある分析といえるが、斜めの枠内の項目どうしの関係の分析は意味のある分析とはいえない。こうして、今回の調査では以下の4種類の仮説にもとづいて、4種類の諸項目群間の関係の分析が企画された。

- (i) 「Iの領域の諸項目」と「IIの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説①「日本に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、日本に対する『好感度・評価度』が高まる」。）

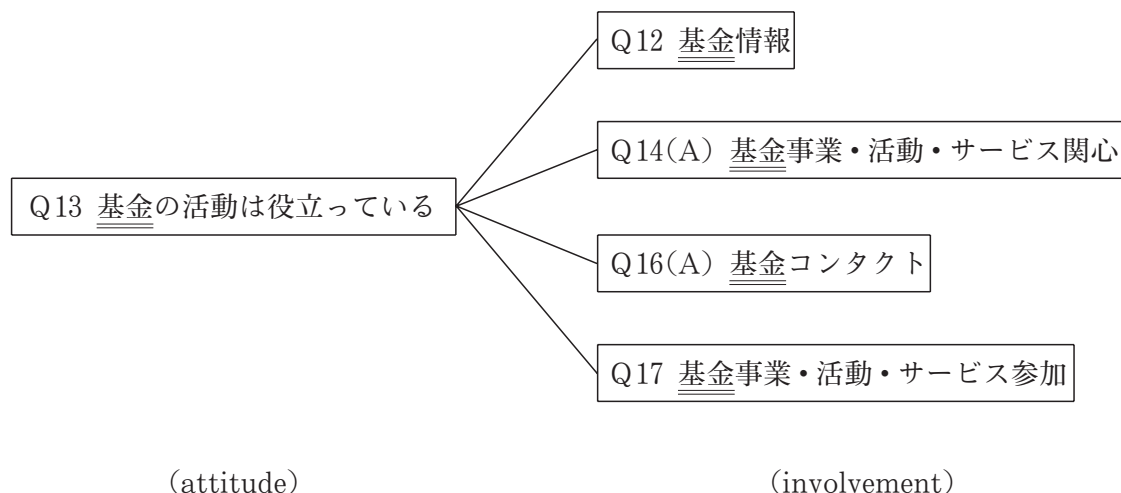


- (ii) 「IIIの領域の諸項目」と「Iの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説②「JFに対する『認知度・関与度』が高まるとともに、日本に対する『認知度・関与度』が高まる」。）

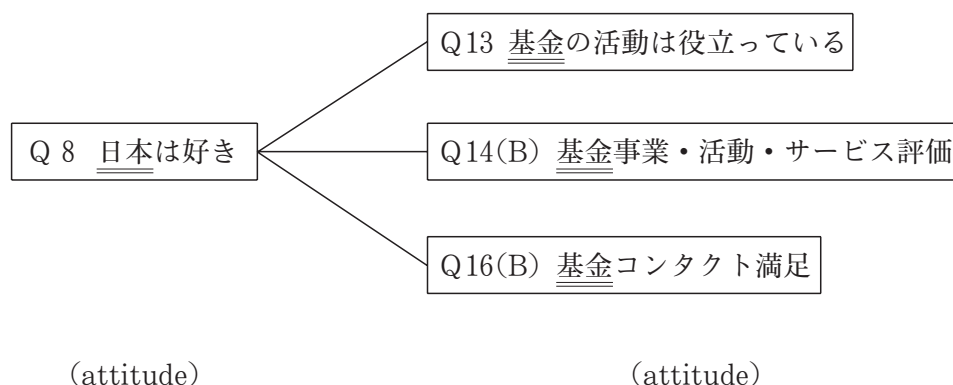


- (iii) 「IIIの領域の諸項目」と「IVの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説③「基金

に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、基金に対する『好感度・評価度』が高まる。』)



(iv) 「IVの領域の諸項目」と「IIの領域の諸項目」との関係の分析 (←仮説④「基金に対する『好感度・評価度』が高まるとともに、日本に対する『好感度・評価度』が高まる。』)



以上が、今回の評価調査の質問紙作成に際して考慮された「しかけ」の一部である。つまり、ここでは、基金の韓国における事業・活動・サービスの評価を捉えようとする場合、IVの領域の質問諸項目によって、人びとの基金の事業・活動・サービスへの直接的な評価を測定するにとどまらず、基金への「かかわり合い」とおして、一方でそれが契機となって日本への「かかわり合い」の機会がもたらされるとともに、他方でそれによって日本への「ポジティブな意識」が生まれてくるというストーリーを仮説的に考えているのであり、そのような仮説こそがいわば基金の事業・活動・サービスの間接的な評価につながるものである。そのような仮説の検証 (つまり、質問諸項目間の関係の測定) をも視野に入れた分析を行なうのである。

ここで、再び注意しておかなければならないのは、以上の諸仮説が「～高くなるほど～高くなる」という因果命題の形で表現されているにもかかわらず、これら諸仮説の検証を

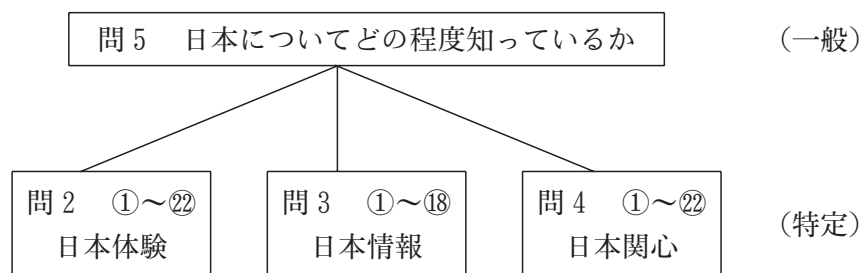
ねらってなされるデータ解析では「相関係数」の算出という方法が用いられているという点である。今回のデータ解析では、われわれは「相関関係の確認をとおして、因果関係を推論する」(安田三郎『社会調査ハンドブック』有斐閣、1960年、p.16)という方法論的立場に立っているのである。

さて、ここで、「調査の仮説的図式」に示した評価調査の「しかけ」について、もう少し詳細に説明しておきたい。この「仮説的図式」が、人びとのオリエンテーションの「対象—つまり、基金と日本—」と「内容—つまり、involvementとattitude—」を組み合わせることで構成されたものであるということはすでに述べた。そこで、つぎに、なぜオリエンテーションの対象として「基金」と「日本」を選び、また、なぜその内容として「involvement」と「attitude」を選んだかについても説明しておかなければならない。

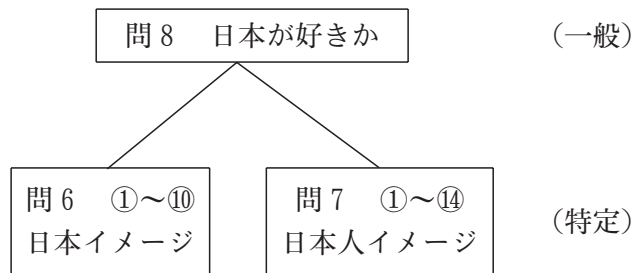
まず、前者の側面については、基金の事業・活動・サービスの目的が「我が国に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進する」(独立行政法人国際交流基金法第3条)ことにあることを考えるならば、調査における評価項目として、「基金という特定の対象に関する項目」と「日本という一般的な対象に関する項目」が選ばれた理由は、ただちに理解されるであろう。

この「一般的な対象」と「特定の対象」という軸(次元)の考え方については、今回の調査設計においては、日本と基金という側面で用いられているだけでなく、さらに以下のように、I、II、III、IVのそれぞれの領域内の諸項目についても同様の考え方が採用されているのである。

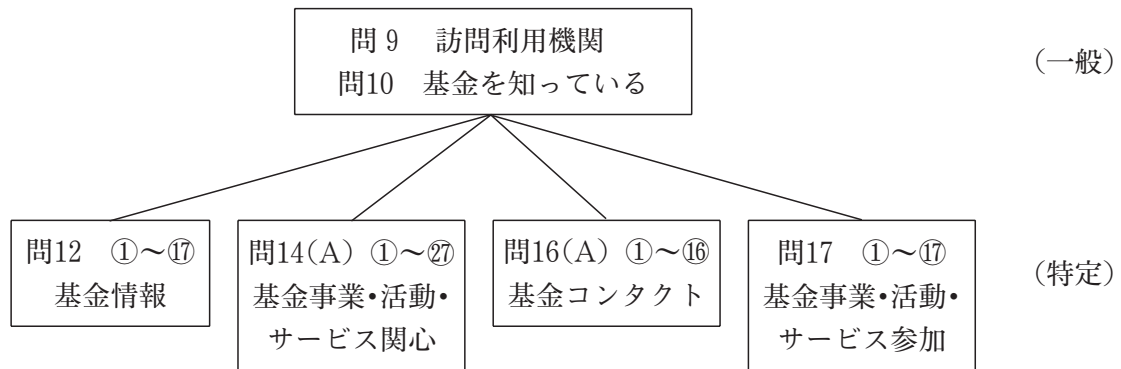
(i) Iの領域



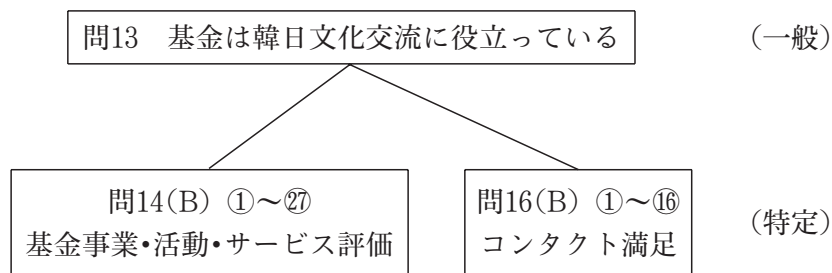
(ii) IIの領域



(iii) IIIの領域



(iv) IVの領域



今回の評価調査で、以上のような「一般」⇔「特定」という軸を設定したのは、両者の間にはどのような関係が見られるであろうか、といった問題関心があったからである。日本では、古くから「坊主（一般）憎けりゃ、袈裟（特定）まで憎い」ということわざがあるが、逆に「坊主（一般）好きなら、袈裟（特定）まで好き」といういい方も成り立つかもしれない。このような心的構造が、今回の韓国調査においても捉えられるかどうかといったことは、きわめて興味深い分析課題といえよう。

つぎに、後者の側面については、これまで質問紙調査という方法を用いて抽出されてきた人びとのオリエンテーションの内容としては、involvementとattitudeのほかにも、closure、intensity、intelligence、normなどの諸次元がある。にもかかわらず、ここでinvolvementとattitudeという2つの次元のみを取りあげたのは、この2つの次元が評価調査においてきわめて重要な位置を占めるものであると考えるからにほかならない。しかし、だからといって、ほかの次元に意味がないというのではなく、そのような諸次元についての探求も、今後に残された重要な課題であることはいうまでもない。

最後に、今回の評価調査のデータ解析において採用したもう一つのアイデアについても、説明しておきたい。それは、すでに述べたⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの諸領域のすべての質問項目について、それらをscaleを構成するものとして用いるか、それともpatternを構成するものとして扱うか、ということである。scaleとpatternについてはさまざまな定義があるが、「多次元のことをpattern、1次元のことをscaleと呼ぶ」（飽戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社、1987年、p.98）のが一般的な考え方といえる。

つぎに、今回の質問項目を用いて、この2つの行き方をより具体的に説明しておこう。たとえば、問3では、「あなたは日本についての情報や知識をどこから入手していますか」と尋ねて、新聞記事、テレビ番組、インターネットなど18の選択肢をあげている。そこで、scaleの方法は、回答者ごとにそれら選択肢につけられた○の数を数えて、それを0～18までのscale上に位置づけていくというやり方であり、それに対してpatternの方法は、これら選択肢を、たとえば「印刷メディア」「電波メディア」「ニューメディア」「インターネット・コミュニケーション」などにグループ化して、カテゴリ変数として分析していくやり方である。いうまでもなく、これら2つの方法にはそれぞれ一長一短がある。これらは、データ解析の問題関心に合わせて、「問題発見的」あるいは「探索的」に使用されることが望まれるのである。

以上が今回の韓国における第一次調査のための調査票設計についての考え方である。質問紙調査によって把握しようとするのは、「客観的現実 (objective reality)」というよりは「主観的現実 (subjective reality)」であること、また韓国調査においては日本と基金を対象として、基金に対する知識、関心、態度と日本に対する知識、関心、態度がどのように関係しているのかを探ろうとし、その際に involvement と attitude という二つの次元を選んで調査分析を行ったという点を改めて確認しておきたい。

4. 調査実施概要

韓国における第一次調査においては、質問紙調査と自由面接調査を実施した。質問紙調査は、国際交流基金ソウル日本文化センターのある韓国ソウル特別市において実施し、一般市民と基金利用者に分けて訪問面接調査を行い、両者を比較する実験計画法を用いた。調査実施概要は以下のとおりである。

(1) 質問紙調査

- ① 調査実施時期：2006年2月24日～3月14日
- ② 調査対象地域：韓国ソウル特別市
※基金利用者についてはソウル特別市以外の居住者をも調査対象者に含めた。
- ③ 調査対象者とサンプル数：一般市民 1,012名、基金利用者 301名 計1,313名
基金利用者の内訳：図書館利用者(88)
日本語講座受講経験者(109)
フェロウシップ等基金公募事業関係者(104)
- ④ 実査委託先：韓国ギャラップ(Gallup Korea)社
- ⑤ 一般市民を対象とした質問紙調査の方法

【標本抽出法等】

- ・地域層化確率標本抽出法
- ・回収数 1,012
- ・使用言語 韓国語

【地域層化確率標本抽出の詳細】

2005年の人口統計に基づき、ソウル特別市の人口比率に合わせて層化。

ソウル特別市内の125の調査地点を人口比率に合わせて比例配分し、1地点で8サンプルをとり、合計標本数を1,000とした。

(2) 自由面接調査

基金が実施している主要な事業3分野を選び、それぞれの領域において基金事業に関わった人々が具体的にどのような活動をどのような意味で評価しているのかを把握するために、自由面接調査を実施した。

- ① 実施時期：2006年3月15日、16日
- ② 実施場所：ソウル
- ③ 自由面接調査対象者 3名

【日本研究・知的交流分野】有力シンクタンク日本研究センターセンター長

【日本語教育分野】高校日本語教員で構成される日本語教育研究会の全国組織幹部

【文化・芸術交流分野】現代美術フリーキュレーター

5. 質問紙調査結果の概要

5-1 サンプルの母集団に対する代表性

韓国統計庁の人口データ（地域別、年齢別、産業別）を基に、今回の「調査対象者（一般市民）」の「母集団」に対する代表性を確認した結果は下記のとおりである。サンプルの母集団に対する代表性は、40歳代と30歳代の女性の割合が高く、20歳代の男性の割合が低いという点を除いては、かなり高い精度で確保されていると言える。

ソウル市人口と調査対象者

		ソウル市人口		調査対象者	
性別	男	3,576,872	49.3%	469	49.8%
	女	3,673,068	50.7	473	50.2
年齢別	20歳代	2,029,000	28.0	205	21.8
	30歳代	1,754,034	24.2	232	24.6
	40歳代	1,558,070	21.4	248	26.4
	50歳代	1,027,856	14.2	149	15.8
	60歳代	571,365	7.9	84	8.9
	70歳代	233,384	3.2	24	2.5
	80歳代～	76,227	1.1	0	0.0
計		7,249,936	100.0	942	100.0

	男				女			
	ソウル市人口	ソウル市%	調査対象者数	調査対象者数%	ソウル市人口	ソウル市%	調査対象者数	調査対象者数%
20歳代	1,031,976	28.8	115	24.5	997,024	27.1	90	19.0
30歳代	892,694	25.0	106	22.6	861,340	23.5	126	26.8
40歳代	754,263	21.1	98	20.9	803,807	21.9	150	31.8
50歳代	514,789	14.4	77	16.4	513,067	14.0	72	15.2
60歳代	276,780	7.7	58	12.4	294,585	8.0	26	5.5
70歳代	85,901	2.4	15	3.2	147,487	4.0	9	1.9
80歳代～	20,469	0.6	0	0.0	55,758	1.5	0	0.0
	3,576,872	100.0	469	100.0	3,673,068	100.0	473	100.0

5-2 回答者の特徴

デモグラフィック項目のうち、年齢、性、職業、学歴について、今回の調査対象者の4カテゴリー（一般市民、図書館会員、日本語講座受講者、フェロシップ関係者）をチェックした結果は下記の通りである。尚、分析の際に「386世代」の動向に着目したいという理由から、年齢区分は、18歳～35歳、36歳～45歳、46歳以上、に区分した。³

³ 韓国において90年代に30代になり、民主化運動の盛んだった80年代に大学生活を送った、60年代生まれの世代のこと。現代韓国社会において、文化、経済、政治の各方面で影響力をもつ世代だと言われている。

デモグラフィック要因で見る調査対象者の4カテゴリーの特徴

① 「年齢 (Q1)」

一般市民	18～35歳と46歳～の割合が高い。
図書館会員	18～35歳の割合が高い。
日本語受講者	18～35歳の割合が高い。
フェローシップ	36～45歳と46歳～の割合が高い。

② 「性 (D1)」

一般市民	男女の割合がほとんど同じ。
図書館会員	女の方が男よりやや多い。
日本語受講者	女が男の3倍強。
フェローシップ	男が女の2倍にせまる。

③ 「職業 (D2)」

一般市民	最も多いのは「主婦 (25%)」、つぎに「自営業 (18.2%)」「事務 (17.9%)」「学生 (14.6%)」「販売・サービス (9.7%)」とつづく。
図書館会員	「事務 (40.9%)」が最も多く、つぎは「専門 (26.1%)」。そして「学生 (11.4%)」「無職 (12.5%)」。
日本語受講者	「事務 (58.7%)」が最も多く、つぎは「学生 (10.1%)」「無職 (10.1%)」「主婦 (9.2%)」「専門 (8.3%)」。
フェローシップ	「専門 (62.5%)」が最も多く、つぎは「事務 (37.7%)」。

④ 「地域 (D3)」

一般市民	ソウルが99.9%
図書館会員	95.5%
日本語受講者	83.5%
フェローシップ	55.8%

⑤ 「学歴 (D4)」

一般市民	大学 (43.2%)、高校 (41.2%)
図書館会員	大学院 (29.6%)、大学 (61.4%)
日本語受講者	大学院 (28.4%)、大学 (69.8%)
フェローシップ	大学院 (83.7%)、大学 (15.4%)

5-3 データ解析の考えかた

今回のデータ解析の基本的な考え方は、いきなり「木を見る」のではなく、まずは「森を見る」ところから始めるというものである。一般に質問紙調査のデータ解析においては、まず広く全体的なデータの構造や関連を把握（「森を見る」）した上で、次にデータの特定の側面に焦点を合わせてより深い分析を試みる（「木を見る」）という行き方をとる（鮑戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社、1987年、p.95参照）。

本調査の分析においては、前述の「調査票設計のアイデア」において示された「調査の仮説的図式」に基づいて、そこで示された仮説を検証するとともに、「一般」と「特殊」の関係を探ることが、まず「森を見る」分析にあたる。

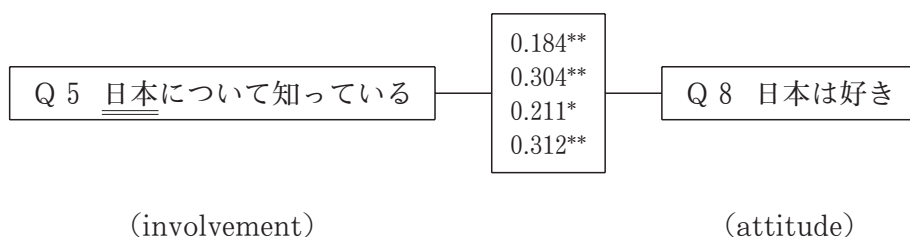
調査結果の概略を示す次節（4-4-①～4-4-④）では、「データの結果」を簡潔に記すこととし、データ結果の解釈や、そこから導き出される政策的インプリケーションについては、「Ⅲ研究の成果・得られた知見・今後の課題」の中で検討することとする。

分析に際してのスケールの作成 → 【資料編 3】

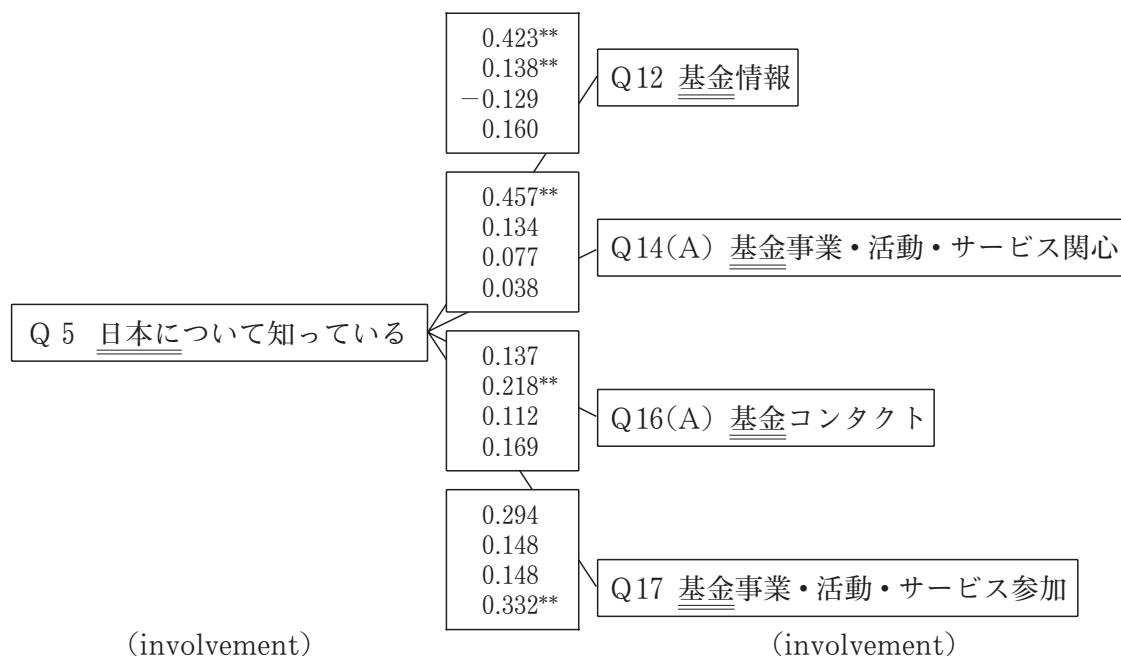
5-4-① 質問票の各領域（Ⅰ～Ⅳ）間の相関関係

中央の□の中にあるのが相関係数であり、数値は上から「一般市民」、「図書館利用者」、「日本語講座受講経験者」、「フェロシップ等基金公募事業関係者」の順である。（相関係数の数値が大きいほど相関が高いことを示す。数字の右肩にあるアスタリスクはデータの有意水準であり、相関の確率の高さを示している。）

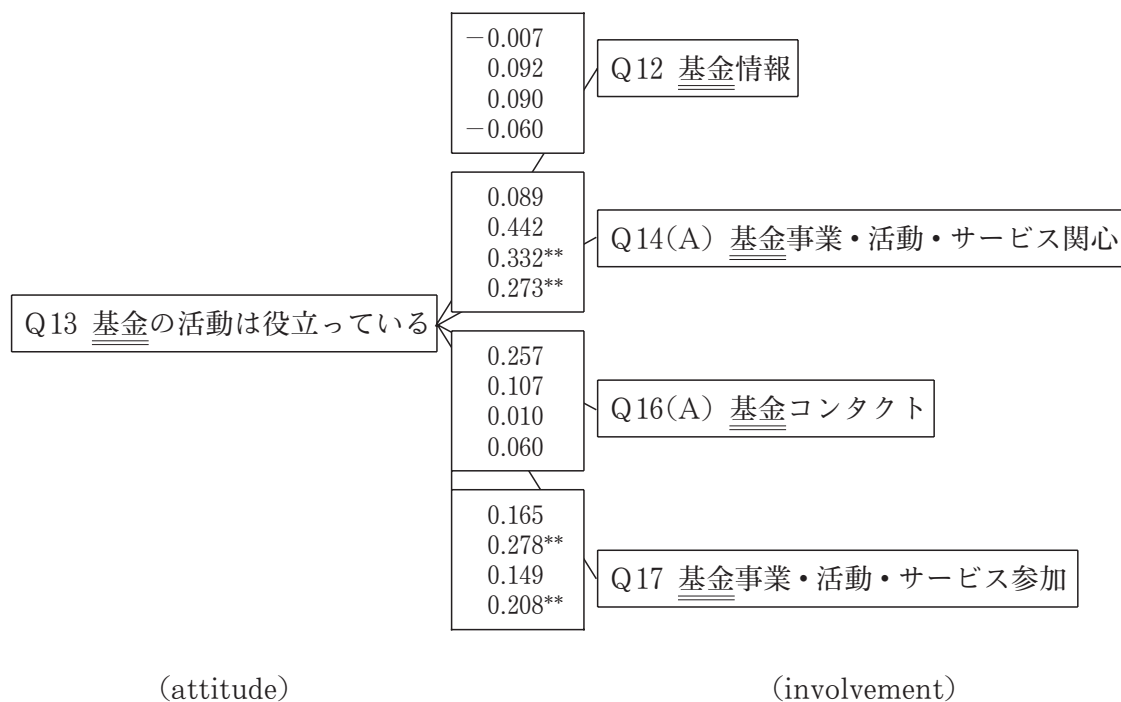
(i) 「Ⅰの領域の諸項目」と「Ⅱの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説①「日本に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、日本に対する『好感度・評価度』が高まる」。）



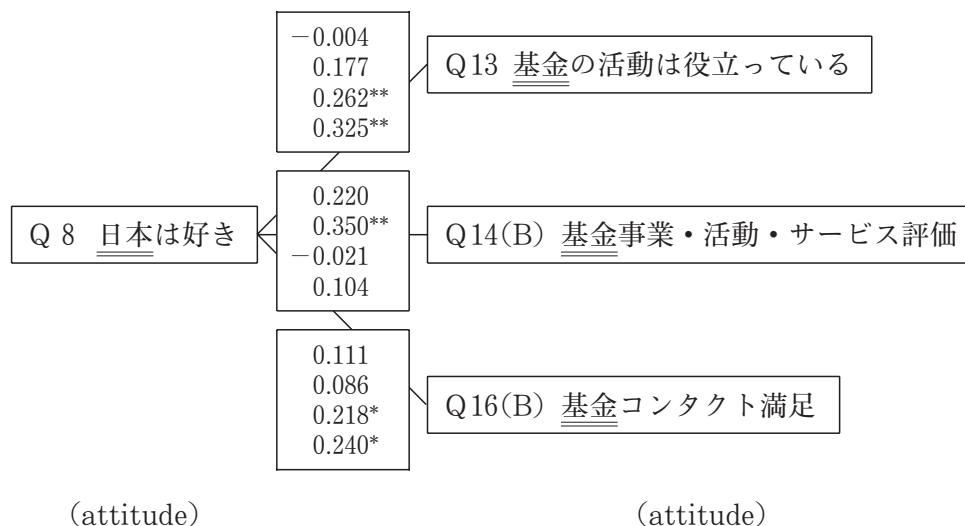
(ii) 「Ⅲの領域の諸項目」と「Ⅰの領域の諸項目」との関係の分析 (←仮説②「JFに対する『認知度・関与度』が高まるとともに、日本に対する『認知度・関与度』が高まる」。)



(iii) 「Ⅲの領域の諸項目」と「Ⅳの領域の諸項目」との関係の分析 (←仮説③「基金に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、基金に対する『好感度・評価度』が高まる」。)



(iv) 「IVの領域の諸項目」と「IIの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説④「基金に対する『好感度・評価度』が高まるとともに、日本に対する『好感度・評価度』が高まる」。）



・調査票を設計する際の仮説的図式においては、基金の事業・活動・サービスの評価をとらえようとする場合、基金への「関わりあい (involvement)」を通して、一方でそれによって日本への「関わりあい」の機会が深化されるとともに、他方でそれによって日本への「感情的意識 (attitude)」がポジティブな方向に転嫁されるという仮説的なストーリーを立て、それを検証しようとした。

(i)~(iv)の結果から、概して、基金の事業や活動に関心をもち、参加したと答える人々は基金の事業や活動を評価していると答える傾向がある (iii) と同時に、日本についても知識や関心を持っていると答える傾向がある (ii)。また、基金の活動を評価し、それに満足していると答える人々は、日本が好きと答える傾向がある (iv) ことが分かる。したがって、この基金の事業や活動が、それに関わった人々からは評価されており、同時にそのことが日本という国に対する好感度を高めることにもつながっていると推論することができ、仮説は検証されたと言える。

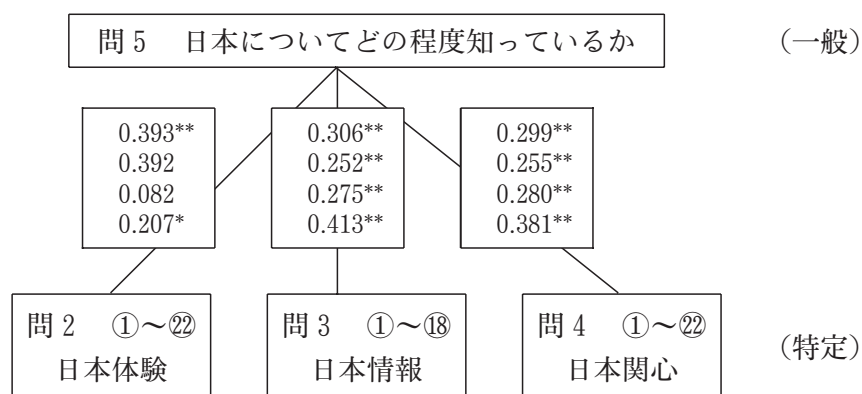
・involvementとattitudeという次元の関係を問題にする場合、国や地域によっては、ある対象に対する知識が増えたからといって、それが好感度にはつながらないという結果が出る場合もある。今回の調査においては「involvement：認知度・関与度」が高くなることと「attitude：好感度・評価度」が上がることとの間には正の相関があることが確認できた。つまり、現時点においては、韓国における基金の事業をより一層拡大・充実させることが、好感度や評価という面でポジティブな結果につながる可能性が高いと言える。

5-4-② 「一般」と「特殊」の関係

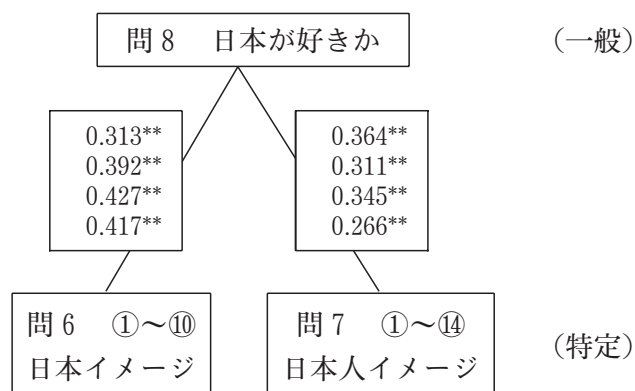
今回の調査票設計の一部には、「一般-特殊」の関係を探る仕掛けが用いられている。これは対象の「一般的側面（全体的イメージなど）」と「特殊的側面（個別のアイテム）」の間にどのような関係が見られるのかを探るものであり、「一般」が「特殊」を規定するのか、あるいは「特殊」が「一般」を規定するのかといった関係を推論できる。

今回の調査に即して言えば、日本や基金について「知っている」あるいは「好きである」といった知識や態度についての意識（一般）は、通常なんらかの個別具体的体験や知識（特殊）を通して形成されると考えられるので、それらの間にはいかなる関係が見られるのか、また「特殊」が「一般」を規定する（基金の活動や日本についての個別具体的な体験や知識、評価や満足等が貴基金や日本に対する知識や満足、イメージに関するポジティブな意識を形成していると考えられるか）を探ろうとするものである。

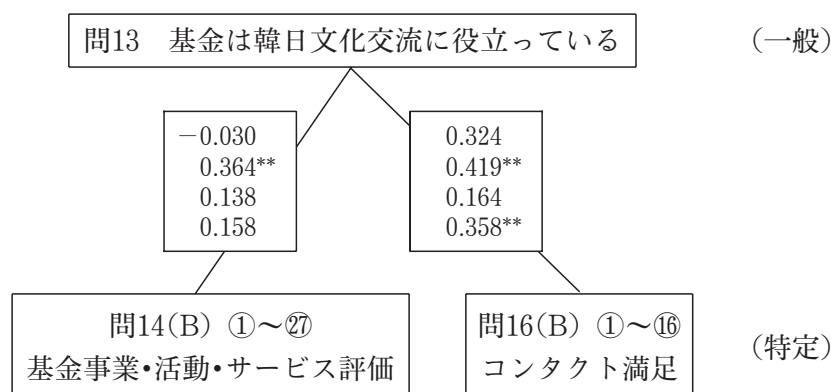
(i) Iの領域



(ii) IIの領域



(iv) IVの領域



- ・概して、さまざまな日本体験をし、広く日本に関する情報に接し、日本に対しておしなべて関心を持つと答える人々は、「日本を知っている」と答える傾向がある。(i)
- ・日本や日本人に対してポジティブなイメージをもつ人々は、「日本を好き」と答える傾向がある。(ii)
- ・基金へのコンタクトにおいて満足が高いと答える人々は、「基金は韓日文化交流に役立っている」と答える傾向がある。(iv)

以上より、概して、基金の活動や日本についての個別具体的な体験や知識、評価や満足等は、基金や日本に対する知識や満足、イメージに関するポジティブな意識を形成していると言いき、「特殊」が「一般」を規定していると考えられる。

たとえば(iv)の結果において、「基金へのコンタクト満足が高い」と答えることと、基金の活動が韓日文化交流に役立っている」と答えることとの間に、かなり高い相関が見られることは当たり前のことのように思われるかもしれない。しかし、日本に来た外国人留学生が、日本人や日本社会との接触が増えるにつれて、日本人や日本社会に対してネガティブな意識をもつようになることがあったり、政治家を知れば知るほど政治不信に陥ることがあるなど、個別具体的な経験や意識の側面と、ある対象に対する一般的なイメージや知識の側面とがどのような関係にあるのかをアприオリに想定することはできない。従って、データ分析の考え方とところに記した「森を見る(全体像をとらえる)」という観点から言えば、基金の事業や活動、ならびに日本については、個別具体的な体験や経験、満足等が、基金事業や日本に対するポジティブな意識を形成することにつながっているという全体的傾向が把握できたことは意味があると考えられる。

5-4-③ 最小空間分析 (Smallest Space Analysis) を用いた解析例

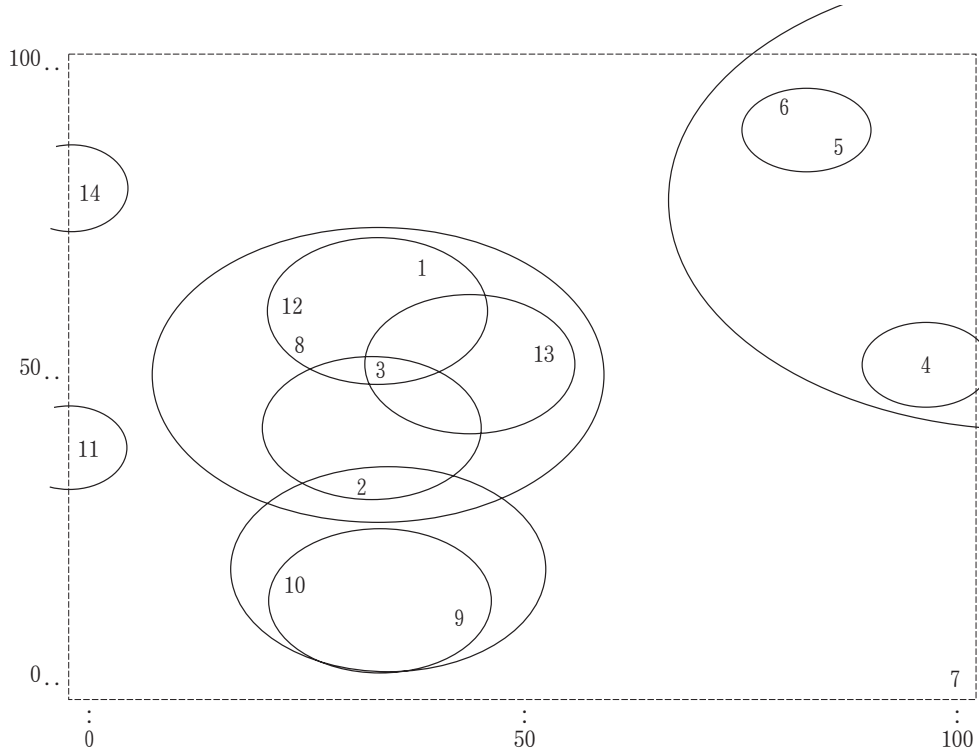
最小空間分析とは、複数の項目間の相関関係の大きさを空間上の距離に置き換えて眼に見えるようにしたものである。相関関係が大きい(強い)ほど、空間上の距離が小さくな

る、つまり、距離の近い項目どうしは相関関係が大きいということになる。

今回の調査データでは、問9 訪問・利用したことがある機関 と、問17 参加したことのある基金事業 の二つについて最小空間分析を行った。

問9の場合には、たとえばAとBの2点間の距離が小さければ、「Aを訪問する人はBも訪問する」傾向があると考えられ、問17の場合であれば、「Aというイベントに参加する人は、Bにも参加する」傾向があると考えることができる。この分析方法を用いることで、単純集計の分析だけでは捉えきれない、人々の行動パターンを探り出すことができる。

<問9のSmallest Space Analysis>



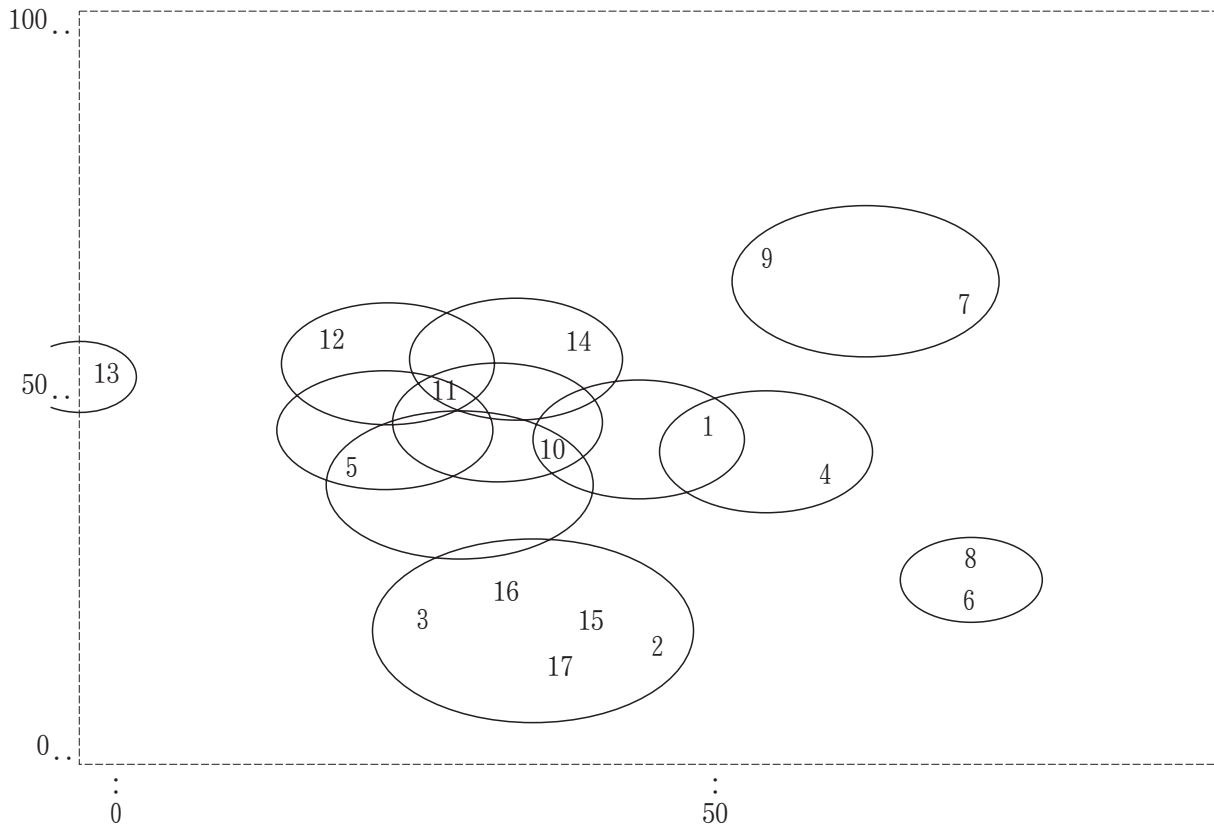
ソウル中心部略図



問9のSmallest Space Analysis：SSAから

- このSSAは一般市民を含む回答者全体の傾向を示すものである。
- SSAの結果と、訪問機関の位置を記したソウルの地図を比較してみると分かるように、地図上の空間的距離が離れている機関であっても、SSAの結果では訪問者が重なる傾向を見せている場合もあれば、地図上の空間的距離が近いにもかかわらず、SSAの結果では訪問者が重ならない場合もある。
- 国際交流基金ソウル日本文化センター〔以下、基金ソウル日本文化センター〕と英国文化院は同じビルの3Fと4Fに位置しているが、訪問者はほとんど重なっていない。他方フランス文化院とドイツ文化院は、地理的には離れているが、訪問者の相関は高いことがわかる。
- 基金ソウル日本文化センターを訪問する人は、日本文化院（公報文化院）、日本自治体国際化協会ソウル事務所、日韓文化交流基金も訪問するという傾向がある。
- 日本関連機関の中でも国際観光振興機構ソウル事務所や日本貿易振興機構ソウルセンターを訪問する人と基金ソウル日本文化センターの訪問者の間の相関は弱い。また、基金ソウル日本文化センター訪問者は日本学生支援機構ソウル日本留学情報センターの訪問者とも重なっていない。
- 在韓国日本大使館、日本貿易振興機構ソウルセンター、国際観光振興機構ソウル事務所を訪問する人は、基金ソウル日本文化センターをあまり訪問していない。

<問17のSmallest Space Analysis>



- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 日本の伝統工芸展・人形展 | 9. 日本語弁論大会 |
| 2. 日本の現代グラフィックデザイン展・ポスター展 | 10. 日本に関する講演会 |
| 3. 日本の現代美術展 | 11. 日本あるいは韓日関係に関する国際学術会議 |
| 4. 日本映画・アニメーションの上映会 | 12. フェローシップ |
| 5. 日本の現代舞踊公演 | 13. 韓日の市民団体（NPO）交流事業 |
| 6. 日本語講座 | 14. 韓日の青少年・学生交流事業 |
| 7. 日本語教師研修事業 | 15. 韓日を含むアジアの漫画展 |
| 8. 日本語能力試験 | 16. 韓日を含むアジアの現代美術展 |
| | 17. ソウル日本文化センター図書館の利用 |

問17のSmallest Space Analysis：SSAから

- このSSAは一般市民を含む回答者全体の傾向を示すものである。
- 日本語教師研修事業に参加する人は日本語弁論大会にも参加する傾向が高いが、この人々はその他の事業にはあまり参加しない傾向がある。
- 日本語講座受講者は日本語能力試験を受験するが、その他の事業にはあまり参加していない。
- 市民団体交流事業に参加する人は、その他の事業にはあまり参加しない傾向がある。
- 基金ソウル日本文化センターの図書館を利用する人は、デザインや美術、漫画などの展覧会に参加する傾向がある。

- ・知的交流事業に関心のある人々、芸術文化関連事業に関心のある人、日本語に関心のある人々の間で、それぞれ参加する事業に偏りがあることがわかる。特に日本語に関する事業に参加する人々は、知的交流や芸術文化関連事業にあまり参加しない、という傾向が明確に見て取れる。

5-4-④ 中央値回帰分析 (Median Regression Analysis) を用いたデータ解析

中央値回帰分析とは、クロス集計表から「中央値 (メディアン)」をつないで回帰線 (直線あるいは曲線) を描く方法である。

相関係数の値は、回答がU字型になっている場合と、散布図で示すと座標上に広く偏りなく分布している場合で、データの意味がまったく異なるにも関わらず、いずれのケースも相関係数は0となる。Median Regression Analysisを用いると、二つの変数間の関係がmonotone (分岐点で折れ曲がっていない、およそ直線を描いている) であるか、polytone (分岐点で折れ曲がっている、U字型やM字型等を示す) であるかを簡便にとらえることができる。

また、Median Regression Analysisを使うと2変数間の関係においてどの領域 (変数の組み合わせ) の回答がもっとも数が多いのかを一目で把握できるという利点もある。

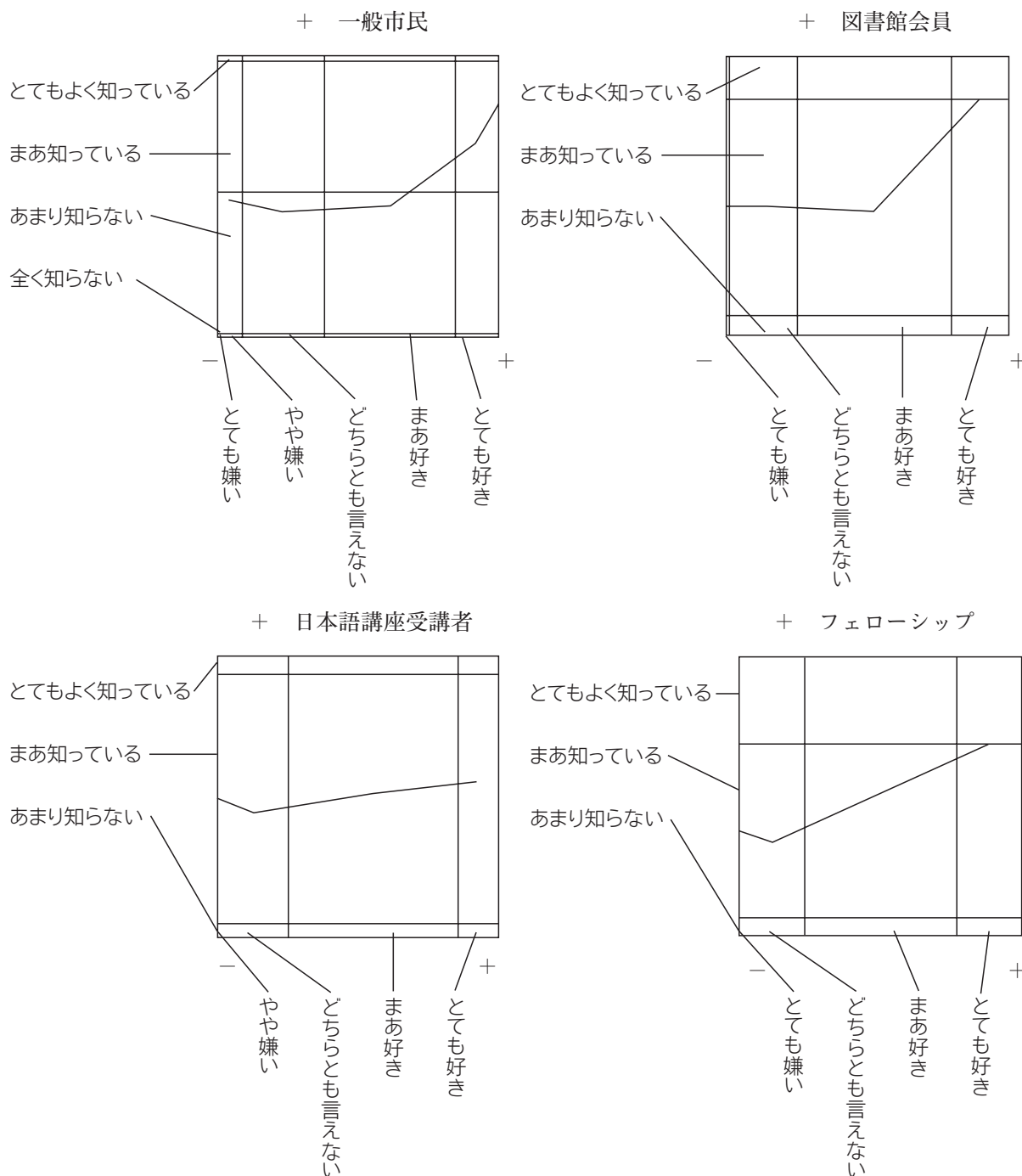
《問5と問8のMedian Regression Analysis》

縦軸：問5 日本についてどの程度知っているか

横軸：問8 日本が好きか嫌いか

※Median Regression Analysisの図の見方

下の図を参照。縦軸は「日本についてどの程度知っているか」を示し、4つに分割された領域は、上から順にそれぞれ「とてもよく知っている」「まあ知っている」「あまり知らない」「まったく知らない」と回答した人の割合に基づいて分割されている。このデータでは「まあ知っている」および「あまり知らない」と答えた人の割合が高いことが一見してわかる。横軸は「日本が好きか嫌いか」を示し、左から順にそれぞれ「とても嫌い」「やや嫌い」「どちらともいえない」「まあ好き」「とても好き」と回答した人の割合に基づいて分割されている。(このデータでは、「とても嫌い」の回答者数が極めて少なかったため、最も左の枠がほぼ直線のようにになっている。) ここでも一見して「まあ好き」と回答した人の割合が高いことがわかる。グラフは問5と問8の2変数間の関係を示している。



問5と問8の 相関係数	一般市民	図書館会員	日本語講座受講者	フェローシップ
	r=0.184	r=0.304	r=0.211	r=0.312

- 相関係数からすると、一般市民と日本語講座受講者については「日本について知っている」という回答と、「日本は好き」という回答との間にある程度の相関が見られ、図書館会員とフェローシップ関係者の場合には両者の間にかなり高い相関が見られるという結果になっている。しかし、たとえば一般市民の場合、問5の回答は多くが「日本につ

いてあまり知らない」というところに偏っており、「日本についてまあ知っている」と答える人々になると一気に日本に対する好感度が高くなっている。この「日本についてまあ知っている」と回答した人々に限って言えば、問5と問8の間にはかなり高い相関が見られる。それに対して、日本語受講者はほとんどの回答者が「日本についてまあ知っている」と答えているが（約88%）この部分のグラフはほぼ横ばいになっており、日本について「知っている」と答える人が「日本を好き」と答えるかどうかという点では、相関は低い。

- データの結果とは別に、政策的なインプリケーションという観点から考えると、一般市民については日本についての知識と好感度との間には、ある一定の知識量以上になるとはっきりと相関が出ていることから、日本について「全く知らない」あるいは「あまり知らない」と回答しているような人々に対して、日本情報の提供をどのようにはかっていくかを検討する余地がある。また日本語講座受講者については、日本について知っていることと、好きであると答えることとの間があまり結びついていないのはなぜか、という点について、より詳細に検討する必要があると思われる。

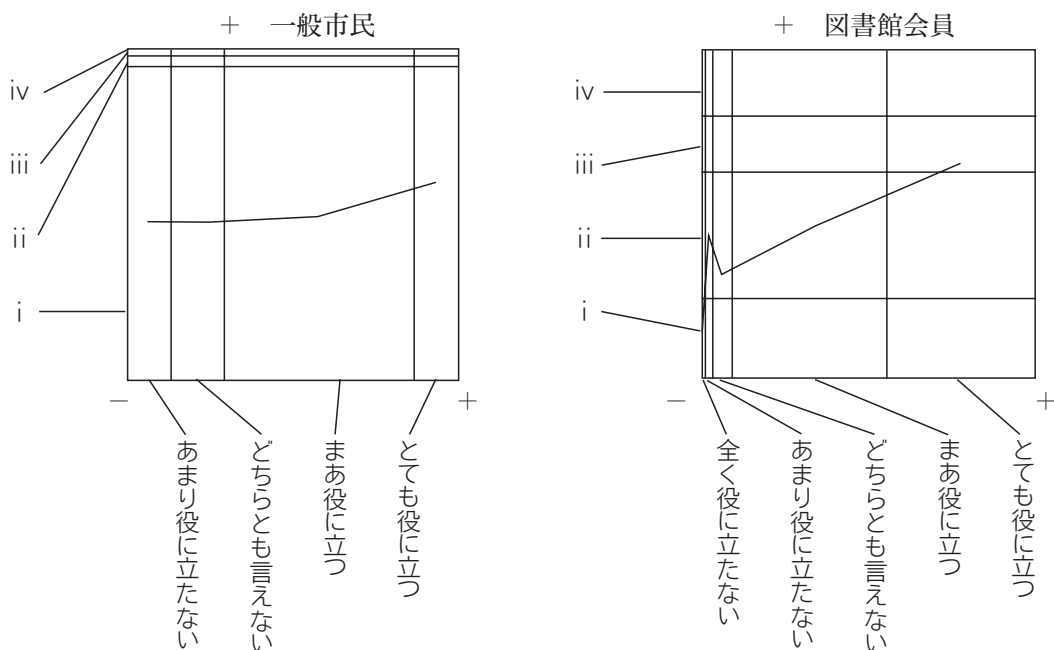
《問17と問13のMedian Regression Analysis》

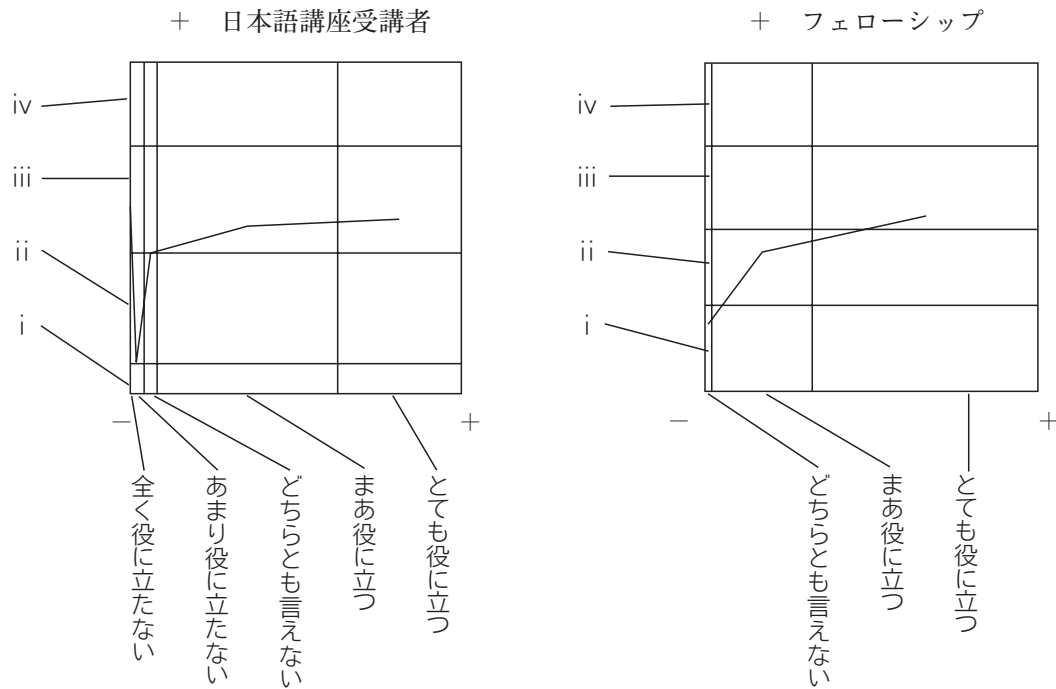
縦軸：問17 基金事業・活動参加「度」

横軸：問13 基金の活動は役立っているか

※下図の見方については P31の「Median Regression Analysisの図の見方」を参照。

縦軸は基金の事業・活動にどの程度参加したと回答したかを示しており、17の選択肢のうち、i：0～1項目を選択、ii：2～3項目を選択、iii：4～5項目を選択、iv：6項目以上を選択した回答者の割合である。





問13と問17の 相関係数	一般市民	図書館会員	日本語講座受講者	フェローシップ
	r=0.165	r=0.278	r=0.149	r=0.208

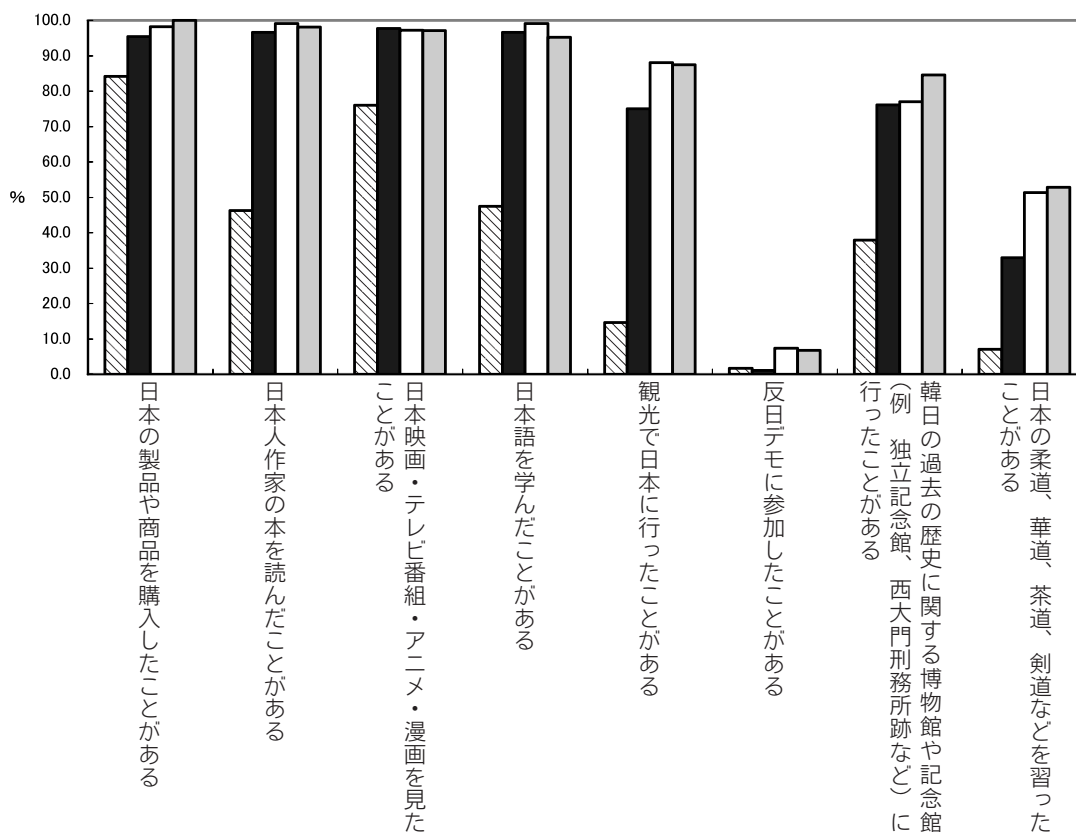
・図書館会員は、基金の事業や活動におしなべて参加していると答える人々ほど、基金の活動が役立っていると答える傾向がある。日本語講座受講者については、回答者の多くが基金の活動は「とても役に立つ」「まあ役に立つ」と答えているが、基金の事業や活動への参加との相関は弱い。

5-4-⑤ 単純集計

次に、単純集計結果、ならび各設問の中にある「その他」の項目の回答について記しておく。

単純集計結果 → 【資料編 4】

問2 日本についての体験・経験



▨ 一般市民(n=1012)

■ 図書館(文化情報室)の会員(n=88)

□ センターの日本語講座受講経験者(n=109)

▣ フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者(n=104)

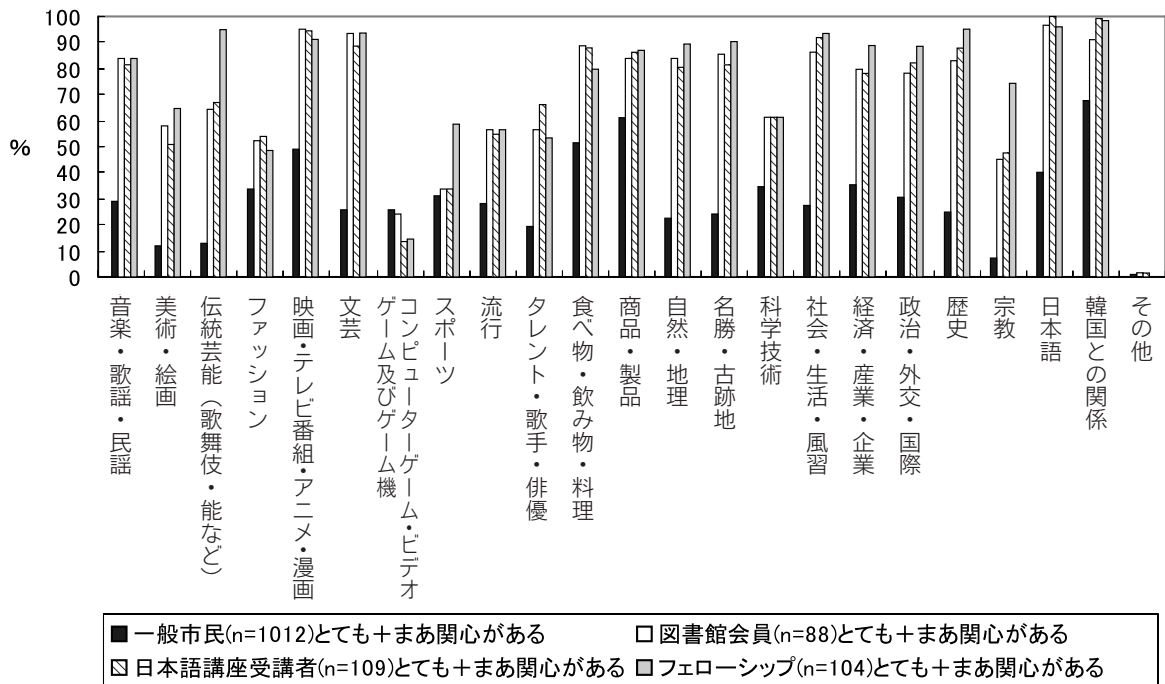
- すべての項目について基金利用者のほうが概して体験・経験の度合いが高く、日本について広く関心をもっている。「反日デモに参加したことがある」という項目についても、一般市民よりも基金利用者（センターの日本語講座受講者、フェローシップ等公募事業関係者）のほうが参加の度合いが高い。

問3 日本についての情報・知識源（全19項目の内、上位5項目）

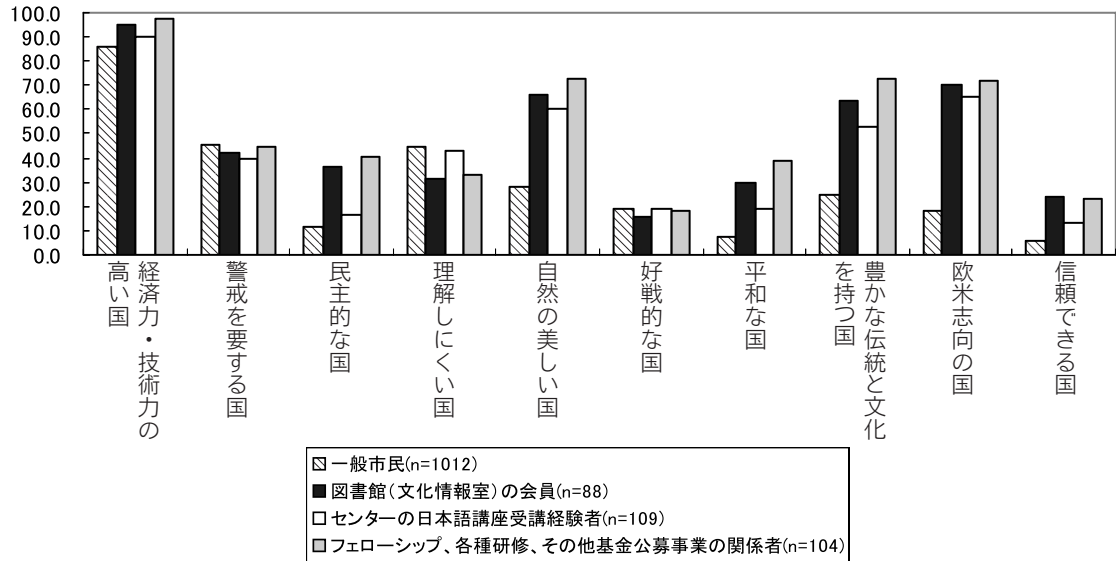
	一般市民（n=1012）	図書館（文化情報室）の会員（n=88）	センターの日本語講座受講経験者（n=109）	フェロシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者（n=104）
1.	テレビ番組（80.4%）	国際交流基金ソウル日本文化センター（86.4%）	国際交流基金ソウル日本文化センター（80.7%）	本（88.5%）
2.	（印刷された）新聞記事（54.7%）	本（79.5%）	インターネット（78.0%）	インターネット（82.7%）
3.	インターネット（39.3%）	テレビ番組（69.3%） インターネット（69.3%）	テレビ番組（77.1%）	テレビ番組（80.8%）
4.	本（33.0%）	（印刷された）新聞記事（64.8%）	インターネット新聞（74.3%） 本（74.3%）	雑誌記事（76.9%）
5.	友人・知人・職場の同僚から聞いて（29.5%）			（印刷された）新聞記事（76.0%）

- ・一般市民は、テレビ番組や新聞等、どちらかという受動的な媒体から日本に関する情報・知識を得ている人が多く、基金利用者は基金ソウル日本文化センター、本、インターネットなど、どちらかという能動的に働きかけて日本に関する情報・知識を得る傾向がある。

問4 日本の事柄についての関心

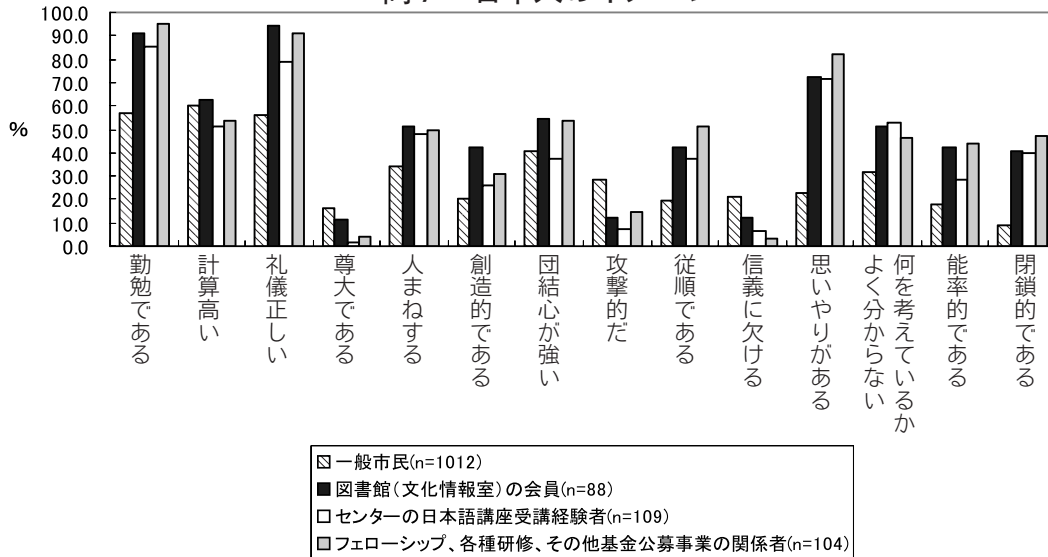


問6 日本のイメージ



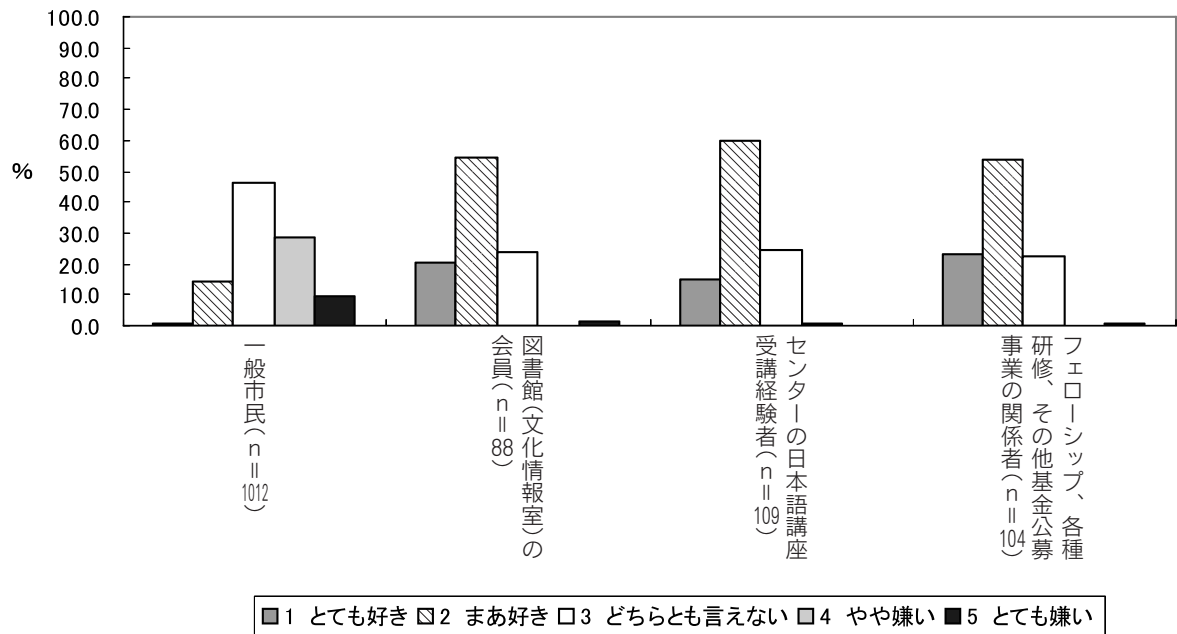
- 一般市民、基金利用者ともに、経済力・技術力の高い国というイメージを持つ人の割合がもっとも高い。
- 一般的傾向としては、選択肢のうちポジティブな内容のものについては一般回答者に比べて基金利用者の方が「そう思う」と答える割合が高くなっている。しかし「警戒を要する国」と「理解しにくい国」「好戦的な国」という項目については一般と基金利用者の差がほとんどない。また「欧米志向の国」という項目については、一般の20%弱が「そう思う」と答えているのに対して、基金利用者は70%以上が「そう思う」と答えている。

問7 日本人のイメージ

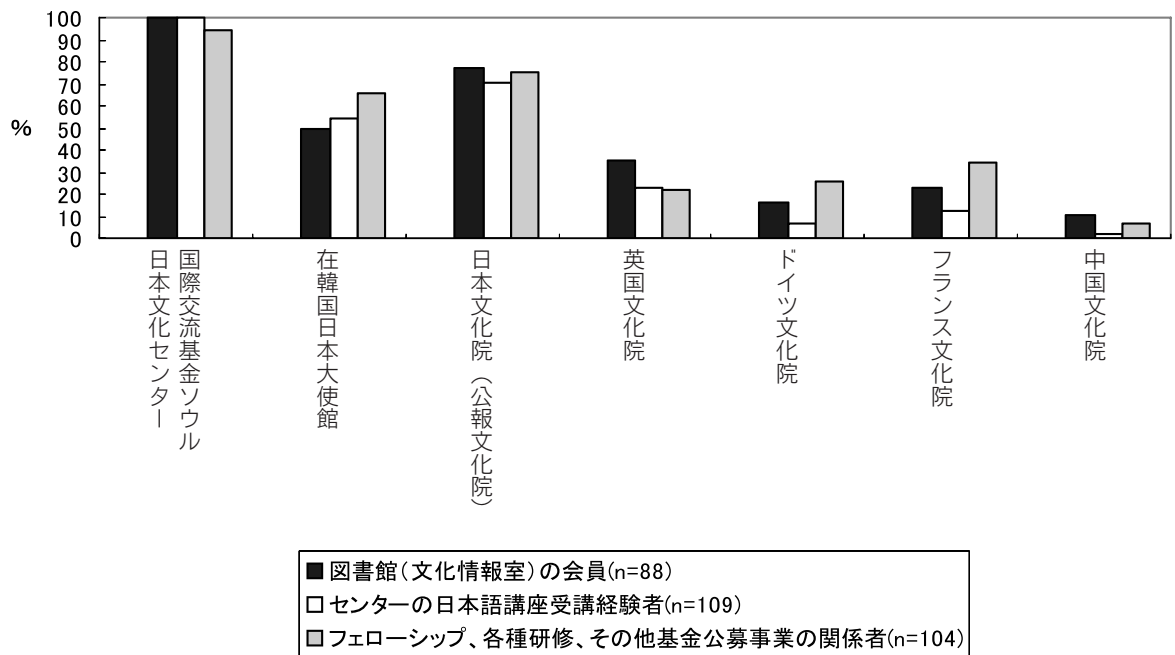


- ポジティブな内容の選択肢（勤勉である、礼儀正しい、思いやりがある、能率的である、等）については一般市民に比べて基金利用者の方が「そう思う」と答える割合が高い。しかし、「人まねする」「何を考えているかわからない」については基金利用者のほうが「そう思う」と回答する割合が高い。特に「閉鎖的である」という項目に対して一般が約10%、基金利用者では50%近くが「そう思う」と答えている。

問8 日本が好きか、嫌いか



問9 訪問・利用した機関

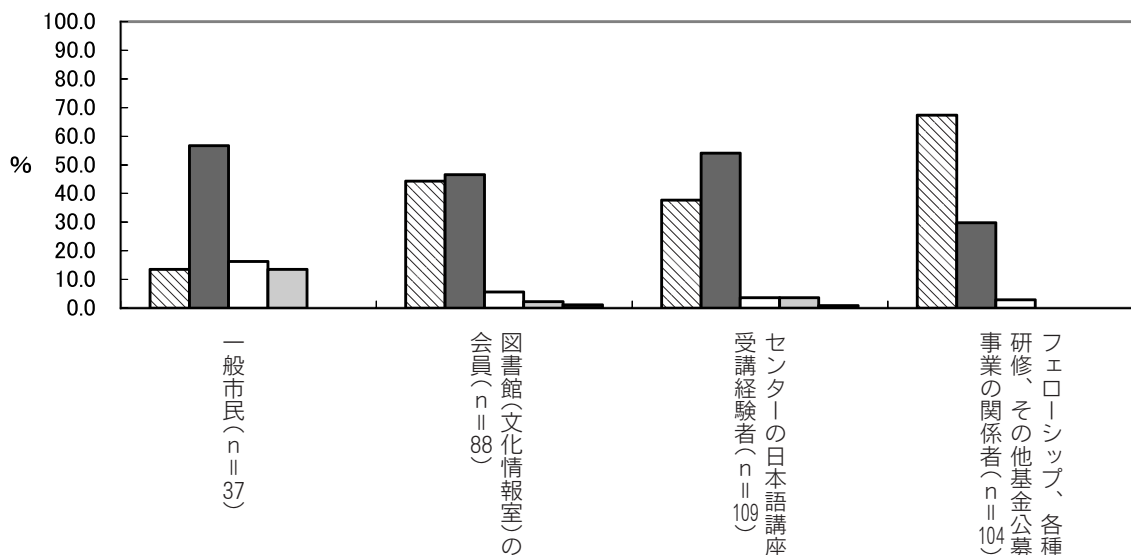


- 基金利用者のうち、図書館利用者とフェロウシップ等公募事業関係者は、ソウルにある他の日本関連文化機関だけでなく、英国、ドイツ、フランス等諸外国の文化関連機関も訪問する傾向がある。

問12 国際交流基金についての情報・知識源（全19項目の内、上位5項目）

	一般市民 (n=37)	図書館(文化情報室)の 会員 (n=88)	センターの日本語講座 受講経験者 (n=109)	フェロシップ、各種 研修、その他基金公募 事業の関係者 (n=104)
1.	(印刷された)新聞記事 (40.5%)	友人・知人・職場の同 僚から聞いて (42.0%)	インターネット (51.4%)	国際交流基金ソウル 日本文化センター (64.4%)
2.	テレビ番組 (29.7%)	国際交流基金ソウル 日本文化センター (38.6%)	友人・知人・職場の同 僚から聞いて (44.0%)	友人・知人・職場の同 僚から聞いて (39.4%)
3.	インターネット新聞 (21.6%)	インターネット (31.8%)	国際交流基金ソウル 日本文化センター (40.4%)	日本の政府・政府関連 機関の広報誌 (33.7%)
	友人・知人・職場の同 僚から聞いて (21.6%)			
4.		大学や学校の先生から 聞いて (21.6%)	日本文化院 (公報文化 院) (24.8%)	日本文化院 (公報文化 院) (32.7%)
				大学や学校の先生から 聞いて (32.7%)
5.	インターネット (18.9%)	日本文化院 (公報文化 院) (20.5%)	大学や学校の先生から 聞いて (15.6%)	

問13 国際交流基金の活動は役立っているか



■1 とても役に立つ ■2 まあ役に立つ □3 どちらとも言えない □4 あまり役に立たない ■5 全く役に立たない

問16 国際交流基金にコンタクトをした目的（全17項目の内、上位5項目）

	一般市民（n=7）	図書館（文化情報室）の 会員（n=88）	センターの日本語講座 受講経験者 （n=109）	フェローシップ、各種 研修、その他基金公募 事業の関係者（n=103）
1.	日本に関する情報や資料を入手するため （42.9%）	日本に関する情報や資料を入手するため （96.6%）	日本に関する情報や資料を入手するため （95.4%）	日本に関する情報や資料を入手するため （85.4%）
	日本に関する一般的な 相談・問合せ（42.9%）			
2.	日本関連の催しについての情報を得るため （28.6%）	日本の新聞や雑誌を読むため（70.5%）	日本語学習のため （86.2%）	文化交流活動に対する 助成を受けるため （48.5%）
	国際交流基金主催の催しに参加するため （28.6%）			
	異文化の人々との出会いを求めて（28.6%）			
	日本の新聞や雑誌を読むため（28.6%）			
3.		日本語学習のため （65.9%）	日本の新聞や雑誌を読むため（53.2%）	国際交流基金主催の催しに参加するため （41.7%）
4.		映画を観るため （44.3%）	日本語を話す場所として（47.7%）	日本関連の催しについての情報を得るため （31.1%）
5.		国際交流基金主催の催しに参加するため （34.1%）	国際交流基金主催の催しに参加するため （40.4%）	日本語学習のため （30.1%）
		日本語を話す場所として（34.1%）		

各カテゴリーの上位5項目とそれに対する満足度

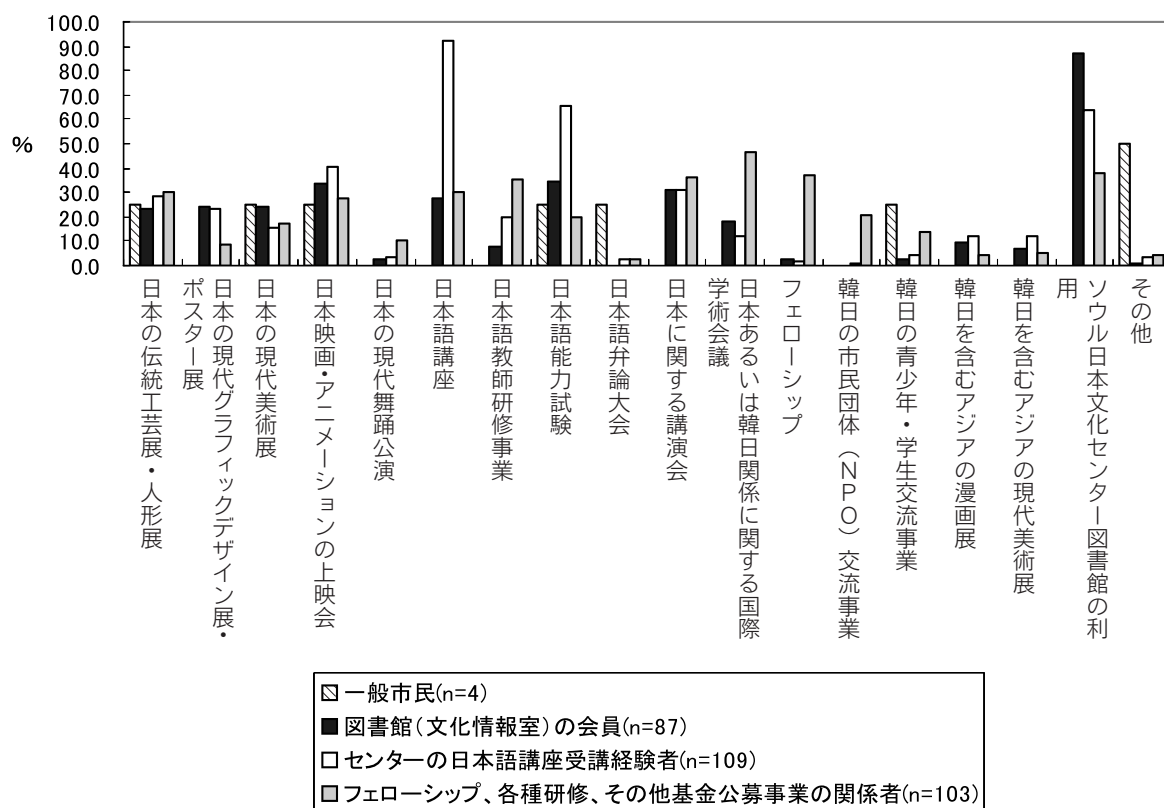
	一般市民 (n=7)	満足度 (とても+ある程度満足)
1.	日本に関する情報や資料を入手するため (42.9%)	66.7%
	日本に関する一般的な相談・問合せ (42.9%)	66.7%
2.	日本関連の催しについての情報を得るため (28.6%)	50.0%
	国際交流基金主催の催しに参加するため (28.6%)	100.0%
	異文化の人々との出会いを求めて (28.6%)	50.0%
	日本の新聞や雑誌を読むため (28.6%)	100.0%

	図書館 (n=88)	満足度 (とても+ある程度満足)
1.	日本に関する情報や資料を入手するため (96.6%)	90.6%
2.	日本の新聞や雑誌を読むため (70.5%)	93.5%
3.	日本語学習のため (65.9%)	86.2%
4.	映画を観るため (44.3%)	97.3%
5.	国際交流基金主催の催しに参加するため (34.1%)	83.3%
	日本語を話す場所として (34.1%)	60.0%

	日本語講座 (n=109)	満足度 (とても+ある程度満足)
1.	日本に関する情報や資料を入手するため (95.4%)	89.4%
2.	日本語学習のため (86.2%)	95.7%
3.	日本の新聞や雑誌を読むため (53.2%)	91.4%
4.	日本語を話す場所として (47.7%)	80.8%
5.	国際交流基金主催の催しに参加するため (40.4%)	84.1%

	フェロシップ (n=103)	満足度 (とても+ある程度満足)
1.	日本に関する情報や資料を入手するため (85.4%)	85.2%
2.	文化交流活動に対する助成を受けるため (48.5%)	96.2%
3.	国際交流基金主催の催しに参加するため (41.7%)	90.7%
4.	日本関連の催しについての情報を得るため (31.1%)	87.5%
5.	日本語学習のため (30.1%)	80.6%

問17 国際交流基金の事業・活動への参加



5-4-⑥ 問11 「国際交流基金について知っていることやイメージすることがありましたら、どのような内容でも自由におっしゃってください」に対する自由記述回答結果
 問11の回答者 333名 うち「一般市民」= 32名、「基金利用者」= 301名

全333名の自由回答 → 【資料編 5】

《一般 32名》

- 基金に対して肯定的なイメージの回答と否定的なイメージの回答がほぼ同数ある。

肯定的イメージの回答

- 韓日交流のために教師、学生の交流を主催している。2003年、「韓日教員交流事業に参加したことがあるが、親切で役に立つ研修であった。
- 相互に助け合うところ
- 韓国人に必要な団体
- 日本はどんな国でも貧しい人(国)を援助している

否定的イメージの回答

- 先進国に対しては寛大でヨーロッパを強く支持する一方、後進国に対しては寛大なふりをするだけで、尊大になることが多い
- 形式的だ
- 韓国人が何を求めているのかを分かっていない
- あまりよくない（強制的である）
- 日本人が金銭で韓国人を買収する。日本を伝えるための投資方式。

《基金利用者》

- 一般的なイメージについての記述に加え、図書館利用者、日本語講座受講者、フェロースHIP関係者それぞれの具体的な利用経験に基づいた評価、要望の記述が多く、全体として肯定的回答が多数を占める。
- 図書館利用者の回答においては、日本に関する情報が入手できること、きれいで静かであり落ち着いて利用できるといった点が評価されている。他方、図書館の利用時間拡大や資料の貸し出し期間延長、利用年齢制限の引き下げ等、より利用しやすい条件整備への要望が多く見られる。
- 日本語講座受講者の回答では、図書館の資料や日本語講座関係の事業に対する肯定的評価の回答が多い。
- フェロースHIP関係者の回答においても、交流事業、フェロースHIPプログラムに対する評価・感謝等、肯定的回答が多い。
- 図書館利用者、日本語講座受講者、フェロースHIP関係者の別によらず、否定的回答としては下記のような内容が見られる。
 - ☐閉鎖的である
 - ☐一般の人が気軽に利用しにくい、特殊階層にだけ気配りする
 - ☐自分本位の日本イメージの提示（日本イメージを植えつけようとする傾向）

6. 自由面接調査結果 要旨

1) 日本研究・知的交流分野：有力シンクタンク日本研究センター センター長

<日本研究調査実施のプロセスにおける、分野横断的ネットワークの基盤形成>

・韓国における日本関連の各学問分野の状況

韓国では外国語大学で日本に関する研究を行う人材が育ったという経緯があり、日本社会研究というよりは日本語が研究の対象であり中心だった。このため、現在でも「日本研究」や「日本学」と「日本語・日本文学」の研究分野の間には、日本研究に日本語学が含まれるかどうかも含めて、微妙な関係がある。またこのような事情もあってこれらの分野間の人的交流やコミュニケーションがほとんど行われていない。

・日本研究調査⁵実施における方針

2005年に委託を受けて実施した日本研究調査では、社会科学だけではなく日本語や日本文学を含めた全体を対象として調査するだけでなく、その調査のプロセスにおいて、これらの各分野の研究者にかかわってもらうという方針がとられた。具体的には、各研究分野の主要な学会の総務理事を中心として、各分野の現状調査を実施するとともに、調査結果の共有と分析のためのワークショップが領域横断的なメンバー（各学会の総務理事および会長）で実施された。

・研究分野間の認識の差異

具体的な調査実施において、とくに社会科学分野の研究者と日本語・日本文学の研究者との間に対日観を含む認識のギャップがあることが明らかになった。韓国では長らく「日本のためになることは韓国のためにならない」という構図でものごとが理解されてきた。日本を知ることが韓国にとっても利益になる、という考え方は比較的最近になって現れてきた考え方である。社会科学分野においては90年代までは日本研究を実施することが「親日」と見なされるのではないかという懸念を抱く人々がいたが、現在は日本にも多様な意見があり、多元的な社会であることが了解されてきており、あまり気にしなくなっている。しかし、日本語・日本文学の研究者の中には、日本の機関（基金）の調査に協力することで「親日」と見なされることを懸念し、調査への協力そのものを逡巡する研究者が数名いた。また、調査の途中で企画したワークショップを基金ソウル日本文化センターで開催することについても抵抗を示す人々があった。このように日本語・日本文学分野においては

5 基金が実施している各国における日本研究の概況調査。各国の研究機関に委託し、日本研究各分野における機関・研究者・研究の概況について調査する。

古い構図に基づく認識が根強く残っている。

・領域横断的なワークショップの効果と意義

基金ソウル日本文化センターの協力を得て領域横断的なメンバーでワークショップを開催したことには予想していなかった効果があった。学問分野間で対日観についての認識や理解にこれほどの差があることは予想しておらず、そのような違いがあること自体が発見だった。日本語・日本文学分野において他の領域の研究者との間に「対日意識」の点でギャップがある一因は、日本語・日本文学分野が学会の構造、研究プロジェクトの実施様態、人間関係等の面で相対的に閉鎖的な傾向があることに関わっている。海外経験の有無、とくに日本への留学や日本での研究経験は、日本語・日本文学領域においては、その対日認識を変えるほどの効果はもっていないように思われる。

このような認識の差異を各分野の研究者がワークショップでの議論を通して感じ、分野を超えた情報交換の重要性をそれぞれが認識したこと、また韓国の日本研究が全体としてどのように競争的な仕組みを作り上げていくかという課題を共有しようという意識が生じてきたことは大きな成果である

・調査のノウハウの蓄積と発展的展開

今回の日本研究調査は、①調査実施手順に関するノウハウの基盤形成 ②調査対象者リストの作成とデータの蓄積 ③領域横断的なメンバーのネットワーク基盤の形成 という点において、意義と効果があった。とくに②については、日本研究調査を5年に一度行う上では、毎年その名簿をメンテナンスしておくことが必要である。③については、研究者の間からもワークショップ継続の強い希望が出されており、Japan Study（韓国における日本研究の発展をめざして政治学を中心とするメンバーから構成された組織）がこれまでやろうとして十分に行えていない、韓国における日本研究全体のネットワークづくりのひとつの基盤になりうる。

東アジア各国の日本研究は、それぞれの地域的差異はあるが、同じような展開をみせてきている。今回の韓国における日本研究調査のさまざまなノウハウや韓国の事情を一事例として共有しながら、東アジア地域全体の日本研究の競争的発展の仕組みを形成することにつなげていくというアイデアも生まれてきている。具体的には、2006年度に中国で予定されている日本研究調査に、今回韓国で調査実施に関わったメンバーが参加することを検討している。

2) 日本語教育分野： 高校日本語教員で構成される日本語教育研究会の全国組織幹部

<韓国における日本語教師の全国ネットワーク形成における基金事業の相乗的発展的効果、および日本語教育活動の活性化>

・ソウル日本語教育研究会の活動の活発化

ソウル日本語教育研究会は1990年に発足したが、その活動は当初活発ではなかった。94年に関西日本語教育研究会と交流の機会があり、関西日本語教育研究会の先生の紹介で公報文化院に派遣されていた日本語講師の先生に研修会に講師に来てもらうなどの協力・サポートを受けるようになった。(当時はまだ基金ソウル日本文化センターがなかった)

当時、高校の日本語教師のほとんどは自分が教育を受けた古い教育法で授業を行っており、公報文化院の日本語講師を通して、まったく新しい教授法に触れることは非常に貴重だった。新しい日本語教授法は浦和の日本語研修センターに招聘された一部の教師は学ぶことができていたが、彼らの知識が広く共有される仕組みがなく、それらの知識は招聘された教師の範囲にとどまっていた。

そのためソウル日本語教育研究会が基金派遣の日本語講師の協力を得ながら自律研修会を開催し、新しい教育法を学びたいメンバーが会員となり96年には400名を超える会員数になった。また年2回の自律研修会に加えて韓国の教育部から認められる研修である職務研修も年1回実施するようになった。しかし、公報文化院がソウルにしかないということもあって、各地の日本語教育研究会のなかで活発に活動できたのはソウルだけだった。

ソウル日本語教育研究会は韓国の教育部からも、その活動が高く評価されており、韓国における大学入試センター試験に相当する大学就学能力試験の日本語科目の出題者、また韓国教育課程評価院が選出する、高校の日本語教育の教科書執筆メンバー、さらにその教科書の検定委員にも、ソウル日本語教育研究会のメンバーが多数選ばれている。

・基金日本語国際センター（さいたま市浦和区）の日本語教師招聘研修プログラムの効果と影響

浦和の日本語研修センターでは、毎年日本語教師を招聘して研修が実施されている。この研修には韓国全土から教師が派遣されており、2ヶ月の研修期間中、参加者は生活を共にする。2000年度の研修において、韓国全土からの研修参加者に対して日本語教育研究会の全国組織を作りたいという意向を話したところ、研修参加者が皆このアイデアに賛同してくれたため、相互の連絡先を交換し、このメンバーが韓国に帰国後、全国組織を立ち上げる上での鍵として動いてくれることになった。

浦和での研修は新しい日本語教育法を学ぶという目的を超えて、韓国における日本語教育組織の全国展開の基礎となる人的関係を作るうえで大きな役割を果たした。

・全国組織の立ち上げと基金の助成

2000年に浦和の研修に参加したメンバーを連絡ネットワークにして、各地の日本語教育研究会をとりまとめる全国組織である韓国日本語教育研究会が2003年2月に発足した。立ち上げにあたっては、全国にある各研究会の意見を取りまとめるための国内移動交通費や打ち合わせ費用が必要であり、金額はそれほど大きくないとはいえ、このお金がなければ

動けない状況だった。その際基金ソウル日本文化センターが60万円を助成してくれたが、このお金があったおかげで全国組織ができたといっても言い過ぎではないほど、この助成には意味があった。また、全国組織設立の総会において会場提供等の便宜もはかってもらい、無事総会が開催できた。

- ・全国組織の活動と、全国各地の日本語教育研究活動の活発化

各地の日本語教育研究会をまとめる全国組織としての韓国日本語教育研究会は年1回の「授業研究発表会」と、年2回の事務局レベルのワークショップを開催している。授業研究発表会では、全国の研究会から数名が授業研究についての発表を行い、それをビデオに収録してCDにし、会員全員に配布している。これまで新しい日本語教育法に直接触れる機会のなかった会員や地方の組織にとって、この全国規模の研究発表会と記録CDは大変な刺激になっており、授業研究発表会は2年目からは地方予選で選抜された者だけが出場できる仕組みになった。また当初無料配布だったCDは有料となったが、それでも購入希望者が多い。

この発表会と、各地の研究会の総務が集まるワークショップでは、日本語教育に関する情報交換、意見交換が行われ、授業研究発表会とあわせて全国各地の日本語教育関係者が常に新しい情報を共有できる仕組みができた。この影響は、これまで活動がほとんど行われていなかった地方の研究会が自律研修会を開催し始めるなどの具体的な成果となって現れている。

3) 文化・芸術交流分野：現代美術フリーキュレーター

- ・「アンダーコンストラクション」⁶ プロジェクトの形成

プロジェクトの開始にあたって、全体の目的や流れの説明があったわけではなく、キュレーターが集まって「アジアとは何か」を考えるワークショップが催され、アジア各国（7ヵ国）から集められたキュレーターが「アジアとは何か」について発表を行った。各キュレーターは、自分自身も含めて欧米については滞在・訪問経験や知識があったが、他のアジア諸国についてはよく知らない。このプログラムに参加してそれぞれがいかにかのアジアの経験に乏しいかがはっきりわかった。

発表はそれぞれに観点が異なり興味深かった。北東アジア3ヵ国については、限られてはいたが交流があったので考え方に大きな違和感はなかったが、東南アジアのキュレーターたちの考え方には「違いがある」と感じた。

メンバーはチームで動いても個人で動いてもよかったが、日韓中については、いずれも

6 2000年～2002年にかけて国際交流基金アジアセンター（当時）が主催したアジア地域における芸術交流プログラム。アジア7カ国のキュレーターがアーティストとの対話を通じて「アジアとは何か」という統一テーマのもとに討議と調査を重ね、その結果をローカル展と総合展というかたちで発表した。

若手作家に関心を持っているという共通点が見出されたため、共同でプログラムを行うこととし、若者の交流、作家・キュレーター間の交流も重要だと考えたのでレジデンシープログラムを提案した。

- 若手作家、キュレーター間の交流の重要性

これまでも日韓中の中の二カ国間、三カ国間の情報交換はあり、作家や芸術家が共同して展覧会をするなどの企画はあった。しかしそれらはすでにエスタブリッシュされた作家、有名になった作家であることが多く、若手作家についてはほとんど情報がなかった。アンダーコンストラクションプロジェクトでは、まだ無名の若手作家が出会い、協働しながら、彼らが発展できる土台をつくったという点が大きく異なる。これは真の意味での「若手支援」、若者を対象とし、若者の将来をつくるプロジェクトといえる。

- 「交流」の結果としてのイメージ形成

ある国を理解してもらいたいと考えたときに、その国の作家や作品をもっていき、ということがよく行われる。しかしそこでは相手（作品を見る側）の視点は関係ない。作品を作る、見せるというのは、ひとつのイメージを作ることだと思うが、自分の考えや作品を「見せる」のは簡単。自分の知っている部分と、他人の知っている部分をすりあわせ組み合わせながらひとつのイメージをつくっていくことが難しい。お互いのやりかたの違いを理解すること、またなじみのない土地や社会で作品をつくるのだから、地元のささいなことや細かいことも理解し、受け入れなければならないし、またそのようにしようと努力する。これは当人にとっても、またとりまく人々にとっても意味のあることであり、文化交流におけるよい方向の動きだと思う。

「私は〇〇です」と言うのではなく、友人どうしの会話のようであることが望ましい。

- 「コラボレーション」のさらなる展開

「アンダーコンストラクション」プロジェクトの場合はアジア各国のキュレーター、作家のコラボレーションだった。これらに加えて文学・作家・キュレーターなど異分野間のメンバーのつながりをつくり、コラボレーションを活発化させていくことも必要である。

- プロジェクトの「影響」

アンダーコンストラクションプロジェクトの途中で、アートスペースのディレクトリをつくるという話が基金からあり、このプロジェクトに参加したキュレーターが協力してディレクトリを作成した。たとえば中国で提案した「代案空間」などもディレクトリに入れることができ、これまで情報がとぼしかったアジア諸地域のアートスペースについて、非常によい情報リソースができた。これはアジアだけでなくアメリカやヨーロッパの美術関係者にも評判がよいが、今は欲しくても手に入らない。⁷

また、このプロジェクトをきっかけに、私自身はタイのキュレーターと共同プロジェクトを企画している。またアンダーコンストラクションで実施したようなグループ展がやってみたくて、今度はベトナムを入れた同様のプロジェクトができないものかと考えている。アンダーコンストラクション展の影響という点では、たまたま東京で総合展を見たオランダの研究者が、アジア美術およびアンダーコンストラクション展に関心をもって調査を行い、その結果をまとめた。その研究はヨーロッパ地域において「アジア美術」についての関心を喚起すると同時に、その報告書・研究書が実績として認められて、その研究者はサンフランシスコにある美術館のキュレーターに採用された。現在もアジア美術を対象としたプログラムを実施している。

・基金への要望

以前は、キュレーターや研究者が2週間から3ヶ月程度日本に行って勉強するためのフェローシッププログラムがあった。これを復活してほしい。展示をつくるというのは「文化を見せる」ということであり、ひとつの「ステイトメント」である。作家やキュレーターたちがさまざまな文化について、よく理解しているほど、社会に向けて発するメッセージは豊かなものとなる。

7 改訂版『アジアのアートスペース2005』（国際交流基金）が2004年に発行され、現在は入手可能になっている。

Ⅲ 研究の成果・得られた知見・今後の課題

1. 評価調査手法に関わる研究成果

今回の評価調査研究は、異文化社会において国際文化交流に関する事業や活動の成果を把握・推論するための研究調査方法を確立することを第一義的な目的とし、中でも社会調査研究、とくに質問紙調査研究における最新の学術的知見に基づき、「認識」の問題を十分考慮に入れた、国際文化交流の評価に適した調査票デザインや分析方法を探究することに重点をおいて研究が実施されたことはすでに述べたところである。

評価研究領域の先行研究においては、評価対象となるのは政策・施策・事業の「結果」や「効果」であるとされる。しかし、国際文化交流という活動領域の評価においては、「意図した結果＝効果」と「意図せざる結果＝影響」を概念的に区別することが、極めて重要な意味を持つ。

ある政策・施策・事業の結果が政策主体の意図を超えたものになるという場合、主体の側からその事情を考えるならば、「不確実性の存在＝人間理性の限界」⁸ という問題や、複数の事業間のシナジー効果によって当初予想していなかった結果や成果が生じる、といった状況が考えられる。しかし、より留意する必要があるのは、政策・施策・事業の対象となる人々、つまり客体＝受け手側の事情である。つまりサービスの受け手は、それぞれが自らの目的や考えに従って基金の活動を利用しており、また彼らが生きている「社会的現実」の中でのごとを考え、行動しているという点である。異文化社会を対象とする文化交流の場合には、実施された事業が、異なる「社会的現実」の中でどのように理解され、展開しているのかを理解することが求められる。

たとえば「(ある社会についての)知識が増えること」は「(その社会に対する)好感度が高まること」につながるのかどうか、あるいは「(ある社会や人々を)好きである」ことは「好きであると表明できること」と同じなのかどうか。これらは問題の種類と、社会の事情によって異なり、あらゆる社会においてア prioriにそうなることを前提とすることはできない。また、「満足」といったところで、それは政策主体が想定する目的や意図に即した「満足」ではなく、受け手＝利用者が自ら想定する目的や意図に沿っての「満足」であり、この場合も利用者の目的や意図は予め「明らか」と想定することはできないのである。

国際文化交流という営みの目的のひとつが「相互理解」であることを考えるならば、施策や事業が政策主体にとってのみならず、受け手側の人々の社会的現実という文脈の中で、

8 公共政策の決定や執行においては「政策執行の費用」、「技術的障害」、「政策環境の変化」等いくつかの不確実な要素があり、あらかじめすべてを確実に見通すことができないということ。(足立幸男『公共政策学入門』有斐閣)

どのような意味や結果をもたらしているのかをとらえることは不可欠であり、ある意味では「意図せざる結果」の把握こそが相互理解の出発点ともなる。従って、この点に配慮しない評価や評価調査方法は十分とは言えず、現実をとらえるという点からも妥当性を欠いていると言わざるを得ない。

本研究においては、上記の点を考慮した評価調査方法を確立するために、

- ① まず「効果＝意図した結果」と「影響＝意図せざる結果」を概念的に区別し、
- ② 質問紙調査において次のような新たな取り組みを実施した。
 - ・満足度や評価度などの「意識の側面」だけでなく、人々の事業に対する関与など「行動の側面」にも焦点をあて、両者の関係をとらえる
 - ・調査対象者のオリエンテーションの「内容」（知識・行動の側面と意識・感情の側面）、および「対象」（日本と基金）とを区別し、両者の関係をとらえる
 - ・調査対象者の主観的現実を把握するためのさまざまな分析手法の援用

具体的な成果としては、以下の点を挙げることができる。

- 1) 上記の取り組みを総合し、国際文化交流評価調査におけるひとつの調査票デザインのモデルを構築したこと。

オリエンテーションの対象 オリエンテーションの内容	日本	基金
Involvement（知識・行動の側面）	I	III
Attitude（意識・感情の側面）	II	IV

調査対象者のオリエンテーションの対象と内容（基金への関与と基金に対する感情的意識、日本への関与と日本に対する感情的意識、基金に対する関与と日本に対する関与、基金に対する感情的意識と日本に対する感情的意識等の間の関係性）を基軸にしたこの調査票デザインは、国際文化交流の評価における基本モデルとして利用可能なものであると考えている。

- 2) 国際文化交流活動の評価という領域において、最小空間分析（Smallest Space Analysis）や、中央値回帰分析（Median Regression Analysis）といった分析手法の、具体的な利用可能性を示したこと。
- 3) 上記1.2を通して、異文化社会に対する、より踏み込んだ理解に立脚した評価調査の手法ならびに分析の可能性を示したこと。

2. 質問紙調査を補うための、他の調査方法等との補完関係

横断的調査（cross-sectional research）のデータ解析によって把握できるのは、ものごとの相関関係（変数間の相関関係）であり、因果関係ではない。また、国際文化交流事業の効果や影響は、短期的に現れるものもあれば長い時間を経た後に現れるものもあるが、質問紙調査は、あくまで一時点における事業の結果や効果をとらえるための方法であり、「プロセス」や長い時間を経た後に生じる効果や影響をとらえることはできない。

さらに、基本的な調査票デザインに基づきながらも、とくに評価調査対象となる社会の実情に即した有効な質問項目をつくるには、調査票作成に先立って、当該社会における交流事業に関わる実態を把握するための基礎調査（基礎データ収集や自由面接調査等）が必要となる。すなわち、国際文化交流事業の効果や影響をより正確に把握・推論するには、調査の様々な段階において質問紙調査を他の調査方法等と有機的・補完的に組み合わせる必要がある。

今回の調査では補完的方法として以下の方法を試みた。

- ① 定期的実施されている、他の質問紙調査（世論調査等）の質問項目と同じものを入れておき、他の調査の結果を参照しながら、回答の経年的変化をとらえる
- ② 自由面接調査の実施
 - ① については、これまでに実施されている多くの質問紙調査において、ローデータを始めとする調査データが公開されていないため、正確性を期して比較しつつ経年変化をとらえることは困難であった。しかし、経年変化を推測するために、この方法は有効であると考えており、調査データの共同利用の可能性を探るなどして課題の解決をはかっていきたい。
 - ② 自由面接調査と質問紙調査は、次頁の表にまとめたような相互補完的役割が期待される。それぞれの調査の役割を認識しつつ、有効な段階、対象、内容の自由面接調査を実施することが求められる。

自由面接調査	質問紙調査との補完関係	
	方法上の補完的役割	実施時期と役割
1. 因果関係の把握	質問紙調査で把握しうるのは 相関関係	〔調査票設計前の実施〕 ・ 調査票設計における「仕掛け」の組み立て ・ 調査票作成のための基礎情報の収集 〔質問紙調査終了後の実施〕 ・ 調査結果分析・理解のための「解釈枠組み」や「文脈」の提供
2. 一定の時間の経過後に生じた効果・影響 ①時間的広がり ②領域的広がり	質問紙調査は ① 一時点での調査 主に事業終了直後の実施 ② 基金が想定する「効果」の領域を主な対象とする	
3. 事業／プログラム間のシナジー効果・影響の把握	質問紙調査は事業／プログラムごとの効果・影響を把握する	
3. 制度的変化の把握 事業効果・影響の現れかたを解釈する際の背景や文脈の提供	(一時点で行われる質問紙調査のデータ解析ではプロセスは把握できない)	

3. 調査結果から得られる政策的インプリケーション

「Ⅱ 調査結果の概要」においては、データが示している内容を、推測等を交えずできるだけ正確に記述することに留意した。ここでは、調査結果を自由面接調査等、他の情報とも関連づけながら、それらが持つ政策的インプリケーションについて何点か指摘しておきたい。これらを政策や施策に反映させていく場合には、より詳細な分析、検討が必要であるが、評価調査研究がもつ「問題発見」の可能性を示すという意味で、敢えて記しておきたい。

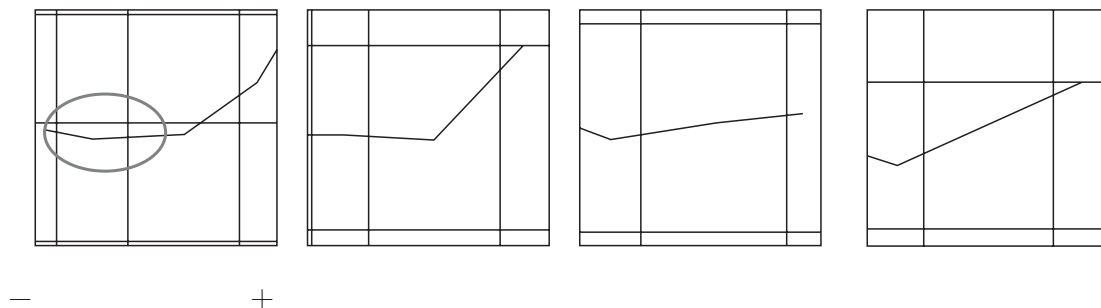
1) 一般市民に対する日本関連情報の提供

問5と問8の中央値回帰分析(Median Regression Analysis)において、一般市民の場合、問5の回答は多くが「日本についてあまり知らない」というところに偏っており、「日本についてまあ知っている」と答える人々になると一気に日本に対する好感度が高くなっている。一般市民については日本についての知識と好感度との間には、ある一定の知識量以上になるとはっきりと相関が出ていることから、日本について「全く知らない」あるいは「あまり知らない」と回答しているような人々に対して、日本情報の提供をどのようにはかっていくかを検討する余地がある。

《問5と問8のMedian Regression Analysis》

問5 日本についてどの程度知っているか

+ 一般市民 図書館会員 日本語講座受講者 フェローシップ



問8 日本は好き

問5と問8の 相関係数	一般市民	図書館会員	日本語講座受講者	フェローシップ
	r=0.184	r=0.304	r=0.211	r=0.312

2) 日本関係機関の利用状況

問9の「訪問したことがある機関」の最小空間分析 (Smallest Space Analysis) の結果から、日本関連機関の中で、基金ソウル 日本文化センターと公報文化院を訪問する人は、日本貿易振興機構ソウルセンターや国際観光振興機構ソウル事務所をあまり訪れていないこと、基金ソウル 日本文化センターを訪問する人は日本学生支援機構ソウル 日本留学情報センターをあまり訪問していないことがわかる。また、日本学生支援機構を訪れる人は、その他の機関をあまり訪問していない。日本への留学生誘致、観光振興等においては各機関が連携したオールジャパンの取り組みが求められていると思われるが、それぞれの訪問者が重なっていない点に留意して、今後の各機関における広報戦略等を検討する余地がある。

また、ある日本関連機関を訪問した人が、そこで他の日本関連機関の情報を得て、それらを訪問するという流れをつくることができれば、(1)に指摘した点に関連して、一般の人々に日本関連情報をより効果的・効率的に提供することにもつながると思われる。

3) 利用者の参加事業の偏りについて

問17の「参加したことがある事業」の最小空間分析 (Smallest Space Analysis) の結果から、知的交流事業に関心のある人々、芸術文化関連事業に関心のある人、日本語に関心のある人々の間で、それぞれ参加する事業に偏りがあることがわかる。特に日本語に関する事業に参加する人々は、知的交流や芸術文化関連事業にあまり参加しないという傾向が明確に見て取れる。

文化交流や文化発信においては、日本語やポップカルチャー等を「入口」として、より一層日本に対する関心・興味を広げてもらうこと、深めてもらうことを期待することが多

いが、問17の結果においては、分野ごとに関心の領域が定まっており、それらがあまり関心の広がりにつながっていない可能性があることが示唆されている。

また自由面接調査において、日本語や日本文学領域の研究者は、日韓の政治的関係が厳しい時代をくぐり抜けてきたために、他の後発の日本研究分野の研究者に比べて、対日意識を素直に表明することに心理的抵抗を感じるといった傾向があることが指摘されていた。日本語や日本文学の研究者は他の領域の研究者と相互交流をもつ機会が限られているために、このような認識の違いが修正される機会が少なく、結果として彼らの認識がいつまでも変わらないというサイクルが出来上がっている点も示唆されていた。

これらの状況を考え合わせると、日本語、知的交流、芸術文化交流という分野ごとにそれぞれが施策・事業を実施するのではなく、より一層これらの事業間の連携をはかり、利用者が多様なプログラムに参加することを推進しうる施策や事業を、広報のかけかたも含めて検討していくことが効果的ではないかと考える。

4. 評価手法の確立ならびに評価体制構築に向けての課題

1) 目的および目標の明確化

評価調査では、予め掲げていた目的・目標がどの程度達成されたかをとらえることが主眼となる。目的 (Goals) とは「政策」によって追求される望ましい社会的状況や状態であり、個別目標 (Objectives) とは「政策」によって達成されることが期待される特定かつ具体的な項目である。(龍慶昭、佐々木亮『政策評価の理論と技法』、p.30)

評価を実施するにあたり、評価担当者が直面するジレンマとして、龍と佐々木は

- ・政策立案者、政策実施者、その他の関係者のあいだで、プログラムの目的や目標の認識が一致していない場合、インパクト評価の実施は無用な混乱を引き起こす。
- ・もともとの目的や目標が非現実的だったり、投入される各種資源が不足している場合には、当然目標を達成していないのでインパクト評価をやっても無駄だ。
- ・当初想定されたとおりにプログラムが機能していない場合、つまりプログラムが想定されたサービスを提供できていない場合には、サービスがもたらす受益者効果を測定するインパクト評価を実施しても無駄だ。

といった点を指摘しているが、今回の韓国調査においても国別の事業目的の記述のされかたが「〇〇の実施、推進、支援」となっており、実施、推進、支援の結果として何が達成されることが期待されていたのかを把握することが困難であった。

これらの問題と評価調査の経験を踏まえ、国別の目的や目標の設定に関して必要あるいは有効と思われる点として以下の3点を指摘しておきたい。

① 明確な目的・目標の記述

政策、施策、事業を実施することにより、具体的にどのような変化や結果が生じることを目指すのか、期待するのかを明確に記述する。

② 目的や目標の実現を目ざす理由と、そのための問題や課題の特定と共有

たとえば、年度計画の日本語教育に関する目標として、2005年度には「中等教育レベルの日本語教員のレベルアップ、教員のネットワーク化に重点的に取り組む」という記述がある。この場合、中等教育レベルの日本語教員のレベルがどのような意味において十分ではないのか、またそのような問題意識をもつきっかけとなった状況や事態が何であったかが示されると、施策や事業のターゲットが明確になるとともに、その成果を把握する際の情報やデータ収集が行いやすい。

(今回実施した自由面接調査からも、韓国各地にある中等教育レベルの日本語教育研究会の中で、当初ソウルの研究会だけが活動が活発であり、地方都市の研究会は日本語教育に関する最新の情報が得られにくいこともあって活動が停滞していたことが分かった。仮に「地方都市における日本語教育研究会の活動の停滞」が、その地方における日本語教員のレベルアップにとって問題であり、研究会の活動を活発化させることが課題であるという認識が政策実施者および評価担当者に共有されれば、その問題を解決することを目標とする施策や事業を設定し、成果を把握するためには、地方都市の日本語教育研究会が実施する研修会の開催状況や日本語教育の授業研究発表会全国大会への参加者数などをフォローしておくという方針が立つ。)

③ 段階別の目標設定と、それぞれの段階で期待する評価の内容の明確化

国際文化交流のような活動は、ひとつの施策や事業の結果がすぐには現れないというだけでなく、順を追って段階的に長期的視野で仕掛けていくものも多い。たとえば、ある特定の領域の日本文化について情報が極めて不足している地域であれば、まずは「知らせること」が第一段階であろうし、その上でより専門的な実践者の育成等に向かうことも考えられる。

施策や事業が、「種まき」の段階、「育成」の段階、「収穫」の段階のいずれにあるのかによって、評価において、どこに重点を置いて何を把握すればよいのかが異なってくる。

すべての施策や事業において段階別に目標設定が必要だということではないが、段階を追って実施される施策や事業に関しては、施策の実施者が、段階に応じて評価に何を期待するのかを明確にすることで、より目的・目標に即した評価が可能になると思われる。

ここに記した目的・目標の設定に関する問題は、目的・目標を記述する際の技術的な側面である。しかし、目的・目標の設定にあたっては、これ以外に実施（政策立案のプロセス）上の問題がある。現在国際交流基金では、「事業分野別」（文化芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流等）の目標と「国別」の目標が設定されているが、予算配分と事業運営は基本的には「分野別」に行われている。国別に評価を行うという観点から言えば、さまざまな分野の事業を実施することで、最終的にその国において何を達成したいのかが明

確にされることが望ましいが、仮に個別の国ごとに目標を設定しても、それらを優先的に追求し実施する組織的構造になっていない。

「事業分野別」あるいは「国別」のいずれの目標設定、政策立案が望ましいのかという問題は措くとして、「国別」の観点から評価を行う場合にはこれらの事情と、そこから生じる制約を踏まえて、目標の設定ならびに評価調査を実施する必要がある。

2) 新たな調査票デザインおよび分析方法の利用可能性の模索

「involvement」と「attitude」を軸に据えた調査票デザインは、評価調査のひとつの基本モデルである。これらを基本にしながらも、韓国とは異なったタイプの社会において、より適合的な調査票デザイン、あるいは分析デザインの可能性を追究する必要がある。その際には、「intensity,」「norm」等、「involvement」「attitude」以外の回答のカテゴリーや、サービスを利用する顧客の「数」だけでなくその「広がり」、すなわち顧客が固定化していないかどうかを推測する調査手法等を利用する可能性も探りたい。

3) 評価研究調査における連携・協力

今回の質問紙調査において、質問紙調査では調査が行われる一時点の状況しか把握できないという欠点を補うために、他の質問紙調査の質問項目を入れておき、それらの結果を援用することで回答の経年変化をたどるといった試みを行ったが、調査データが十分に公開されていないために有効な分析が困難であったことは先に述べたとおりである。

現在日本では、各省庁や企業などがそれぞれ個別に様々な社会調査を実施しており、その中には重複する内容のものも少なくない。データの共有と共同利用、あるいは調査の共同実施が可能になれば、全体として調査コストの削減になるだけでなく、質問項目やサンプル数を増やし、より精度の高い調査を行うことも可能になる。

国際社会を対象として政策や施策、事業を実施する機関や組織が連携・協力して質の高い調査を限定的に実施する仕組みを形成していくことが強く望まれる。

4) 研究成果の発表と共有

本研究調査を通して得られた学術的知見については、第79回日本社会学会（2006年10月28日～29日、立命館大学）において学会発表を行い報告した。また、関西学院大学社会学部の紀要にも順次執筆し、広く成果の発表と共有をはかっていく予定である。

5. 今後の予定（第二次調査の実施）

韓国調査のデータ分析を引き続き行うとともに、4. に記した課題をふまえ、特に国別の事業目的・目標を明確化した上で、それらとより有機的な整合性をもつ調査票を作成することに留意しつつ、ドイツにおける第二次調査のための研究および準備を行っている。

資料編

資料1 日本語版調査票

資料2 韓国語版調査票

資料3 スケールの作成

資料4 単純集計結果

資料5 自由記述回答の内容（問11）

<挨拶の言葉>

こんにちは。

私は韓国ギャラップ調査研究所で面接員として働いている〇〇〇でございます。今回われわれの研究所では国際文化交流に関して意見を伺っています。

私が伺う質問は正解・不正解がなく、〇〇様の意見は『このような意見を持っている人々は何パーセント(%)いる』というふうに統計を出すためだけに使用され、その他の目的以外には、絶対使用されることはありませんので、お考えをそのままおっしゃって下さい。

多少のお時間を割いていただき、ご協力頂きましてありがとうございます。

面接員：問1～問17まで該当番号に○をつけること。

該当する項目のない場合には、「その他」欄に具体的な内容を記入すること。(但し、問16の1に○をつける場合、具体的な項目を聞いた後、応答によって□にもチェックをすること) 全ての項目に関して漏れなく応答をもらうこと。

区分

1. 一般人
2. 国際交流基金利用者

問1. 〇〇様は今年満何歳になられますか。誕生日を考慮せず、韓国式の歳から1歳引いた満年齢でお答えください。

満()歳

→18歳以上の場合、続けて進行

→17歳以下の場合、感謝の挨拶の後に面接終了

日本についての体験・経験についておたずねします。

(面接員：項目カード提示)

問2. 日本について体験・経験されたことのある項目すべてを選んでください。【複数回答】
(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

1. 日本の製品や商品を購入したことがある
2. 日本の料理屋・レストラン・居酒屋・パブ・バーなどで飲食をしたことがある
3. 日本に関する展覧会・公演・講演会などに行ったことがある
4. 日本の航空会社を利用したことがある
5. 日本企業・日系企業で働いていたことがある
6. 日本企業・日系企業と取引をしたことがある
7. 日本人作家の本を読んだことがある
8. 日本の雑誌を読んだことがある
9. 日本映画・テレビ番組・アニメ・漫画を見たことがある
10. 日本の音楽・歌謡・民謡を聴いたことがある
11. 学校の授業・講義で日本のことを学んだことがある
12. 日本語を学んだことがある
13. 日本人の友人・知人がいる
14. 仕事で日本に行ったことがある (駐在を含む)
15. 観光で日本に行ったことがある
16. 留学で日本にいったことがある
17. 反日デモに参加したことがある
18. 韓日の過去の歴史に関する博物館や記念館 (例. 独立記念館、西大門刑務所跡など) に行ったことがある
19. 日本の柔道、華道、茶道、剣道などを習ったことがある
20. 日本の団体が主催した日本歌謡の「のど自慢」に参加したことがある・「のど自慢」を見に行ったことがある
21. その他 { 具体的に： }

日本についての情報や知識の入手方法についておたずねします。

(面接員：項目カード提示)

問3. あなたは普段、日本についての情報や知識をどこから入手していますか。次の中の当てはまるものすべてを選んでください。【複数回答】(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

1. (印刷された) 新聞記事
2. インターネット新聞
3. 雑誌記事
4. 本
5. テレビ番組
6. ラジオ番組
7. 新聞・雑誌の広報・広告
8. テレビ・ラジオの広告(コマーシャル)
9. 劇場映画
10. ビデオ・DVD
11. インターネット
12. 日本の政府・政府関連機関の広報誌
13. 日本料理屋・レストランなどに置かれている情報誌
14. 学校の授業・教科書
15. 家族・親族から聞いて
16. 友人・知人・職場の同僚から聞いて
17. 在韩国日本大使館(領事館、日本文化院(公報文化院)を含む)
18. 国際交流基金ソウル日本文化センター
19. その他 { 具体的に： }

日本への関心についておたずねします。

問4. あなたは日本の事柄についてどの程度関心がありますか。次の各項目別にお答えください。(該当する項目がない場合は具体的な内容をお答えください。)

日本の事柄	関心			
1. 音楽・歌謡・民謡	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
2. 美術・絵画	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
3. 伝統芸能（歌舞伎、能など）	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
4. ファッション	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
5. 映画・テレビ番組・アニメ・漫画	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
6. 文芸	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
7. コンピューターゲーム・ビデオゲーム 及びゲーム機	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
8. スポーツ	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
9. 流行	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
10. タレント・歌手・俳優	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
11. 食べ物・飲み物・料理	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
12. 商品・製品	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
13. 自然・地理	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
14. 名勝・古跡地	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
15. 科学技術	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4

16. 社会・生活・風習	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
17. 経済・産業・企業	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
18. 政治・外交・国際関係	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
19. 歴史	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
20. 宗教	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
21. 日本語	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
22. 韓国との関係	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
23. その他 具体的に： { }	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4

問5. あなたは日本について、どの程度知っていると思いますか。

1. とてもよく知っている、2. まあ知っている、3. あまり知らない、4. 全く知らない、の中から選択してください。

とても
よく知っている
1

まあ
知っている
2

あまり
知らない
3

全く
知らない
4

日本に対するイメージについてお尋ねします。

(面接員：項目カード提示)

問6. あなたは日本に対してどのようなイメージを持っていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。【複数回答】

1. 経済力・技術力の高い国
2. 警戒を要する国
3. 民主的な国
4. 理解しにくい国
5. 自然の美しい国
6. 好戦的な国
7. 平和な国
8. 豊かな伝統と文化を持つ国
9. 欧米志向の国
10. 信頼できる国

(面接員：項目カード提示)

問7. 日本人はどのような特性を持つと思いますか。次の中からあてはまると思うものすべてを選んでください。【複数回答】

1. 勤勉である
2. 計算高い
3. 礼儀正しい
4. 尊大である
5. 人まねする
6. 創造的である
7. 団結心が強い
8. 攻撃的だ
9. 従順である
10. 信義に欠ける
11. 思いやりがある
12. 何を考えているかよく分からない
13. 能率的である
14. 閉鎖的である

問8. 日本が好きですか、嫌いですか。1. とても好き、2. まあ好き、3. どちらとも言えない、4. やや嫌い、5. とても嫌い、の中から選択してください。

とても 好き	まあ 好き	どちらとも 言えない	やや 嫌い	とても 嫌い
1	2	3	4	5

利用したことのある機関についてお尋ねします。

(面接員：項目カード提示)

問9. 次の中から、あなたがこれまで訪問したり利用したりしたことのある機関すべてを選んでください。【複数回答】

1. 国際交流基金ソウル日本文化センター
2. 在韓国日本大使館
3. 日本文化院（公報文化院）
4. 英国文化院
5. ドイツ文化院
6. フランス文化院
7. 中国文化院
8. 財団法人 日韓文化交流基金
9. 日本貿易振興会（JETRO）ソウルセンター
10. 日本国際観光振興機構（JNTO）ソウルセンター
11. 日本学生支援機構（JASSO）ソウル日本留学情報センター
12. 日本自治体国際化協会（CLAIR）ソウル事務所
13. ソウル・ジャパン・クラブ（SJC）
14. 裏千家ソウル出張所

国際交流基金についておたずねします。

問10. 国際交流基金というものを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

—————→ **(面接員：問D1資料分類用質問へ進むこと)**

問10で< 1. 知っている >と答えた方に伺います。

問11. 国際交流基金について、知っていることやイメージすることがありましたらどのような内容でも自由におっしゃってください。

{ }

(面接員：項目カード提示)

問12. あなたは国際交流基金についての情報や知識をどこから入手しましたか。
次の中からあてはまるものすべてを選んでください。【複数回答】
(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

1. (印刷された) 新聞記事
2. インターネット新聞
3. 雑誌記事
4. 本
5. テレビ番組
6. ラジオ番組
7. 新聞・雑誌の広報・広告
8. テレビ・ラジオの広告 (コマーシャル)
9. インターネット
10. 日本の政府・政府関連機関の広報誌
11. 日本料理屋・レストランなどに置かれている情報誌
12. 家族・親族から聞いて
13. 友人・知人・職場の同僚から聞いて
14. 大学や学校の先生から聞いて
15. 在韩国日本大使館・領事館
16. 日本文化院 (公報文化院)
17. 国際交流基金ソウル日本文化センター
18. その他 (具体的に：)

(面接員：項目カード提示)

問13. 韓日の文化交流に国際交流基金の活動が役に立っていると思いますか。1. とても役に立つ、2. まあ役に立つ、3. どちらとも言えない、4. あまり役に立たない、5. 全く役に立たない、の中から選んでください。

とても 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
役に立つ まあ役に立つ どちらとも言えない あまり役に立たない 全く役に立たない

(面接員：項目カード提示)

問14. 国際交流基金は次のような事業・活動を実施または計画しています。あなたはそれぞれの事業・活動に関心がありますか (A)。また、国際交流基金がそれぞれの事業・活動を行うことをいいことだと思いますか (B)。

国際交流基金の事業・活動	(A) 関 心			(B) 評 価		
1. 韓国の芸術家や知識人、研究者を日本に招聘する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
2. 日本の芸術家や知識人、研究者を韓国に派遣する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
3. 韓国の高校等の教員を日本に招聘する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
4. 日本の高校等の教員を韓国に派遣する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
5. 韓国の青少年(高校生や大学生)を日本に招聘する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
6. 日本の青少年(高校生や大学生)を韓国に派遣する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
7. 韓国人の日本語学習者や日本語教育者に対する日本研修の実施(招聘)	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
8. 日本語教育の専門家(日本人)を韓国に派遣する	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
9. 日本語教育の実施	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
10. 韓国の伝統文化の日本への紹介およびその支援	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
11. 韓国の現代文化の日本への紹介およびその支援	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3

12. 日本の伝統文化の韓国への紹介およびその支援	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
13. 日本の現代文化の韓国への紹介およびその支援	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
14. 文化・芸術団体等の日本公演の実施	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
15. シンポジウムやセミナーの開催	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
16. 日本に関する展覧会や美術展の開催	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
17. アジアに関する展覧会や美術展の開催	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
18. 韓国の映画の日本への紹介	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
19. 日本の映画の韓国への紹介	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
20. 日本語書籍の韓国語への翻訳の助成	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
21. 韓国における日本研究に対する協力や助成	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
22. 韓国における韓日を含む多国間比較研究に対する協力や助成	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
23. 日本研究を行う韓国人に対する奨学金	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
24. 韓日を含む多国間比較研究を行う韓国人に対する奨学金	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
25. 図書館サービス	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
26. 国際交流基金のパンフレットによる情報の提供	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3
27. インターネットによる国際交流基金の紹介およびそのイベント情報の発信	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと思う 1	どちらとも言えない 2	よいことだと思わない 3

問15. あなたはこれまで、国際交流基金にコンタクト（訪問、問合せ、インターネットでのアクセスなど）をしたことがありますか。または国際交流基金の事業に参加したりそのサービス（図書館など）を利用したことがありますか。

1. ある

2. ない → **面接員：問D1資料分類用質問へ進むこと**

（面接員：項目カード提示）

問16. 次の中から、コンタクトをした目的としてあてはまる番号すべてを選んでください。またその場合、その目的や期待はそれぞれどの程度満たされたか、1. とても満足、2. まあ満足、3. どちらとも言えない、4. やや不満、5. とても不満、の中から選択してください。（該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。）

コンタクトした目的	満 足				
<p>1. 日本に関する情報や資料を入手するため</p> <p> <input type="checkbox"/> 1を選択した場合、次の各項目を聞いた後、該当する□にチェックを入れること。 </p> <p>どんな情報や資料でしたか。</p> <p> <input type="checkbox"/> 日本研究に関する文献・資料 <input type="checkbox"/> 日本の生活文化に関する文献・資料・雑誌 <input type="checkbox"/> アニメ・映画などのビデオ・DVD <input type="checkbox"/> 漫画 <input type="checkbox"/> 日本の商品・製品に関する情報 <input type="checkbox"/> 日本語教育の教材 <input type="checkbox"/> 日本留学に関する情報 <input type="checkbox"/> 日本での就職に関する情報 <input type="checkbox"/> 観光に関する情報 <input type="checkbox"/> その他 具体的に： { </p>	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
<p>2. 日本に関する一般的な相談・問合せ</p>	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
<p>3. 日本関連の催しについての情報を得るため</p>	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5

4. 国際交流基金主催の催しに参加するため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
5. 映画を観るため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
6. 日本語学習のため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
7. 日本語を話す場所として	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
8. 日本人と出会うため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
9. 異分野の人々との出会いを求めて	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
10. 日本の新聞や雑誌を読むため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
11. 文化交流活動に対する助成を受けるため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
12. 奨学金を得るため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
13. 文化交流活動に関する助言を受けるため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
14. 日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を紹介してもらうため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
15. 日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を招聘するための仲介を依頼するため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
16. 日本において文化活動を行う場所・連絡先を紹介・仲介してもらうため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5
17. その他 { 具体的に： }	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	ややあまり不満 4	とても不満 5

(面接員：項目カード提示)

問17. 次の国際交流基金関連事業・活動の中から、あなたが実際に参加・鑑賞・関係したことがあるものすべてを選んでください。【複数回答】

1. 日本の伝統工芸展・人形展
2. 日本の現代グラフィックデザイン展・ポスター展
3. 日本の現代美術展
4. 日本映画・アニメーションの上映会
5. 日本の現代舞踊公演
6. 日本語講座
7. 日本語教師研修事業
8. 日本語能力試験
9. 日本語弁論大会
10. 日本に関する講演会
11. 日本あるいは韓日関係に関する国際学術会議
12. フェローシップ
13. 韓日の市民団体（NPO）交流事業
14. 韓日の青少年・学生交流事業
15. 韓日を含むアジアの漫画展
16. 韓日を含むアジアの現代美術展
17. ソウル日本文化センター図書館の利用
18. その他（）

ここまで質問にお答えくださり、誠にありがとうございました。最後に、資料分類のためにいくつかだけ更にお伺いいたします。これらの項目は統計的な資料分類以外に使用しないことを約束申し上げます。

D1. あなたの性別は何ですか。(聞かずに記録すること)

1. 男
2. 女

(面接員：項目カード提示)

D2. あなたの現在の職業は何ですか。

1. 農業／水産業／畜産業（家族従事者含む）
2. 自営業（従業員9名以下の小規模業所主人及び家族従事者、薬局、個人タクシー運転士）

3. 販売／サービス職（商店店員、セールスマン、保険設計士 等）
4. 技能／熟練工（建設重機／トラック運転士、電子／家電製品、A/S 技術者、熟練工等）
5. 一般作業職（土木関係の現場作業、清掃、守衛、肉体労働 等）
6. 事務／技術職（一般会社の事務職、技術職、幼稚園／小／中／高等学校教員、会社に所属しているウェブデザイナー、コンピュータープログラマー 等）
7. 経営／管理職（5 級以上の高級公務員、校長、企業体部長以上の職位 等）
8. 専門／自由職（大学教授、弁護士、芸術家、宗教者、言論人、高所得フリーランサー、医者、デザイナー／プログラマー 等）
9. 家庭主婦
10. 学生（中学生／高等学生／大学生／大学院生）
11. 無職
12. その他（ ）

D 3. あなたの住んでいる地域はどこですか。（聞かずに記録すること）

（ ）市 （ ）区

D 4. 学校はどこまで終えられましたか。

1. 中学校卒業
2. 高校卒業
3. 大学在学
4. 大学卒業
5. 大学院在学
6. 大学院修了以上
7. その他（ ）

（面接員：次の説明文を読んでから、パンフレットの提示後面接終了）

最後に、本調査は「日本国際交流基金(The Japan Foundation)」という日本と海外各国との文化交流を実施している日本の公的機関の依頼を受け、韓日文化交流全般及び日本国際交流基金が実施している韓日交流事業について、皆様の意見を伺ったものです。「日本国際交流基金」に関するパンフレットを差し上げますので、少し具体的な内容をご存知になりたい場合には、パンフレットを参考してください。ありがとうございます。



208 SAJIK-DONG JONGNO-GU SEOUL 110-054, KOREA, TEL(02)3702-2100 / FAX(02)3702-2555/ 한국갤럽 홈페이지 www.gallup.co.kr / 갤럽패널홈 panel.gallup.co.kr
 affiliated with GALLUP INTERNATIONAL

한국갤럽 GALLUP KOREA

GMR200612002

일본에 대한 이미지 조사

응답자 ID

AI-5

--	--	--	--	--

안녕하십니까? 저는 한국갤럽조사연구소에서 면접원으로 일하는 ○○○입니다.
 이번 저희 연구소에서는 국제문화교류와 관련해 의견을 알아보고 있습니다.
 제가 묻게 되는 질문에는 맞고 틀리는 답이 없으며, ○○님의 응답은 이런 의견을 갖고 있는 사람이 몇 퍼센트(%)라는 식으로 통계를 내는 데에만 사용되며, 그 외의 목적에는 절대로 사용되는 일이 없으니 느끼시는 대로 말씀해 주시면 됩니다.
 잠시만 시간을 내어 협조해 주시면 대단히 감사하겠습니다.

■ 구분

1. 일반인
2. 국제교류기금 이용자

1. 문화정보실 회원
2. 센터 내 일본어 강좌 수강 경험자
3. 펠로십, 각종 연수, 기타 기금 공모 사업 관련자

2006년 2월

한국갤럽조사연구소
 소장 박무익
 담당연구원 이은형 / 김소정
 실사연구원 임유정
 주소 서울시 종로구 사직동 208
 전화 02)3702-2677

(면접원 : 문1)~문17)까지 해당 번호에 ○ 표 할 것

- 해당되는 문항이 없을 경우에는 「기타」란에 구체적인 내용을 기입할 것
 (단, 문16)의 1에 ○ 표를 할 경우, 세부항목을 묻은 뒤 응답에 따라 □ 에도 체크표시를 할 것)
 모든 문항에 대해 빠짐없이 응답을 받을 것)

문 1) 실례지만 ○○님 나이(연세)는 올해 만으로 어떻게 되십니까?
 생일을 고려하지 않고, 우리나라 나이에서 한 살을 뺀 만 나이로 응답해 주십시오.

만 _____ 세 → 18세 이상일 경우 계속 진행, 17세 이하일 경우 감사인사 후 면접종료

그럼 먼저 일본을 체험·경험한 적이 있는가에 대해 여쭙보겠습니다.

(보기카드 제시)

문2) 보기 중에서 일본을 체험·경험한 적이 있는 항목을 모두 말씀해주십시오. (복수응답)
 (해당되는 문항이 없을 경우에는 구체적인 내용을 말씀해주십시오.)

1. 일본제품이나 상품을 구입한 적이 있다.
2. 일본음식점 · 레스토랑 · 술집 · 클럽 · 바 등에 간 적이 있다.
3. 일본에 관한 전람회 · 공연 · 강연회 등에 간 적이 있다.
4. 일본의 항공회사를 이용한 적이 있다.
5. 일본기업 · 일본계열 기업에서 일한 적이 있다.
6. 일본기업 · 일본계열 기업과 거래한 적이 있다.
7. 일본인 작가의 책을 읽은 적이 있다.
8. 일본잡지를 읽은 적이 있다.
9. 일본영화 · TV프로그램 · 애니메이션 · 만화를 본 적이 있다.
10. 일본음악 · 가요 · 민요를 들은 적이 있다.
11. 학교수업 · 강의를 통해 일본에 대해 배운 적이 있다.
12. 일본어를 배운 적이 있다.
13. 일본인 친구 · 지인이 있다.
14. 업무 관계로 일본에 간 적이 있다. (주재원 포함)
15. 관광으로 일본에 간 적이 있다.
16. 유학으로 일본에 간 적이 있다.
17. 반일 데모에 참가한 적이 있다.
18. 한일의 과거의 역사에 관한 박물관이나 기념관 (예: 독립기념관, 서대문형무소 유적지 등)에 간 적이 있다.
19. 일본의 유도, 꽃꽂이, 다도, 검도 등을 배운 적이 있다.
20. 일본 단체가 주최한 일본가요의 「노래자랑」에 참가하거나 「노래자랑」을 보러 간 적이 있다.
21. 기타 (구체적으로)

일본에 대한 정보와 지식을 얻는 방법에 대해 여쭙보겠습니다.

(보기카드 제시)

문 3) 평소 일본에 대한 정보와 지식을 어떻게 얻고 계십니까? 보기에서 해당되는 문항을 모두 골라 말씀해주시십시오.(복수응답)
(해당되는 문항이 없을 경우에는 구체적인 내용을 말씀해주시십시오.)

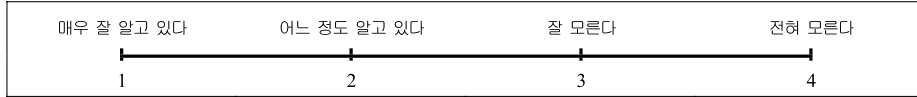
- | | |
|----------------------|-------------------------------------|
| 1. (인쇄된) 신문기사 | 10. 비디오·DVD |
| 2. 인터넷 신문 | 11. 인터넷 |
| 3. 잡지기사 | 12. 일본의 정부·정부관련기관의 홍보지 |
| 4. 책 | 13. 일본음식점·레스토랑 등에 놓여있는 정보지 |
| 5. TV프로그램 | 14. 학교수업·교과서 |
| 6. 라디오 프로그램 | 15. 가족·친척을 통해 |
| 7. 신문·잡지의 홍보 및 광고 | 16. 친구·지인·직장동료를 통해 |
| 8. 텔레비전·라디오의 광고 (CM) | 17. 주한일본대사관 (영사관, 일본문화원(공보문화원)을 포함) |
| 9. 극장영화 | 18. 일본국제교류기금 서울문화센터 |
| 19. 기타 (구체적으로) | |

일본에 대한 관심에 대하여 여쭙보겠습니다.

문4) 일본에 대해 어느 정도 관심이 있는지 다음 각 항목별로 말씀해 주십시오.
(해당되는 항목이 없을 경우에는 구체적인 내용을 말씀해주시십시오.)

일본에 대해	관심			
	매우 관심이 있다	어느 정도 관심이 있다	별로 관심이 없다	전혀 관심이 없다
	1	2	3	4
1. 음악·가요·민요	1	2	3	4
2. 미술·회화	1	2	3	4
3. 전통예술 (가부키, 노 등)	1	2	3	4
4. 패션	1	2	3	4
5. 영화·TV프로그램·애니메이션·만화	1	2	3	4
6. 문학	1	2	3	4
7. 컴퓨터게임·비디오게임 및 게임기	1	2	3	4
8. 스포츠	1	2	3	4
9. 유행	1	2	3	4
10. 탤런트·가수·배우	1	2	3	4
11. 식품·음료·요리	1	2	3	4
12. 상품·제품	1	2	3	4
13. 자연·지리	1	2	3	4
14. 명승·고적지	1	2	3	4
15. 과학기술	1	2	3	4
16. 사회·생활·풍습	1	2	3	4
17. 경제·산업·기업	1	2	3	4
18. 정치·외교·국제관계	1	2	3	4
19. 역사	1	2	3	4
20. 종교	1	2	3	4
21. 일본어	1	2	3	4
22. 한국과의 관계	1	2	3	4
23. 기타 (구체적으로)	1	2	3	4

문 5) 일본에 대해 어느 정도 알고 있다고 생각하십니까?
 '1.매우 잘 알고 있다', '2.어느 정도 알고 있다', '3.잘 모른다', '4.전혀 모른다' 중 하나로 답해 주십시오.



일본의 이미지에 대해 여쭙보겠습니다.

(보기카드 제시)

문 6) 일본에 대해 어떤 이미지를 갖고 계십니까?
 보기에서 해당되는 것을 모두 골라 말씀해주시십시오. (복수응답)

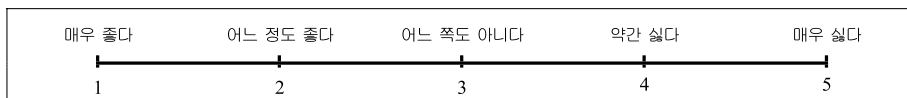
- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 경제력·기술력이 높은 나라 | 6. 호전적인 나라 |
| 2. 경계가 필요한 나라 | 7. 평화로운 나라 |
| 3. 민주적인 나라 | 8. 풍부한 전통과 문화를 가진 나라 |
| 4. 이해하기 어려운 나라 | 9. 구미(미국, 유럽) 지향의 나라 |
| 5. 자연이 아름다운 나라 | 10. 신뢰할 수 있는 나라 |

(보기카드 제시)

문 7) 일본사람은 어떠한 특성을 가지고 있다고 생각하십니까?
 보기에서 해당되는 것을 모두 골라 말씀해주시십시오. (복수응답)

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 근면하다 | 8. 공격적이다 |
| 2. 계산적이다 | 9. 순종적이다 |
| 3. 예의 바르다 | 10. 신의가 부족하다 |
| 4. 거만하다 | 11. 남을 잘 배려한다 |
| 5. 모방을 잘한다 | 12. 무엇을 생각하는지 잘 모르겠다 |
| 6. 창조적이다 | 13. 능률적이다 |
| 7. 단결심이 강하다 | 14. 폐쇄적이다 |

문 8) 일본을 좋아하십니까? 싫어하십니까?
 '1.매우 좋다', '2.어느 정도 좋다', '3.어느 쪽도 아니다', '4.약간 싫다', '5.매우 싫다' 중에서 하나로 답해 주십시오.



이용한 적이 있는 기관에 대해 여쭙보겠습니다.

(보기카드 제시)

문 9) 지금까지 방문하거나 이용하신 적이 있는 기관을 보기에서 모두 골라 말씀해주시십시오. (복수응답)

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 일본국제교류기금 서울문화센터 | 8. 재단법인 일한문화교류기금 |
| 2. 주한일본대사관 | 9. 일본무역진흥회 (JETRO) 서울센터 |
| 3. 일본문화원 (공보문화원) | 10. 일본국제관광진흥기구 (JNTO) 서울센터 |
| 4. 영국문화원 | 11. 일본학생지원기구 (JASSO) 서울일본유학정보센터 |
| 5. 독일문화원 | 12. 일본자치체국제화협회 (CLAIR) 서울사무소 |
| 6. 프랑스문화원 | 13. 서울제팬클럽 (SJC) |
| 7. 중국문화원 | 14. 우리센케 서울출장소 |

일본국제교류기금에 대해 여쭙보겠습니다.

문 10) 일본국제교류기금에 대해 알고 계십니까?

- 1. 알고 있다
- 2. 모른다 → 문D1) 자료분류용 질문으로 갈 것

문 10) 에서 '1. 알고 있다' 고 답하신 분께 여쭙보겠습니다.

문 11) 일본국제교류기금에 대해 알고 있거나, 갖고 계신 이미지가 있으시면 아무 내용이나 자유롭게 말씀해 주십시오.

(보기카드 제시)

문 12) 일본국제교류기금에 대한 정보나 지식은 어떻게 얻으셨습니까?

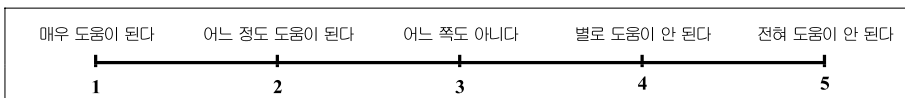
보기에서 해당되는 문항을 모두 말씀해 주십시오. (복수응답)
(해당되는 문항이 없을 경우에는 구체적인 내용을 말씀해 주십시오.)

- 1. (인쇄된) 신문기사
- 2. 인터넷 신문
- 3. 잡지기사
- 4. 책
- 5. TV프로그램
- 6. 라디오 프로그램
- 7. 신문·잡지의 홍보·광고
- 8. 텔레비전·라디오의 광고 (CM)
- 9. 인터넷
- 10. 일본의 정부·정부관련기관의 홍보지
- 11. 일본음식점·레스토랑 등에 놓여있는 정보지
- 12. 가족·친척을 통해
- 13. 친구·지인·직장동료를 통해
- 14. 대학, 학교의 교수나 선생님을 통하여
- 15. 주한일본대사관·영사관
- 16. 일본문화원 (공보문화원)
- 17. 일본국제교류기금 서울문화센터
- 18. 기타 (구체적으로)

(보기카드 제시)

문 13) 한일문화교류에 일본국제교류기금의 활동이 도움이 된다고 생각하십니까?

'1.매우 도움이 된다', '2.어느 정도 도움이 된다', '3.어느 쪽도 아니다', '4.별로 도움이 안 된다', '5.전혀 도움이 안 된다' 중 하나로 답해 주십시오.



(보기카드 제시)
 문 14) 일본국제교류기금은 다음과 같은 사업·활동을 실시 또는 계획하고 있습니다.
 보기에 있는 다음 각 항목과 같은 사업·활동에 관심이 있으십니까?
 그럼 일본국제교류기금의 이러한 사업·활동은 좋은 일이라고 생각하십니까?
 (면접원 : 한 항목의 관심도 및 선호도를 받은 후 다음 항목으로 넘어갈 것)

일본국제교류기금의 사업·활동	(A) 관심도			(B) 평가		
	매우 관심이 있다	어느 정도 관심이 있다	관심이 없다	좋은 일이라 고 생각한다	어느 쪽도 아니다	좋은 일이라 고 생각하지 않는다
	1	2	3	1	2	3
1. 한국의 예술가, 지식인, 연구자를 일본에 초청	1	2	3	1	2	3
2. 일본의 예술가, 지식인, 연구자를 한국에 파견	1	2	3	1	2	3
3. 한국고등학교 등의 교사를 일본에 초청	1	2	3	1	2	3
4. 일본고등학교 등의 교사를 한국에 파견	1	2	3	1	2	3
5. 한국의 청소년(고교생, 대학생)을 일본에 초청	1	2	3	1	2	3
6. 일본의 청소년(고교생, 대학생)을 한국에 보냄	1	2	3	1	2	3
7. 한국인의 일본어 학습자, 일본어 교육자에 대해 일본 연수를 실시(초청)	1	2	3	1	2	3
8. 일본어교육전문가(일본인)를 한국에 파견	1	2	3	1	2	3
9. 일본어교육 실시	1	2	3	1	2	3
10. 한국의 전통문화를 일본에 소개 및 지원	1	2	3	1	2	3
11. 한국의 현대문화를 일본에 소개 및 지원	1	2	3	1	2	3
12. 일본의 전통문화를 한국에 소개 및 지원	1	2	3	1	2	3
13. 일본의 현대문화를 한국에 소개 및 지원	1	2	3	1	2	3
14. 문화·예술단체 등의 일본 공연 실시	1	2	3	1	2	3
15. 심포지움, 세미나 개최	1	2	3	1	2	3
16. 일본에 관한 전람회, 미술전시회 개최	1	2	3	1	2	3
17. 아시아에 관한 전람회, 미술전시회 개최	1	2	3	1	2	3
18. 한국영화를 일본에 소개	1	2	3	1	2	3
19. 일본영화를 한국에 소개	1	2	3	1	2	3
20. 일본어 저적의 한국어 번역에 대해 지원	1	2	3	1	2	3
21. 한국에서의 일본연구에 대한 협조와 지원	1	2	3	1	2	3
22. 한국에서의 한일을 포함한 다국간 비교연구에 대한 협조와 지원	1	2	3	1	2	3
23. 일본연구에 종사하는 한국인에 대한 장학금	1	2	3	1	2	3
24. 한일을 포함한 다국간 비교연구에 종사하는 한국인에 대한 장학금	1	2	3	1	2	3
25. 도서관(문화정보실) 서비스	1	2	3	1	2	3
26. 일본국제교류기금의 팸플릿에 의한 정보제공	1	2	3	1	2	3
27. 인터넷을 통한 일본국제 교류기금의 소개 및 이벤트 정보의 발신	1	2	3	1	2	3

문 15) 지금까지 일본국제교류기금에 접촉 (방문, 문의, 인터넷으로 접촉 등) 한 적이 있으십니까?
또는, 일본국제교류기금이 실시하고 있는 사업에 참가하거나 서비스(도서관 등)를 이용한 적이 있으십니까?

1. 있다
2. 없다 → **문D1) 자료 분류용 질문으로 갈 것**

(보기가드 제시)

문 16) 보기에서 접촉한 목적에 해당되는 번호를 모두 말씀해주시시오.(복수응답)
그리고 그 목적과 기대한 것에 대해 어느 정도 만족하셨는지 '1.매우 만족', '2.어느 정도 만족', '3.어느 쪽도 아니다', '4.약간 불만', '5.매우 불만' 중에서 선택해주시시오..
(해당되는 보기가 없을 경우에는 구체적인 내용을 말씀해주시시오.)

접촉한 목적	만족도				
	매우 만족	어느 정도 만족	어느 쪽도 아니다	약간 불만	매우 불만
	1	2	3	4	5
1. 일본에 관한 정보와 자료 수집을 위해 (면접원 : 1.을 응답했을 경우 다음을 묻은 뒤 해당 □ 에 체크할 것) 어떤 정보와 자료였습니까? <input type="checkbox"/> 일본연구에 관한 문헌·자료 <input type="checkbox"/> 일본생활문화에 관한 문헌·자료·잡지 <input type="checkbox"/> 애니메이션·영화 등의 비디오·DVD <input type="checkbox"/> 만화 <input type="checkbox"/> 일본의 상품·제품에 관한 정보 <input type="checkbox"/> 일본어교육 교재 <input type="checkbox"/> 일본유학에 관한 정보 <input type="checkbox"/> 일본에서의 취직에 관한 정보 <input type="checkbox"/> 관광에 관한 정보 <input type="checkbox"/> 기타 (구체적으로 :)	1	2	3	4	5
2. 일본에 관한 일반적인 상담·문의	1	2	3	4	5
3. 일본관련 이벤트의 정보 수집을 위해	1	2	3	4	5
4. 일본국제교류기금주최 이벤트에 참가하기 위해	1	2	3	4	5
5. 영화관람을 하기 위해	1	2	3	4	5
6. 일본어학습을 하기 위해	1	2	3	4	5
7. 일본어회화를 하는 장소로서	1	2	3	4	5
8. 일본인과의 만남을 위해	1	2	3	4	5
9. 타분야 사람들과 만나기 위해	1	2	3	4	5
10. 일본신문, 잡지를 읽기 위해	1	2	3	4	5
11. 문화교류활동에 대한 지원을 받기 위해	1	2	3	4	5
12. 장학금을 받기 위해	1	2	3	4	5
13. 문화교류활동에 관한 조인, 자문을 받기 위해	1	2	3	4	5
14. 일본의 예술·학술분야의 사람·단체·기관을 소개 받기 위해	1	2	3	4	5
15. 일본의 예술·학술분야의 사람·단체·기관을 초청하기 위해 중개를 의뢰하려고	1	2	3	4	5
16. 일본에서 문화활동을 할 수 있는 장소·연락처에 대해 소개·중개를 부탁하려고	1	2	3	4	5
17. 기타 (구체적으로 :)	1	2	3	4	5

(보기카드 제시)

문17) 다음 보기의 일본국제교류기금관련 사업·활동 중에서 ○○님이 실제로 참가 또는 감상하셨거나 관여하셨던 내용을 모두 말씀해 주십시오. (복수응답)

- 1. 일본의 전통공예전·인형전
- 2. 일본의 현대그래픽디자인전·포스터전
- 3. 일본의 현대미술전
- 4. 일본영화·애니메이션의 상영회
- 5. 일본의 현대무용공연
- 6. 일본어강좌
- 7. 일본어교사 연수사업
- 8. 일본어능력시험
- 9. 일본어응변대회
- 10. 일본에 관한 강연회
- 11. 일본 또는 한일관계에 관한 국제학술회의
- 12. 펠로십
- 13. 한일 시민단체 (NPO) 교류사업
- 14. 한일청소년·학생교류사업
- 15. 한일을 포함한 아시아의 만화전
- 16. 한일을 포함한 아시아의 현대미술전
- 17. 일본국제교류기금 서울문화센터 도서관(문화정보실)의 이용
- 18. 기타 (구체적으로) _____

지금까지 질문에 응해 주셔서 대단히 감사합니다.
 마지막으로 자료분류를 위해 몇 가지만 더 여쭙겠습니다.
 이 항목들은 통계적인 자료분류 목적 이외에는 결코 사용되지 않을 것을 약속드립니다.

문 D1) 성별 (문지 말고 기록할 것)

- 1. 남
- 2. 여

(보기카드 제시)

문 D2) 현재의 직업은 무엇입니까?

- 1. **농업/수산업/축산업** (가족종사자 포함)
- 2. **자영업** (종업원 9명 이하의 소규모 업소주인 및 가족 종사자, 약국, 개인택시운전자)
- 3. **판매/서비스직** (상점점원, 세일즈맨, 보험설계사 등)
- 4. **기능/숙련공** (중장비/트럭운전자, 전자/가전제품 A/S기술자, 숙련공 등)
- 5. **일반 작업직** (토목관계의 현장작업, 청소, 수위, 육체노동 등)
- 6. **사무/기술직** (일반회사 사무직, 기술직, 유지원/초/중/고등학교 교사, 회사에 소속된 웹디자이너, 컴퓨터 프로그래머 등)
- 7. **경영/관리직** (5급 이상의 고급공무원, 교장, 기업체부장 이상의 직위 등)
- 8. **전문/자유직** (대학교수, 변호사, 예술가, 종교가, 언론인, 고소득 프리랜서, 의사, 디자이너/프로그래머 등)
- 9. **가정주부**
- 10. **학생** (중학생/고등학생/대학생/대학원생)
- 11. **무직**
- 12. 기타 (적을 것 : _____)

문 D3) 거주 지역 (문지 말고 기록할 것)

_____ 시 _____ 구

문 D4) ○○님께서 학교를 어디까지 마치셨습니까?

- 1. 중학교 졸업
- 2. 고등학교 졸업
- 3. 대학 재학
- 4. 대학교 졸업
- 5. 대학원 재학
- 6. 대학원 수료 이상
- 7. 기타 (_____)

(면접원 : 다음 설명문을 읽어주고 팜플렛 제시 후에 면접 종료)

마지막으로, 본 조사는 「일본국제교류기금(The Japan Foundation)」이라는 일본과 해외 각국과의 문화 교류를 실시하고 있는 일본의 공적기관의 의뢰를 받아, 한일문화교류 전반 및 일본국제교류기금이 실시하고 있는 한일교류사업에 대하여 시민 여러분의 의견을 여쭙어 본 것이었습니다.

「일본국제교류기금」에 대한 팜플렛을 드리오니 좀 더 자세한 내용을 아시고 싶으시면 팜플렛을 참조하시기 바랍니다.
 감사합니다.

◀ 조사에 응해 주셔서 대단히 감사합니다 ▶

협조 정도	1. 상	2. 중	3. 하
-------	------	------	------

スケールの作成

<MA (multiple answer) の場合>

Q 2 は 1~21

Q 3 は 1~19

Q 6 は 1~10

〔「1 = +1」「2 = -1」「3 = +1」「4 = -1」「5 = +1」「6 = -1」
「7 = +1」「8 = +1」「9 = -1」「10 = +1」として計算する。〕

※ 仮説的に、良いイメージの項目は+1、否定的なイメージの項目は-1とした。

Q 7 は 1~14

〔「1 = +1」「2 = -1」「3 = +1」「4 = -1」「5 = -1」「6 = +1」
「7 = +1」「8 = -1」「9 = +1」「10 = -1」「11 = +1」「12 = -1」
「13 = +1」「14 = -1」として計算する。〕

Q12は 1~18

Q16(A)は 1~17

Q17は 1~18 (この質問項目についても Smallest Space Analysis を試みる。)

※ 以上の質問項目では、Q 6 と Q 7 の場合を除いて、それぞれ○印のついている選択肢の数を数える。その上で全体の分布の4分位で recode する。

<SA (single answer) の場合>

Q 4 は「とても関心がある = 3」「まあ関心がある = 2」「あまり関心がない = 1」「全く関心がない = 0」

Q 5 は「とてもよく知っている = 3」「まあ知っている = 2」「あまり知らない = 1」「全く知らない = 0」

Q 8 は「とても好き = +2」「まあ好き = +1」「どちらともいえない = 0」「やや嫌い = -1」「とても嫌い = -2」

Q13は「とても役に立つ = +2」「まあ役に立つ = +1」「どちらともいえない = 0」「あまり役に立たない = -1」「全く役に立たない = -2」

Q14 (A)は「とても関心がある = +2」「ある程度関心がある = +1」「全く関心がない = 0」

Q14 (B)は「よいことだと思う = +1」「どちらともいえない = 0」「よいことだと思わない = -1」

Q16 (B)は「とても満足 = +2」「まあ満足 = +1」「どちらともいえない = 0」「やや不満 = -1」「とても不満 = -2」

として、それぞれの分布を表示する。

recode Q2(0 thru 4=1)(5 thru 7=2)(8 thru 11=3)(12 thru hi=4)

recode Q3(0 thru 3=1)(4,5=2)(6 thru 8=3)(9 thru hi=4)

recode Q4(0 thru 21=1)(22 thru 29=2)(30 thru 39=3)(40 thru hi=4)

recode Q6(-4 thru -1=1)(0=2)(1,2=3)(3 thru hi=4)

recode Q7(-7 thru -1=1)(0,1=2)(2=3)(3 thru hi=4)

recode Q12(0,1=1)(2=2)(3=3)(4 thru hi=4)

recode Q14A(0 thru 37=1)(38 thru 46=2)(47 thru 52=3)(53,54=4)

recode Q14B(-18 thru 20=1)(21 thru 25=2)(26=3)(27=4)

recode Q16A(0 thru 2=1)(3,4=2)(5,6=3)(7thru hi=4)

recode Q16B(-12 thru 1=1)(2,3,4=2)(5,6,7=3)(8 thru hi=4)

recode QQ17(0,1=1)(2,3=2)(4,5=3)(6 thru hi=4)

【単純集計結果】

問 2. 日本について体験・経験されたことのある項目すべてを選んでください。

単位 (%)

問 2	対象者区分			
	一般市民 (n=1012)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
日本の製品や商品を購入したことがある	84.2	95.5	98.2	100.0
日本人作家の本を読んだことがある	46.2	96.6	99.1	98.1
日本映画・テレビ番組・アニメ・漫画を見たことがある	76.0	97.7	97.2	97.1
日本語を学んだことがある	47.4	96.6	99.1	95.2
観光で日本に行ったことがある	14.6	75.0	88.1	87.5
反日デモに参加したことがある	1.7	1.1	7.3	6.7
韓日の過去の歴史に関する博物館や記念館(例 独立記念館、西大門刑務所跡など)に行ったことがある	37.9	76.1	77.1	84.6
日本の柔道、華道、茶道、剣道などを習ったことがある	7.0	33.0	51.4	52.9
その他*	0.4	3.4	3.7	1.0

* 「その他」の回答

問 2
両親から日本について聞いた
子どもの頃、日本で生活したことがある
友人を通じて日本の情報を得た
講演をしたことがある
国際会議で日本関係の論文を発表
日本語観光ガイドのボランティア活動
日本のデザイナーと交流、ワークショップ
日韓政府共同主催の青少年交流プログラムに参加
日本語翻訳のアルバイト
日本伝統のお茶会に参加
着付け教室に通ったことがある
日本人の喫茶店で働いたことがある
知らない/無回答

問 3. あなたは普段、日本についての情報や知識をどこから入手していますか。

単位 (%)

問 3	対象者区分			
	一般市民 (n=1012)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
(印刷された)新聞記事	54.7	64.8	54.1	76.0
インターネット新聞	25.1	58.0	74.3	71.2
雑誌記事	24.8	63.6	48.6	76.9

本	33.0	79.5	74.3	88.5
テレビ番組	80.4	69.3	77.1	80.8
ラジオ番組	12.6	14.8	5.5	18.3
新聞・雑誌の広報・広告	23.8	40.9	29.4	46.2
テレビ・ラジオの広告(コマーシャル)	30.9	34.1	30.3	37.5
劇場映画	19.9	50.0	49.5	51.0
ビデオ・DVD	17.9	62.5	51.4	56.7
インターネット	39.3	69.3	78.0	82.7
日本の政府・政府関連機関の広報誌	1.9	45.5	34.9	63.5
日本料理屋・レストランなどに置かれている情報誌	11.2	20.5	13.8	24.0
学校の授業・教科書	26.8	40.9	36.7	48.1
家族・親族から聞いて	20.0	17.0	7.3	13.5
友人・知人・職場の同僚から聞いて	29.5	56.8	56.9	56.7
在韩国日本大使館(領事館、日本文化院(公報文化院)を含む)	1.1	45.5	45.0	56.7
国際交流基金ソウル日本文化センター	0.4	86.4	80.7	60.6
その他*	0.3	0.0	0.0	1.0

*「その他」の回答

問3	
塾	
日本人客との会話を通じて情報交換	
日本製品の使用で	

問4. あなたは日本の事柄についてどの程度関心がありますか。

単位 (%)

問4	対象者区分			
	一般市民 (n=1012)と とても+まあ関 心がある	図書館会員 (n=88)とても+ まあ関心がある	日本語講座受 講者(n=109) とても+まあ 関心がある	フェローシップ、 (n=104)とても +まあ関心があ る
音楽・歌謡・民謡	29.0	84.1	81.7	83.7
美術・絵画	12.5	58.0	50.5	64.4
伝統芸能(歌舞伎、能など)	12.8	64.8	67.0	95.0
ファッション	34.0	52.3	54.1	48.1
映画・テレビ番組・アニメ・漫画	49.0	95.5	94.5	91.3
文芸	26.2	93.2	89.0	93.3
コンピューターゲーム・ビデオゲーム及びゲーム機	25.8	23.9	13.8	14.4
スポーツ	31.3	34.1	33.9	58.7
流行	28.2	56.8	55.0	56.7
タレント・歌手・俳優	19.7	56.8	66.1	52.9

食べ物・飲み物・料理	51.5	88.6	88.1	79.8
商品・製品	60.9	84.1	86.2	87.5
自然・地理	22.8	84.1	80.7	89.4
名勝・古跡地	23.9	85.2	81.7	90.4
科学技術	34.7	61.4	61.5	61.5
社会・生活・風習	27.2	86.4	91.7	93.3
経済・産業・企業	35.7	79.5	78.0	88.5
政治・外交・国際関係	30.4	78.4	82.6	88.5
歴史	24.8	83.0	88.1	95.2
宗教	7.6	45.5	47.7	74.0
日本語	40.1	96.6	100.0	96.2
韓国との関係	68.0	90.9	99.1	98.1

* 「その他」の回答

問4	
電化製品	
化粧品	
薬品	
日本企業への就職	
教育	
温泉	
国民性	

問6. あなたは日本に対してどのようなイメージを持っていますか。(回答者数合計 1313人) 単位 (%)

問6	対象者区分			
	一般市民 (n=1012)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
経済力・技術力の高い国	85.6	95.5	89.9	97.1
警戒を要する国	45.1	42.0	39.4	44.2
民主的な国	11.2	36.4	16.5	40.4
理解しにくい国	44.7	31.8	43.1	32.7
自然の美しい国	28.5	65.9	60.6	73.1
好戦的な国	19.1	15.9	19.3	18.3
平和な国	7.4	29.5	19.3	38.5
豊かな伝統と文化を持つ国	24.8	63.6	53.2	73.1
欧米志向の国	17.9	70.5	65.1	72.1
信頼できる国	5.9	23.9	12.8	23.1

問7. 日本人はどのような特性を持つと思いますか。(回答者数合計1313人)

単位 (%)

問7	対象者区分			
	一般市民 (n=1012)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
勤勉である	56.7	90.9	85.3	95.2
計算高い	59.8	62.5	51.4	53.8
礼儀正しい	55.8	94.3	78.9	91.3
尊大である	16.5	11.4	1.8	3.8
人まねする	34.5	51.1	47.7	50.0
創造的である	20.3	42.0	25.7	30.8
団結心が強い	40.5	54.5	37.6	53.8
攻撃的だ	28.9	12.5	7.3	14.4
従順である	19.3	42.0	37.6	51.0
信義に欠ける	21.3	12.5	6.4	2.9
思いやりがある	22.4	72.7	71.6	81.7
何を考えているかよく分からない	31.5	51.1	53.2	46.2
能率的である	18.1	42.0	28.4	44.2
閉鎖的である	8.9	40.9	39.4	47.1

問8. 日本が好きですか、嫌いですか。(回答者数合計1313人)

単位 (%)

問8	対象者区分			
	一般市民 (n=1012)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
とても好き	1.0	20.5	14.7	23.1
まあ好き	14.2	54.5	59.6	53.8
どちらとも言えない	46.4	23.9	24.8	22.1
やや嫌い	28.8	0.0	0.9	0.0
とても嫌い	9.6	1.1	0.0	1.0

問9. あなたがこれまで訪問したり利用したりしたことのある機関すべてを選んでください。

単位 (%)

問9	対象者区分		
	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
国際交流基金ソウル日本文化センター	100.0	100.0	94.2
在韓国日本大使館	50.0	54.1	65.4
日本文化院(公報文化院)	77.3	70.6	75.0
英国文化院	35.2	22.9	22.1
ドイツ文化院	15.9	6.4	26.0
フランス文化院	22.7	12.8	34.6
中国文化院	10.2	1.8	6.7

問12. あなたは国際交流基金についての情報や知識をどこから入手しましたか。(回答者数 338人)単位 (%)

問12	対象者区分			
	一般市民 (n=37)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=104)
(印刷された)新聞記事	40.5	8.0	3.7	10.6
インターネット新聞	21.6	10.2	4.6	11.5
雑誌記事	10.8	2.3	1.8	7.7
本	10.8	2.3	1.8	8.7
テレビ番組	29.7	2.3	0.0	2.9
ラジオ番組	2.7	0.0	0.0	1.0
新聞・雑誌の広報・広告	8.1	2.3	0.9	4.8
テレビ・ラジオの広告(コマーシャル)	13.5	1.1	0.9	1.9
インターネット	18.9	31.8	51.4	29.8
日本の政府・政府関連機関の広報誌	2.7	10.2	12.8	33.7
日本料理屋・レストランなどに置かれている情報誌	8.1	1.1	0.0	0.0
家族・親族から聞いて	16.2	3.4	2.8	1.9
友人・知人・職場の同僚から聞いて	21.6	42.0	44.0	39.4
大学や学校の先生から聞いて	10.8	21.6	15.6	32.7
在韩国日本大使館・領事館	5.4	6.8	8.3	28.8
日本文化院(公報文化院)	5.4	20.5	24.8	32.7
国際交流基金ソウル日本文化センター	2.7	38.6	40.4	64.4
その他*	8.1	4.5	5.5	4.8

*「その他」の回答

問12
銀行員
大学のプラカードをみて
広報冊子や案内書
留学で知る
学校に送られてきた広報冊子
日本語先生の推薦
直接訪れて
学校からの案内書
メーリングリスト(ニュースレター)
フォーラムに招かれて
日韓教員の研究会
子どもがイギリス文化院に通うようになって、日本関連機関があるので関心を持って見てみたら国際交流基金があった
日本語先生の推薦

問13. 韓日の文化交流に国際交流基金の活動が役に立っていると思いますか。

単位 (%)

問13	対象者区分			
	一般市民 (n=37)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日 本語講座受講 経験者 (n=109)	フェローシップ、 各種研修、その 他基金公募事業 の関係者 (n=104)
とても役に立つ	13.5	44.3	37.6	67.3
まあ役に立つ	56.8	46.6	54.1	29.8
どちらとも言えない	16.2	5.7	3.7	2.9
あまり役に立たない	13.5	2.3	3.7	0.0
全く役に立たない	0.0	1.1	0.9	0.0

問16. コンタクトをした目的としてあてはまる番号すべてを選んでください。またその場合、その目的や期待はそれぞれどの程度満たされましたか。

単位 (%)

【コンタクトした目的】 問16	対象者区分			
	一般市民 (n=7)	図書館(文化情報室)の会員 (n=88)	センターの日 本語講座受講 経験者 (n=109)	フェローシップ、 各種研修、その 他基金公募事業 の関係者 (n=104)
日本に関する情報や資料を入手するため	42.9	96.6	95.4	85.4
日本に関する一般的な相談・問合せ	42.9	18.2	22.0	25.2
日本関連の催しについての情報を得るため	28.6	33.0	37.6	31.1
国際交流基金主催の催しに参加するため	28.6	34.1	40.4	41.7
映画を観るため	0.0	44.3	34.9	12.6
日本語学習のため	14.3	65.9	86.2	30.1
日本語を話す場所として	0.0	34.1	47.7	16.5
日本人と出会うため	14.3	25.0	31.2	14.6
異分野の人々との出会いを求めて	28.6	12.5	19.3	11.7
日本の新聞や雑誌を読むため	28.6	70.5	53.2	15.5
文化交流活動に対する助成を受けるため	14.3	13.6	14.7	48.5
奨学金を得るため	0.0	11.4	11.9	16.5
文化交流活動に関する助言を受けるため	0.0	11.4	15.6	25.2
日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を紹介してもらうため	14.3	11.4	9.2	18.4
日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を招聘するための仲介を依頼するため	0.0	6.8	8.3	18.4
日本において文化活動を行う場所・連絡先を紹介・仲介してもらうため	0.0	6.8	10.1	14.6
その他*	14.3	1.1	1.8	1.0

単位 (%)

【満足度】 問16	対象者区分			
	一般市民 (とても+ある程度満足)	図書館会員(とても+ある程度満足)	日本語講座受講者(とても+ある程度満足)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者(とても+ある程度満足)
日本に関する情報や資料を入手するため	66.7	90.6	89.4	85.2
日本に関する一般的な相談・問合せ	66.7	93.8	58.3	88.5
日本関連の催しについての情報を得るため	50.0	82.8	73.2	87.5
国際交流基金主催の催しに参加するため	100.0	83.3	84.1	90.7
映画を観るため	0.0	97.3	76.3	84.6
日本語学習のため	100.0	86.2	95.7	80.6
日本語を話す場所として	0.0	60.0	80.8	88.2
日本人と出会うため	100.0	59.1	58.8	66.7
異分野の人々との出会いを求めて	50.0	54.5	47.6	58.3
日本の新聞や雑誌を読むため	100.0	93.5	91.4	81.3
文化交流活動に対する助成を受けるため	100.0	66.7	62.5	90.0
奨学金を得るため	0.0	20.0	30.8	82.9
文化交流活動に関する助言を受けるため	0.0	40.0	58.8	96.2
日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を紹介してもらうため	100.0	40.0	30.0	89.5
日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を招聘するための仲介を依頼するため	0.0	33.3	22.7	89.5
日本において文化活動を行う場所・連絡先を紹介・仲介してもらうため	0.0	50.0	45.5	86.7
その他*	0.0	100.0	100.0	0.0

*「その他」の回答

問16
友人の誘いで訪れたことがある
講座の申し込み
体験学習(学生)
セミナーに参加
図書館の利用(図書の貸出)

問17. 国際交流基金関連事業・活動の中から、あなたが実際に参加・鑑賞・関係したことがあるものすべてを選んでください。 単位 (%)

問17	対象者区分			
	一般市民 (n=4)	図書館(文化情報室)の会員 (n=87)	センターの日本語講座受講経験者 (n=109)	フェローシップ、各種研修、その他基金公募事業の関係者 (n=103)
日本の伝統工芸展・人形展	25.0	23.0	28.4	30.1
日本の現代グラフィックデザイン展・ポスター展	0.0	24.1	22.9	8.7
日本の現代美術展	25.0	24.1	15.6	17.5
日本映画・アニメーションの上映会	25.0	33.3	40.4	27.2
日本の現代舞踊公演	0.0	2.3	3.7	10.7
日本語講座	0.0	27.6	92.7	30.1
日本語教師研修事業	0.0	8.0	20.2	35.0
日本語能力試験	25.0	34.5	65.1	19.4
日本語弁論大会	25.0	0.0	2.8	2.9
日本に関する講演会	0.0	31.0	31.2	35.9
日本あるいは韓日関係に関する国際学術会議	0.0	18.4	11.9	46.6
フェローシップ	0.0	2.3	1.8	36.9
韓日の市民団体(NPO)交流事業	0.0	0.0	0.9	20.4
韓日の青少年・学生交流事業	25.0	2.3	4.6	13.6
韓日を含むアジアの漫画展	0.0	9.2	11.9	3.9
韓日を含むアジアの現代美術展	0.0	6.9	11.9	4.9
ソウル日本文化センター図書館の利用	0.0	87.4	64.2	37.9
その他*	50.0	1.1	3.7	3.9

*「その他」の回答

問17
国際交流基金関連団体との交流を通じて日本に対する理解を促進
ウォンガン大学で国際交流基金の人達と出会った
短期研修
浮世絵展覧会鑑賞
アジア漫画展
日本作家との出会い
相撲、歌舞伎公演、18世紀作家美術展
APYE
会議室使用、翻訳の助成
日本の演劇を観賞
漫才
知らない／無回答

自由回答内容

問11. 国際交流基金について、知っていることやイメージすることがありましたらどのような内容でも自由におっしゃってください。

《一般市民 32名》

15	韓国国内に日本資金が入って利用している。
37	小・中・高等学校の交流
46	国が国際間で交流をするためには資金が必要。
98	友人について行っただけなので、特別なイメージは持っていない。
164	文化交流
177	文化。韓国が侵略されたことに対する補償問題の解決策
183	韓流の影響で、韓国と日本文化の交流が活性化する窓口の役割をしている。
184	日本との交流の必要性を感じる。社会的に国家利益のためにも互いに冷静になって、実際に目で見て判断する必要がある。
206	先進国に対しては寛大で親ヨーロッパを強く支持する一方、後進国に対しては寛大なふりをするだけで、尊大になることが多い。
315	形式的だ
325	子どもが日本語学科なので、ここでキャンプをした記憶がある。
327	相互に助け合うところ。韓国の外交部、日本の外務省の機関。
341	韓国人に必要な団体
389	能力試験主催機関
400	国(日本)を知ってもらうためにいろいろな支援を行っている。
415	ただ立ち寄っただけの経験(留学準備のため、あちこち行った時)
482	韓国人が何を求めているのかよく知らない。
538	日本は、どんな国でも貧しい人(国)を援助している。
615	あまりよくない。(強制的である)
658	両国の文化交流のために必要な資金を集め、活動する機関
671	奨学金の財団(日本語がある水準に達すると奨学金がもらえる)
772	日本の国益のための広報機関
808	日本と韓国の文化交流、または日本語教育、文化芸術交流など多様な情報を提供するところ
809	韓国と日本の文化交流および情報交換などを専門的に扱い、発展させるところ
843	国連の基金を提供
848	日本人が金銭で韓国人を買収する。日本を伝えるための投資方式。
1077	研究活動の支援
1145	奨学金の授与
1154	日本文化と韓国文化の交流のため留学生を派遣・招聘する仕事を担当しているところ

1156	日本、韓国間に留学生の誘致および情報交換の案内などを行っているところ
1164	韓国と日本の交流を通じて文化を知る各種事業を実施
1279	韓日交流のために教師、学生の交流を主催している。2003年、“韓日教員交流事業”に参加したことがあるが、親切で役に立つ研修であった。

《基金利用者 301名》

1) 図書館利用者

897	資料が多くない。(メディア資料)
917	きれいだ。
918	きれいで静かだ。
919	韓日相互間の文化情報交流、日本文化を習得できるところ。
920	図書の貸出や閲覧。辞書類が借りられない。辞書類を貸出してほしい。
923	DVD や本が借りられる。
924	日本を理解するのに大いに役に立つ。日本文学や芸術を学ぶのに便利。
925	文化行事や図書・ビデオなどの貸出、日本語講座、日本留学プログラムがあって韓国にしながら日本文化と交流ができて助かる。
926	本やビデオが借りられるからよい。新聞も読める。
927	日本を行事や書籍、大衆メディアを通じて広く知らせようと努力している。
928	積極的な広報活動で多くの情報を提供しており、資料が豊富。
929	図書館を利用したいが、小学校1年(年齢制限)は何故入れないのか知りたい。必ず利用できるようにしてほしい。
930	きれいで、日本に関する情報が入手できるからいい。本の貸出期間が短いような気がする。
931	日本に関する資料が必要なときよく利用する。
932	少し閉鎖的に感じる。職員があまり親切ではない。
933	いろいろなプログラムが緻密に生まれ、内容もとても充実している。日本語を理解するのに大いに役に立つ。
934	毎週、定期的に情報を入手するのに良い機関。本やビデオ、DVD など、ほしい情報(資料が多い)がすべて手に入る。
935	日本に関する情報や知識に触れるところだ。
936	基金を得て勉強をしたり、旅行ができるなど、とても役に立つ。
937	日本語を学習する人に非常に有効な場所だ。日本にとっても広報活動やイメージ改善に効果的なところだ。
939	資料室の運営システムには満足しているが、一般の人が気軽に利用するプログラムが少ない。
942	きれいで、親切で、資料がよく揃っている。
943	日本文化の海外交流、日本語の普及に努力している。けれども、幅広く利用するにはまだまだだ。
944	韓国人に対する情報提供や案内(日本に関して)が徹底していて事細かだ。日本の国家イメージ上昇に役に立つ。

946	日本政府の傘下機関として日本のイメージを対外的に広報するために設立された機関。日本に対する友好的なイメージを各国がもつように活動している機関。
947	日本の文化を広報するために設置されたところ。
948	日本の文化や情報、日本語学習に必要な文化センター。
949	日本について情報がほしい人が来館して本や雑誌、新聞、DVD、CDなどを利用するところ。
952	なし
954	日本大使館の一部。日本語学習などの部分を担当している。
955	日本文化の交流、紹介
956	日本を体験できるところである。
957	日本を知ってもらうために研究基金を出している。
958	人と人をつないでくれるところ。
959	日本文化の国際伝播を支援する共益団体。
960	文化情報室を通じて日本文化を紹介する機関。学術、民間などの交流を企画、推進する機関
967	日本文化の広報
968	日本語講座があることと、日本に関する視聴覚教材を利用できるところ
969	日本文化を知ることができるところ
970	日本に関する資料が70%程度得られるところ
974	奨学生交換プログラム、日本の文化紹介
975	日本に関する情報や資料を非営利で提供してくれるところ
976	資料や情報を提供(日本に関する)。本、ビデオの貸出
977	日本語、全般的な文化、歴史、経済を広報するところ。反日のイメージを緩和させる役割
978	日本語能力試験を主管し、学術的に大衆を広報するところ
979	日本に関する広報、専門資料、日本語教育をするところ
980	日本の文化を広報するところ
981	日本の文化、地理に関する情報提供と広報
982	研修に参加したことがある。勤勉で一生懸命に仕事をしているようだった。
983	日本に関する民間レベルでの広報および情報交流
984	日本についてさまざまな情報を提供し、行事を催して、日本に対するより肯定的なイメージを持たせる。
985	日本文化の広報。駐在国に対する親善に寄与
986	韓国人の日本に対する友好的な雰囲気作りのための政策
987	日本に関する良い情報が多く得られるところ
991	日本に関する資料が見られ利用できるところ
1027	日本関連の書籍が読めるのはいいことだ。
1028	自国の文化を海外に広報するために努力することは良いことであり、韓国が見習うべき部分だと思う。
1033	知っているが、利用したことがないからよくわからない。

1034	韓国に日本をもっと知ってもらうために活用される基金(文化公演などに使われる)
1043	知ってはいるが、詳しくは知らない。
1044	知ってはいるが、知らないものの方が多い。
1046	日本の古典文化が好き。
1050	コンピュータは、タイピングができないと利用できないので、会社の仕事がかどらない。日本のガイドなのでビデオを利用するが、貸し出し限度を2本から3本に増やしてほしい。
1051	日本関連の情報が入手できて資料も多い。他国と日本との交流に大きく役に立っている。
1052	とてもきれいで、職員もやさしい。
1061	ソウル文化センターで図書や資料を貸出してもらう程度
1075	日本の文化などを広報し、(文化などを)伝播する機関で、日本語のできる人には親近感がある。
1082	日本についての情報がよくそろっている。多様な公演があって日本文化に接しやすい。
1086	知ってはいたが利用したことはほとんどない。職場生活のため利用時間が制限される。
1091	日本語や日本の文化を世界に伝えるために作られた文化財団。日本文化の誇りと日本の経済力が伺えて、とてもうらやましい。また、教師としていろいろと助けてもらっている。
1094	いろいろな活動の中でも日本語学科の先生に助成される基金だと思っている。
1096	ない
1110	日本の観光地や歴史、文学に関する本が多いので情報収集によく、ビデオや本が借りられるからいい。
1114	日本文化の伝道師
1117	具体的な内容についてはよく知らない。文化情報資料室を利用したことがある。
1120	20年前から知っているが利用する機会がなかった。
1121	室内のインテリアもきれいだし、静かで、ゆったりとした感じ。職員が親切だとは思わない。いろんな雑誌や映像資料などが多くていい。利用するための近接性は落ちる。
1122	閉鎖的で、行事の広報活動も閉鎖的で偏狭である。極端にいうと、高麗大学日本文学科教授がいないと仕事ができないようなイメージを与える。より広範囲で偏りのない態度を取ってほしい。
1123	国際交流を学んだ学者が多いが、活動は少ないようである。
1126	いい資料室
1251	韓日交流のためにさまざまな計画を持っているので役割が期待される。
1258	きれいなイメージ。日本語と関連する学習がもう少し開放されればと思う。
1301	日本を外国人によく理解してもらうために日本が運営しているところだと思っています。
1303	日本に関連する定期的な美術、文化展示を行っている。
1304	日本の文化、経済、政治を広報するところ
1305	日本と韓国の文化や人的交流を通じて文化や言語などを広報するところ
1306	日本に関する資料を手近に接することができる。私設の日本語教室より日本語の勉強がよくできる。資料の利用時間が短いので利用が不便なところ。(日本語の授業も同様。授業の始まる時間が早すぎる感じがします)
1307	日本の文化やさまざまな情報を広報するところ

2) 日本語講座受講者

898	韓日交流として文化的、知識的な活動に熱心に取り組んでおられると感じました。センター職員の方もやさしく、設備もきれい。利用しやすいところだと思います。
899	日本に関するいろいろな資料が入手できる。
900	日本に対していいイメージが持てる。
901	教員・一般人を対象に各種の研修、図書館の運営
902	教員の研修、一般人の教育プログラム、韓日文化広報…
903	開放的だ。日本語を習う人の役に立つ。日本の公演や講演の情報を手近に接することができる。図書(関連資料)の貸出、閲覧がしやすい。教員の研修プログラムは、とてもよかった。
904	日本文化の資料や講座、講義が多様化している。
905	日本(文化、経済など)に関する研究や日本を伝える役割を政府に代わり実施する機関(支援機関)。日本語学習の手助けをする機関。
906	日本に関するさまざまな情報に触れる空間だと思うのですが、一般的に、日本語を専攻する学生や教師など、一部の人だけに知られているように見受けられます。(または、一部の年配者)
907	交流に大いに役立っている。
908	日本語講座を受けたことがあり、図書やDVD資料を借りたことがある。日本に関する情報がたくさん入手できるし、韓国人に日本の情報をより友好的に伝えようとする機構だと思います。
909	海外で日本語に関する支援業務を行っているところだと思っている。日本語を習っている人に大いに役立っていると思う。
910	日本語に関する情報を素早く知ることができるのでいい。日本語関連講座は体系的になっていると思います。
911	とても活発で積極的に活動している。
912	日本の資料が豊富、授業内容がよい。
913	職員が親切だ。広報が足りない。
914	韓日関係を友好的にする。日本の情報をたくさん手に入れることができる。
915	役に立った。資料が豊富で、講座もすばらしい。
916	さまざまな情報を提供している。よいイメージを持っている。
921	本やビデオが揃っている。展示会や講演会の知らせが入り口に貼ってあり、よく目に入るからいい。
922	日本文化を広く伝えるために努力している機関。広報の対象が限られている。
938	日本文化を伝えようと大いに努力している。
940	韓日文化交流、日本語教育
941	日本語の授業は、他の一般の日本語教室では受けられない水準なので良い。
945	日本文化の紹介、伝播
950	さまざまな情報、日本語、日本文化教育、フェロシップ、留学関連
951	韓日交流の場

953	日本に関する情報を入手
961	日本語が学べて、図書館で資料利用が可能。ときどき展示会が催される場所。
962	文化交流とそれを円滑にしようとする企業、または興味をもつ個人を支援。日本文化を理解してもらうために講座や公演を開催、展示会を催す機関
963	現地の人たちに日本語と日本文化を詳しく正確に広報する機関
964	日本の文化や日本語を外国人に正しく伝え、豊かな文化を広報しようとする地道な努力が見られ、嬉しいです。
965	日本語講座、文化交流
966	日本語講座を受けたことがあります。形式的な気がしました。
972	日本に関する理解を深めるための講座、セミナーを計画し研修を実施する信頼できる機関
973	日本語の本やビデオなどを借りたり、接することができる図書館
988	日本の文化を広報する場所
989	日本文化の広報および日本語教育研修
990	日本が主管する団体で、日本の文化や語学などを世界に伝播、普及
1032	広報不足で一般の人が気軽に利用できないのが残念だ。特殊階層にだけ気配りする。
1041	結論から言うと、非常に良くないイメージを持っている。国際交流基金というそのものの役割について無知な職員達が勤めていることで生じるイメージの損失は大きいといえる。自分本位の日本という国のイメージ伝播の企画なら、むしろやらない方がいいのではと思う。もう少しサービス精神を持ってすべてを運営してほしい。
1042	もっと広く利用できるようにする必要がある。利用したいと考える多くの人々が利用できるようにする必要がある。
1045	日本に関するさまざまな情報の理解を手助けするとともに役に立つところ。日本に関心がある人だけでなく一般の韓国人にも日本を伝えるように広報してほしい。
1048	日本語教育の講座を実施、日本文化を広報
1049	勉強できる雰囲気がいい。日本人と会話ができる。文化交流をもっと積極的に行なってほしい。
1053	日本についての広報機関。映画や文化についてたくさん知ることができる。
1054	必要な教育器資材を送ってほしい。講義の体制がいい。
1055	国際的に日本国を伝えるのに非常に積極的だ。日本人の先生が韓国に同化し独自性を喪失。
1056	図書や雑誌などの資料がよく揃っていていつも感謝している。
1057	さまざまな情報に接することができるのだが、少し閉鎖的と感ずることもある。図書室や展示会などを公開し、一般人のため無料公演を行うが、知っている人だけが来るといふうに感ずります。
1058	日本語講座はとて面白い事業だと思う。ただし、時間帯に少し融通性があればと思う。
1059	日本を理解するのに必要な日本語教育、資料の提供がよくなされている図書館。学校のような。
1060	(図書館)日本に関する資料が豊富なので学校の図書館より頻繁に利用している。もっと神経を使ってほしい部分として、資料のデータベース化がある。この部分が弱いと遠距離の利用者が利用するのに不便な点がある。(講義)いろいろとハイレベルの講座があり、優れた先生が講義をしてくれるのですばらしいと思っている。
1063	日本文化を広報するため積極的に活動する場所

1064	日本文化に関するさまざまなイベントを行うところ
1065	個人的に国際交流基金のいろいろな制度の恩恵を受けたこともあって、とても感謝している。
1076	日本語講座を通じて知るようになったが、日本語学習の質を高めるのにとっても役に立った。この機関でもっと学習する機会があってほしい。
1079	自国の言葉を使う国に対するきめ細かな支援
1080	日本についての教育的な情報が豊富
1081	学生に対する気配りがいい。アクセスが容易(場所がいい)。広報が不足
1084	日本文化に関する講義を偶然の機会に受けたが、もっと早く知っていたなら幅広く参加できたのではと残念に思っている。
1085	韓国で日本のよいイメージを作るために努力しているところ。日本に関する情報が得られるところ。
1087	国際交流基金を通じ、経済力が高く、対外的広報にすごく力を入れているというイメージを持つようになった。
1089	施設がきれいで、日本関連の書籍や参考できる資料が多くていい。
1090	日本語受講をきっかけに知っている程度。利用者の側に立って積極的に活動しているという感じは受けなかったが、改善されつつあると思う。(例えば、土曜日の図書室開放など)
1092	日本に関するさまざまな情報に接しやすいところ。日本に関心がある人は、必ず一回は訪れるべきというイメージと、実際に日本と関わる時大いに役に立つ。
1093	日本語能力試験の主管。各国との文化交流を推進している機関である。昨年(2005年)から実施している“日本理解公開特別講座”は両国間の理解を深めるのに大きな役割を果たしている。国際交流基金が持続的に推進してほしい。
1095	さまざまな文化事業(公演、授業など)を主催しているところだと思っている。
1097	日本文化の関連行事を主催するときに利用
1098	日本の文化援軍として積極的な役割を果たしており、運営上のさまざまな活動を利用する立場から見習うべき点が多いと思っている。
1099	基金を利用する学生や一般人にもっと積極的に情報提供や広報をする必要があると思います。特に、ソウル文化センターの情報文献室は、もっと最新情報が得られるようにしてほしい。セミナーや公演の広報に消極的な感じがする。
1100	日本人ではない外国人に多くの情報や日本に関する広報を行っており、日本語講座も役に立っている。
1101	最新の情報や資料が得られるところ。さまざまな文化プログラムを推進しているところ(各種展示会、教育プログラム)
1102	個人的に関心を持ってみていたからかも知れないが、日本文化を多方面でよく広報していると思う。一方的な日本の紹介ではなく、真の交流の場になってほしいと思う。
1103	日本の対外イメージを国外へ広報。国際交流事業について支援。日本語能力試験(JLPT)を主管。
1104	日本の文化を韓国人に伝えるところ。文化伝播の役割を担当。
1106	日本語講座を受講したことがある。
1107	日本語教育、日本の公演文化を紹介、図書室利用、日本について知りたいとき、一番の情報源になる。

1108	留学プログラム、日本語教育プログラム、各種展示行事、図書を貸出す図書館
1111	講義の内容がもっと多いことを願う。それに一回受講した人でも複数の受講機会を与えてほしい。
1112	詳しくは知りません。日本語能力試験1級保有者を対象に実施する教育があるといわれて申し込んだことがありますが、授業は受けていません。
1113	日本を理解してもらうために多方面で多くの努力を注いでいるところがいい。
1115	文化情報室で日本関連の資料を見ることができるが、あまりにも資料が不足している。日本に関する展示会(?)のようなものも展示されるときがあるが、あまりにも規模が小さく、あまり興味を引かない。
1116	海外で日本を広報する機関で、非常に組織的に動いている。これからの韓日両国間の友好関係強化に民間レベルでの役割が期待される機関です。
1118	他文化との親善交流協力を積極的
1119	日本語学習と日本について学ぶのにいい資料がたくさんあって勉強にとっても役に立ちます。これからも大きく発展してください。
1124	日本に対して肯定的なイメージを与えようと文化交流事業に力を注ぐところに感銘を受けた。特に教育事業に興味がある。
1125	韓日交流、特に文化的交流を通じて韓国に日本を伝える役割をしていると感じた。
1127	日本語能力試験主管機関
1130	ない
1131	あまり知識がないので、特別なイメージはない。
1246	日本文化の交流の場
1247	日本(政府)から予算(一定水準の金額)を貰って、日本という国に対するイメージ事業や文化広報、言語広報などを行い、国際関係に貢献しようと思います。
1248	日本語講座、文化交流
1249	基金の創業者の趣旨と異なるようである。
1250	さまざまな日本の文化を積極的に紹介している。
1252	日本語教育や文化に対する広報が徹底的に行われている。
1256	もっと講義時間を多様化してほしい。
1257	日本語の講義をする。
1259	韓国で日本を広報するために公演や伝統文化を紹介してくれるところ
1260	教育の内容が非常によく、日本の文化に接する機会を提供している。
1261	日本に関する情報、音楽、言語などを手近に触れることができる。政治や文化、時事について行事を通じて関心を持たせるところ。
1262	図書やビデオ資料などが所蔵されていて利用できる。レベルの高い講座が開設されている。
1263	情報がたくさんあるところ
1302	日本語を学ぶ人に質的に高い水準の講義を提供。さまざまな行事を企画。
1313	留学に関する情報提供、日本語学習講座開設(詳しくは知らない)
1314	韓国人に自国の文化を伝えるために努力しているところ

1315	日本語講座や図書室運営、日本関連のさまざまな行事を主催するところ
------	----------------------------------

3) フェローシップ関係者

971	日本の国際外交の役割を担当。文化など、非政治的なレベルで
992	研究者及び文化人の交流に熱意がある。公演などを支援する。
993	“日本研究”、“日本広報”のために惜しみない投資を行なっており、(非常に)相当効果を出していると思う。
994	日本文化を韓国により広く伝えるため、特別法人として役割を担うところ
995	日本文化の現地化に寄与。しかし当該国文化交流の牽引者としての役割は不十分である。
996	日本の対外文化戦略に大いに役立っている。
997	日本文化を理解するために必要な情報や研究基金、資料などを提供
998	日本文化を伝播するため世界各国に文化使節団を派遣するという意味で豊富な資料の提供と情報提供、親日的なイメージ普及など、国家レベルで大いに成功していると思う。両国の関係に非常に効果的な制度だと思う。
999	日本の国際交流に関する全般的なことを統括し、特に日本文化を広く伝えている点で見習うべきである。
1000	きれいな建物、さまざまな展示、閉鎖した事務室
1001	国際交流基金の助成を受けて日本の書籍を翻訳・出版したことがあります。学術的な書籍として関連分野の方々から好評を受けました。著書:所有権の誕生 著者:加藤教授
1002	日本人の誠実さ、きめ細かさが、にじみ出る業務処理方法を見習うべきと感じました。韓日の交流に役に立ついろいろな事業を行なっているのでいい。ただ、一般大衆にもっと開かれた事業を多く行なってほしい。
1003	日本語教育の指導者のための情報や知識を提供する有益な基金。とてもいいイメージの基金だと思う。
1004	事務的過ぎる。誠実に対応してくれた。
1005	事業や韓日間の交流に役に立つ。日本文化を伝えるのにふさわしいところ
1006	とてもいいプログラムである。外国人に事細かに気配りする。
1007	バラエティー豊かなプログラム(交流)。要求をよく受け入れてくれる。
1008	国際交流に関わるいろいろな事業を行っている。
1009	日本や海外でさまざまな日本関連事業を支援している。私自身、何度も国際交流基金の事業に参加したことがあり、事業支援の申し込みをしたこともある。
1010	非常に寛大な、世界最高の fellowship を提供している。
1011	良い趣旨の事業を行なっている。
1012	親切だ。日本語教育に関する充実したプログラムが多い。
1013	欧米志向だ。
1014	外国人学者に良い制度である。
1015	日本の研究、文化を広報する機関
1016	世界各国に日本語および日本文化を紹介し、関連機関を援助したり、教育および研修も担当する機関で、直接支援を受けた者として大変感謝しています。

1017	日本のイメージをよくするために世界のさまざまなところに設置された機関
1018	友好増進のための支援
1019	多くのことを熱心にやっている。ただ、特定の団体や特定の人とのつながりが他のところと比べて強いようで、韓国に関する情報が限られるのではないかと心配している。
1020	日本語の国際化のために努力する機関
1021	国際交流に関わる意欲と実践が多様なところ
1022	韓国で日本について研究したり、学ぼうとする人や団体を支援する制度がある。
1023	日本と海外との学術や文化交流活動を支援している日本の公的機関で、海外の日本研究者、海外の日本研究団体などに情報と交流の機会を提供していると思う。
1024	日本を理解してもらうために一生懸命努力しているイメージ。日本と国際社会のネットワークを15trackする機関
1025	世界的な行事、特に美術展交流のとき、一生懸命に後援する団体
1026	協力的で建設的である。
1029	体系的に業務処理を行う機関であるが、時々意思決定が遅くれるときがある。文化分野での支援事業が多様だ。先進的な事業発掘の能力がある。
1030	博士論文執筆助成金の恩恵を受けたのでよく知っている。経済的にバックアップされるから可能な事業だと思う。長期的に見ると日本を伝える大変大きな役割を担うことになると思う。ただ、私は博士論文執筆で恩恵を受けたが、その期間中、調査のため韓国に来なければならなかったことがあったが、許可が降りず困ったときがあった。
1031	日本の文化や価値を世界の国々に伝え、支援をする基金。一分野にとらわれることなく多分野に渡っていろいろと基金を助成していると思っている。
1035	日本の文化と歴史を世界に伝える機関。国際交流の場。
1036	徹底的だ。国際交流を通じて海外に日本のイメージを植えつけようとする傾向が時に度が過ぎる。(逆効果をもたらすことがある)
1037	韓国と日本の市民社会団体を比較し、よりよいものを得る機会が提供され良かった。互いに文化交流ができる場を設けたことが良かった。
1038	活発な交流活動を展開。(特に日本語の普及や日本文化の海外紹介)
1039	日本語の世界化に努力している。
1040	韓国内の外国文化機関の中で、もっとも活発な活動を展開している。
1047	日本語講座がとても良かった。図書館によく行くが、ビデオ(付帯施設利用)がいい。ただ、土曜日が休みなのが残念だ。
1062	外国人の日本研究を体系的に支援している。
1066	韓日交流に関わる事業に多くの支援をしていると思う。ただ、積極的な広報活動は不足しているようで、一般の人が接近するのは難しいようである。
1067	韓日親善交流や韓日間の相互理解などのために優れたプログラムをたくさん持っており、誠実に努力する団体である。
1068	良い印象を持っている
1069	国際活動に積極的だ。日本文化の伝播のため、さまざまな活動と努力を注いでおり、日本専門家養成のために活動している。

1070	日本に対する外国人の理解を高めるためにさまざまなプログラムを運用しているが、特定地域に偏っている感じがする。プログラムの伸縮性が少し足りないように見える。
1071	国際交流が活発で積極的である。
1072	海外の日本研究者の基金を助成し支援。日本文化の広報。
1073	日本と関わる学者にとっても役に立つ機関で、プロフェッショナルなイメージを持っている。
1074	有益な事業を多く行っている。
1078	いろいろな活動をしている。(在外)
1083	日本に関連のある知識人交流、文化(人)交流、青少年交流などを積極的に支援する機関。韓国の日本関連研究者にはとても役に立つ。
1088	日本を世界に伝えるための機関である。海外で日本語に従事している人間として、いろいろとありがたく思っている。
1105	教育プログラムなどを円滑に運営していることしか知りません。
1109	政府関連機関という先入観があったが、開放的でレベルの高いプログラムを運営、日本に対する批判的な意見も収容する点に好感を持つ。Forum など行事の準備、進行がいい。
1128	日本の文化を効果的に伝えている。
1129	世界に日本の文化を伝えようとする姿勢が非常に積極的な機関
1253	ない
1254	日本の在外交流に大きく寄与
1255	日本研究を支援、文化の海外広報
1264	外務省に所属していて、日本と韓国の関係増進のためにさまざまな支援を行っている団体。
1265	世界でもっとも積極的に文化交流のために関係者たちを支援している機関である。
1266	韓日交流のために努力しており、よい結果を出していると思う。
1267	学問的な交流が活発で、日本文化を伝えるのに力を注いでいる。特に、日本と関わる学者に学問的な支援が多く行われている。
1268	行事を地方にも誘致してほしい。国際文化センター(埼玉県、大阪)を教師たちに多く開放してほしい。
1269	日本語および文化発展に寄与
1270	2年前に研修を受けたことがある。日本語教育にとっても役に立った。もっと多くの機会を与えてほしい。
1271	現職日本語教師のための言語および現地体験研修の実施
1272	韓日間の交流(主に文化交流)窓口
1273	日本語教師研修プログラムの内容がよかった。
1274	多方面にわたる日本研究、それに関連して訪問の研究が必要な場合、訪問研究の機会を与える民間財団
1275	海外に日本国家を広報する役割。韓国の korea Foundation 建設のモデルとなった。文化外交の象徴的な機構として日本の国際化に重大な影響を及ぼしている。
1276	日本語の世界化に寄与
1277	世界各地の日本語専攻者の再・補修教育プログラムを実施することは大変望ましいことだと思う。

1278	日本を中心に多国間の文化事業を行っているということに対して、深く感銘を受けました。
1280	交流活動を熱心に行う団体
1281	この団体を通じて日本を理解してもらおうとする面が強いと感じた。
1282	国際交流基金に感謝する気持ちである。日本を伝えるイメージ戦略的マーケティングが目につく。
1283	目的に沿う事業を行っていると思う。日本という国家に関する広報がうまくできていると思う。
1284	より積極的な広報活動を行なってほしい。(資料の発送)制度についてよくわからないが一部に偏らないようにしてほしい。ソウルに集中しているので大田圏にも機関が設置され、活性化することを願う。
1285	日本を広報するために作られた団体。短い研修期間であったが有益なイメージ、良いイメージ。
1286	活発に活動している。地域的な問題(ソウルにあるので)、地方にないので不便
1289	韓日交流や日本の紹介など、役に立つ機関である。
1290	日本を世界に伝え、日本に関心がある人を支援しようと努力する機関である。
1291	日本を広報するため熱心に活動している。韓日文化交流の拠点を目指している。地方にはあまり知られていない。
1292	国際交流基金を通じて研修に行ってきた。良いことをたくさんやっている。もっと広げてほしい。
1293	日本を積極的に紹介する具体的なプログラム、また、支援の体系がよく備わっている。
1294	韓国と日本の交流を支援するために(非政治的)多くの努力をしている。韓日間に友好的で平和的な関係を築く上で必ず必要な機関である。
1295	日本に対する国際的なイメージを高めるために民間レベルで基金を設け投資しているところ。国際信用の向上に努力するところ。
1296	年齢制限に問題がある。2週間、恩恵を受けたことがある。
1297	日本文化の紹介に積極的である。
1298	親切で、本当に必要な(国際関係において)事業を行っている。
1299	短期研修を経験したので良い。そのときの連載物は有効に使っている。自国の文化や言語を外国人に紹介することはいいことだ。
1300	日本の広報団体
1308	日本外務省傘下団体で、日本と他国との交流増進を通じて両国間の民間外交を遂行。両国間の相互理解増進。
1309	日本や日本語を世界に紹介し、さまざまな情報を提供する団体。
1310	日本語教師のための研修に支援を行なっている。
1311	日本文化の発信と交流のために積極的なプログラムを運営している機関である。
1312	日本に対する理解を深め、イメージを向上させるために支援を行う機関

国際文化交流の評価手法開発研究 中間報告書
—国際交流基金の韓国事業を対象とする第一次調査について—

2007年3月 第1刷発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金

〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32

アーク森ビル20・21F

電話 03-5562-3537

URL <http://www.jpf.go.jp/>

ISBN 978-4-87540-086-8

©2007 The Japan Foundation. Printed in Japan